千葉県文化財センター調査報告第502集

緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線)
埋蔵文化財調査報告書

―館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡―

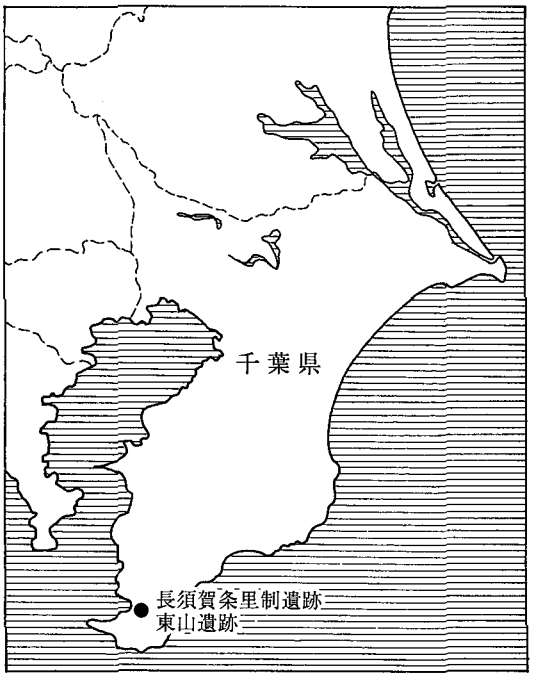
平成17年3月

千葉県県土整備部

財団法人　千葉県文化財センター

緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線)
埋蔵文化財調査報告書

—館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡—



序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，千葉県文化財センター調査報告第502集として，千葉県県土整備部の緊急地方道路整備（県道館山大貫千倉線）事業に伴って実施した館山市長須賀条里制遺跡及び東山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，弥生時代の小区画水田や古代の条里区画水田，縄文時代～中世に及ぶ遺物を含む旧河道など，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係者の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清　水　新　次

凡　例

1　本書は，千葉県県土整備部による緊急地方道路整備（県道館山大貫千倉線）計画に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書は，下記の遺跡を収録したものである。

　長須賀条里制遺跡　千葉県館山市下真倉字引田275－１ほか　(205－002（２))

　東山遺跡　　千葉県館山市作名字南条原681－２ほか　(205－006)

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県県土整備部の委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査および整理作業の担当者並びに実施期間等は，本文中に記載した。

5　本書の執筆は，研究員　城田義友が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，下記の諸機関から多くの御指導，御協力を得た。

　千葉県県土整備部安房地域整備センター，千葉県教育庁教育振興部文化財課，千葉県立安房博物館，館山市教育委員会，財団法人総南文化財センター。

7　本書で使用した地形図は，以下のとおりである。

　第１図　国土地理院発行　1/25,000地形図「那古」「安房古川」「館山」「千倉」(N1-54-26-2-2･4,3-1･3)

　第２図　館山市役所発行　1/2,500地形図「26」「27」

8　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。測量値は日本測地系を使用した。

9　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

本文目次

第１章　はじめに ……1
　第１節　調査に至る経緯 ……1
　　１．地理的環境 ……1
　　２．歴史的環境 ……1
　第２節　遺跡の位置と環境 ……1
　第３節　調査の方法と経過 ……3
第２章　長須賀条里制遺跡 ……9
　第１節　概要 ……9
　第２節　検出された遺構と遺物 ……9
　　１．第１トレンチ ……9
　　２．第２トレンチ……10
　　３．第３トレンチ……13
　　４．その他のトレンチ……14
第３章　東山遺跡……15
　第１節　概要……15
　第２節　確認調査の遺構と遺物……15
　　１．第２トレンチ……15
　　２．第３トレンチ……21
　　３．第９トレンチ……23
　　４．第11トレンチ……23
　　５．第12トレンチ……25
　　６．第13・14トレンチ……26
　　７．第15トレンチ上層……27
　　８．第15トレンチ下層……29
　　９．その他のトレンチ……33
　第３節　本調査区の遺構と遺物……35
第４章　まとめ……47
報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　調査地点と周辺の遺跡 ……2
第２図　調査区と周辺の地形 ……4
第３図　長須賀条里制遺跡グリッド配置図 ……5
第４図　東山遺跡グリッド配置図 ……6
第５図　長須賀条里制遺跡第１トレンチ ……9
第６図　長須賀条里制遺跡第２トレンチ……11
第７図　長須賀条里制遺跡第２トレンチの遺物…13
第８図　長須賀条里制遺跡第３トレンチ……14
第９図　東山遺跡確認トレンチ配置図①……16
第10図　東山遺跡確認トレンチ配置図②……17
第11図　東山遺跡確認トレンチ配置図③……18
第12図　東山遺跡確認トレンチ配置図④……19
第13図　東山遺跡第２トレンチと遺物……20
第14図　東山遺跡第３トレンチ……22
第15図　東山遺跡第３トレンチの遺物……22
第16図　東山遺跡第９トレンチ……24

第17図　東山遺跡第11トレンチ……24
第18図　東山遺跡第９・11トレンチの遺物……25
第19図　東山遺跡第12トレンチと遺物……25
第20図　東山遺跡第13・14トレンチ……26
第21図　東山遺跡第13・14トレンチの遺物……27
第22図　東山遺跡第15トレンチ小区画水田跡……28
第23図　東山遺跡第15トレンチの遺物……29
第24図　東山遺跡第15トレンチ拡張区……30
第25図　東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物①…31
第26図　東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物②…32
第27図　東山遺跡その他のトレンチの遺物……34
第28図　本調査区……36
第29図　本調査区の遺物……37
第30図　本調査区旧河道の遺物①……38
第31図　本調査区旧河道の遺物②……39
第32図　本調査区旧河道の遺物③……41
第33図　本調査区旧河道の遺物④……42
第34図　本調査区旧河道の遺物⑤……43
第35図　本調査区旧河道の遺物⑥……44
第36図　本調査区旧河道の遺物⑦……45
第37図　本調査区旧河道の遺物⑧……46

表　目　次

第１表　長須賀条里制遺跡の遺物①　土器類
第２表　長須賀条里制遺跡の遺物②　土製品･石製品
第３表　東山遺跡の遺物①　縄文土器
第４表　東山遺跡の遺物②　弥生土器
第５表　東山遺跡の遺物③　古墳時代以降の土器類
第６表　東山遺跡の遺物④　土製品・石製品
第７表　東山遺跡の遺物⑤　石器類

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真
図版２　長須賀条里制遺跡　第１トレンチ検出状況，第２トレンチ検出状況・完掘全景
図版３　長須賀条里制遺跡　第２トレンチ完掘全景，第３トレンチ検出状況・完掘全景
図版４　東山遺跡　第２トレンチ完掘全景・検出状況，第３トレンチ検出状況
図版５　東山遺跡　第２トレンチ完掘全景，第３トレンチ（SD－２，ウシ足跡）
図版６　東山遺跡第３～５トレンチ検出状況
図版７　東山遺跡　第７トレンチ・第９トレンチ検出状況
図版８　東山遺跡　第８・10トレンチ検出状況，第11トレンチ旧河道木質出土状況
図版９　東山遺跡　第12トレンチ（SK－１），第13トレンチ完掘前傾，第14トレンチ検出状況
図版10　東山遺跡　第15トレンチ小区画水田跡，SX－１検出状況
図版11　東山遺跡　第15・16トレンチ検出状況
図版12　本調査区　上層検出状況，土層断面
図版13　本調査区　全景①～③
図版14　本調査区　全景④，ピット群全景
図版15　出土遺物①（長須賀条里制遺跡・東山遺跡第２トレンチ）
図版16　出土遺物②（東山遺跡第３・９・11～15トレンチ）
図版17　出土遺物③（東山遺跡第15トレンチ拡張区①）
図版18　出土遺物④（東山遺跡第15トレンチ拡張区②）
図版19　出土遺物⑤（東山遺跡第１・４～６・８・16トレンチ）
図版20　出土遺物⑥（東山遺跡本調査区）
図版21　出土遺物⑦（東山遺跡本調査区旧河道①）
図版22　出土遺物⑧（東山遺跡本調査区旧河道②）
図版23　出土遺物⑨（東山遺跡本調査区旧河道③）
図版24　出土遺物⑩（東山遺跡本調査区旧河道④）
図版25　出土遺物⑪（東山遺跡本調査区旧河道⑤）
図版26　出土遺物⑫（東山遺跡本調査区旧河道⑥）
図版27　出土遺物⑬（東山遺跡本調査区旧河道⑦）

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

千葉県県土整備部は，東京湾アクアラインおよび館山自動車道開通による自動車流入量の増加に伴い，国道128号のバイパスとして一般県道館山大貫千倉線の利用者の増加が見込まれることから，本県道の拡幅および歩道建設工事を計画し，事業地区の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議を重ねた結果，記録保存の措置を講ずることとなり，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

第２節　遺跡の立地と環境（第１図）

１．地理的環境

房総半島南部に位置する館山平野は，北側・東側・南側を丘陵に囲まれ，西側に通称「鏡ヶ浦」と呼ばれる波静かな館山湾に面した弧状の海岸線（北条海岸）を持つ，南北に長い海岸平野である。本平野には南北方向に多くの砂丘列が存在するが，一般にこれらの砂丘列上は集落や畑地，その間の後背湿地は水田として利用されている。また，この平野の北部には富津市南端部に源を発する平久里川，南部には館山市南部の丘陵に発する汐入川という二級河川が館山湾に注いでいる。いずれも過去には幾度も氾濫を繰り返したようで，現在でも多くの旧河道の痕跡を見ることができる。このほかにも多くの小河川があり，館山平野は砂丘列と河川の氾濫などによって形成された自然堤防などが組み合わさって，複雑な地形を呈している。長須賀条里制遺跡（１）と東山遺跡（２）は，このような館山平野の南端部付近に位置する。

２．歴史的環境

長須賀条里制遺跡・東山遺跡の周辺には，千葉県教育委員会による埋蔵文化財分布調査によって多くの遺跡の所在が確認されているが，その多くは詳細不明であった。しかし近年の開発に伴う発掘調査により貴重な成果が得られ，各時代における館山平野の様相が明らかになりつつある。以下，時代別にいくつか例示しておきたい。

まず縄文時代では，出野尾貝塚（３）[1]，宮原貝塚（４）[2]，第１図の範囲外ではあるが大寺山洞穴[3]などがある。出野尾貝塚と大寺山洞穴は海蝕洞穴であるが，後者は千葉大学考古学研究室と館山市教育委員会の調査により，後期の土器や骨角器など多くの遺物が出土した。このほか県指定史跡となっている鉈切洞穴[4]も多くの後期の遺物が出土しており，この時期の洞窟の利用を知る上で重要な資料である。

弥生時代では，東田遺跡（５）[5]，萱野遺跡（６）[6]などが挙げられる。東田遺跡は弥生時代～奈良時代にかけての複合遺跡である。平成８年度と平成９年度に当センターが発掘調査を実施し，弥生時代後期～古墳時代後期の集落跡や水場遺構を検出した。萱野遺跡は弥生時代～中世に至る複合遺跡で，平成11年度と平成14年度に当センターが調査を実施しており，後期の環濠のほか，多くの竪穴住居跡が検出された。両遺跡共に現在整理作業中である。

古墳時代では，墓域として東山遺跡の裏山にあたる南条横穴墓群，峯古墳（７），熊野横穴群（37基）（８），大寺山洞穴が知られる。当地域では高塚古墳はきわめて稀で，横穴墓が多いことが特徴である。大寺山洞穴からは舟を転用した舟葬墓と称される特異な埋葬形態が検出された。出土遺物は豊富で，衝角付

第１図　調査地点と周辺の遺跡（S＝1/25,000）

冑や三角板鋲留短甲などの武器のほか，青銅製の鈴や多くの土師器や須恵器が副葬されていたことから脚光を浴びた。祭祀遺跡では，館ノ前遺跡（9）[7]，大戸入（沼つとるば）遺跡（10）[8]，小網坂遺跡（11）[9]，谷遺跡・新戸遺跡・観音院遺跡（12）[10] などを挙げることができるが，多くは祭祀遺物のみが出土する遺跡であり，祭祀の形態などについてははっきりしていない。そのような中で東田遺跡と長須賀条里制遺跡[11]は，祭祀遺物が遺構に伴って出土した例として重要である。集落遺跡としてはこれまでのところ，前述の東田遺跡，萱野遺跡などが知られるのみである。前者では古墳時代後期の大型掘立柱建物や水際祭祀を伴う大溝，後者では集落のほかに古墳時代前期の古墳周溝など，特記すべき貴重な成果が得られている。

奈良・平安時代では県指定史跡の安房国分寺跡（13）[12]，条里制遺跡としては長須賀条里制遺跡のほか，北条条里制遺跡（14），亀ヶ原条里跡（15），下の台条里跡（16），腰越条里跡（17）[13]，上真倉条里跡（18）などが知られる。この時期も集落はほとんど知られていなかったが，近年東田遺跡と萱野遺跡で検出された。

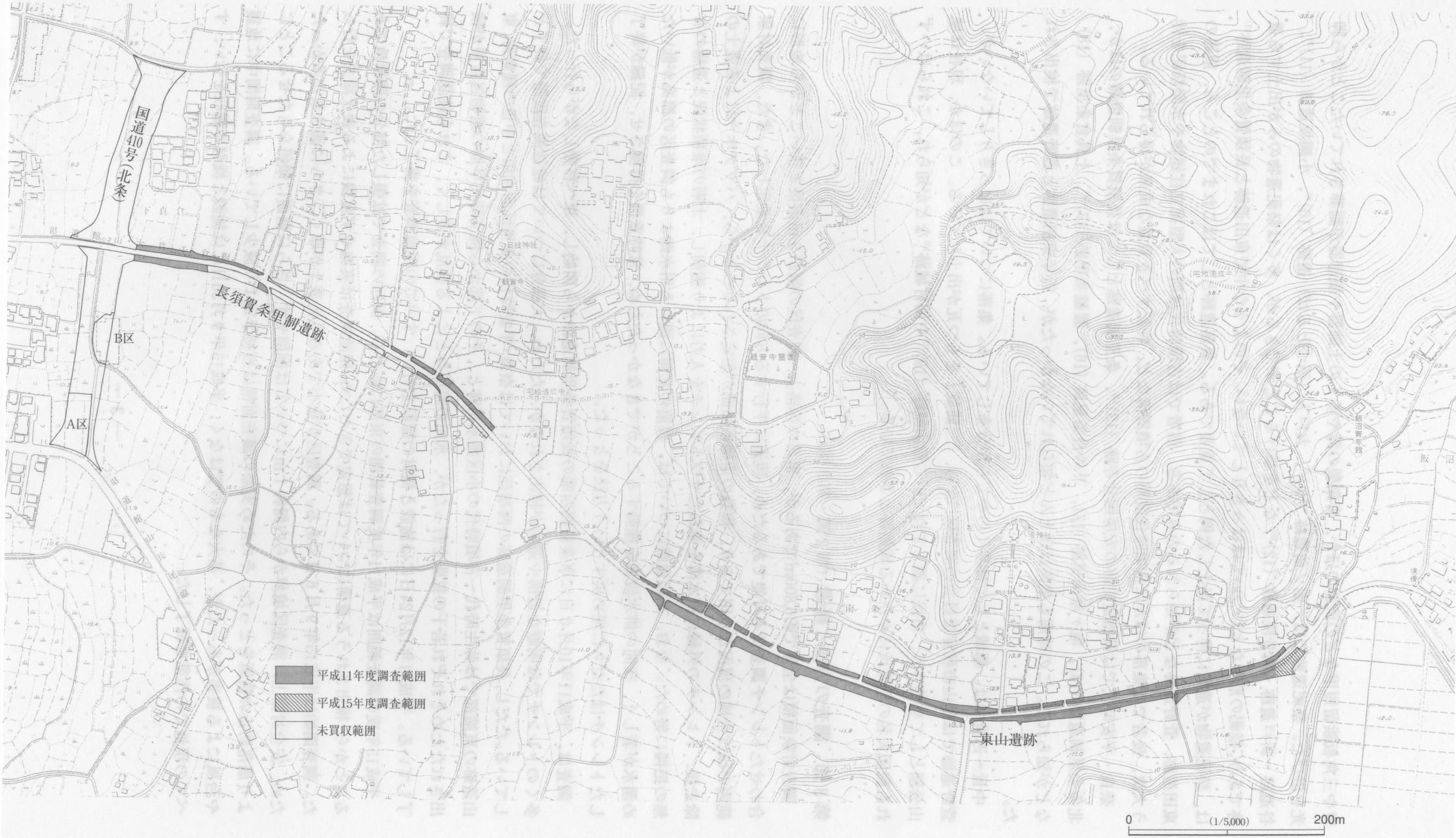
中世～近世では，墓域としては多くのやぐらが分布している。集落についてははっきりしていないが，萱野遺跡では館山市教育委員会の調査区[14]から，「三鱗紋」をもつ瓦が出土している。このほか，現在は城山公園として整備され，市民に親しまれている館山城跡（19）[15]や稲村城跡[16]などが知られ，これらはいずれも戦国大名の里見氏にかかわる城館跡とされている。

第3節　調査の方法と経過（第2図・第3図）

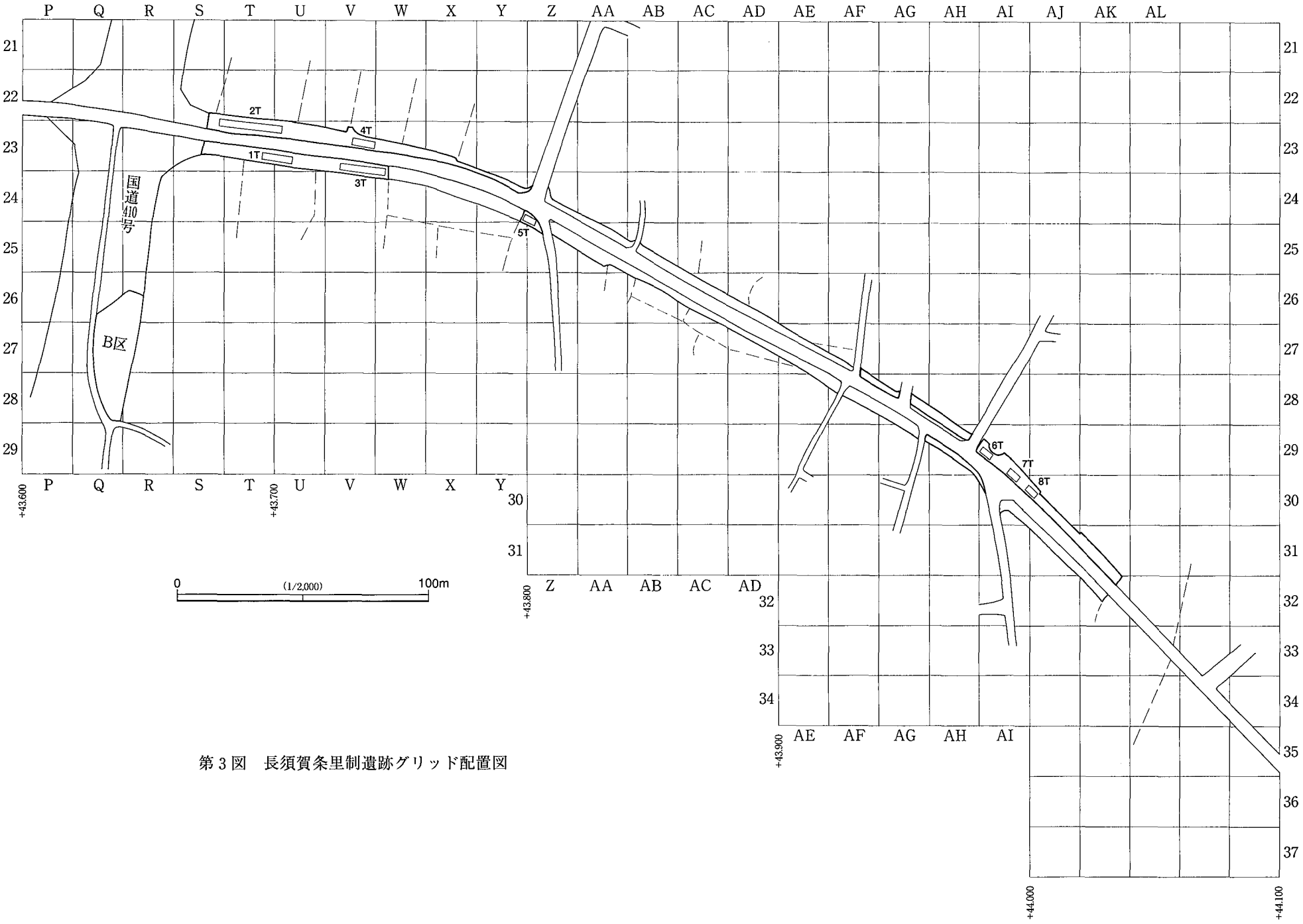
調査対象面積は全体で約6,800㎡であるが，事業の性格上，調査区の幅が5ｍ前後と狭いことから地形に合わせたトレンチ調査は不可能であるため，現道に平行する方向のトレンチを設定した。また，調査対象範囲のほぼ全域の現況が水田であり，複数の遺構検出面が想定されることから，バックホウによる表土の除去後，トレンチの外縁に排水溝を兼ねたサブトレンチを人力により掘削し，土層の堆積状況と遺構の有無の把握に努めた。なお，東山遺跡については，現道の北側に流れる用水路よりも調査区の標高が低いため湧水が著しく，夜間の排水設備を稼動することができなかったため，常時重機を待機させ，記録が終了したトレンチはただちに埋め戻すという方法をとった。

調査は，平成11年10月6日に事業範囲西端の長須賀条里制遺跡から開始し，東へ移動しながら行った。多くのトレンチでは明瞭な遺構や遺物が検出されなかったため，大部分については確認調査段階で終了としている。ただし，長須賀条里制遺跡の西端部においては奈良・平安時代の条里区画水田と中世の屋敷跡，東山遺跡の東端部では弥生時代～古墳時代の小区画水田跡と，その下部から縄文時代早期の遺物包含層が検出されたためそれぞれ若干の拡張を行ったが，水田の暗渠などによる撹乱が著しく，これも確認調査で終了している。平成11年12月24日には施設と機材の撤収を行い，すべての現地調査を終了した。

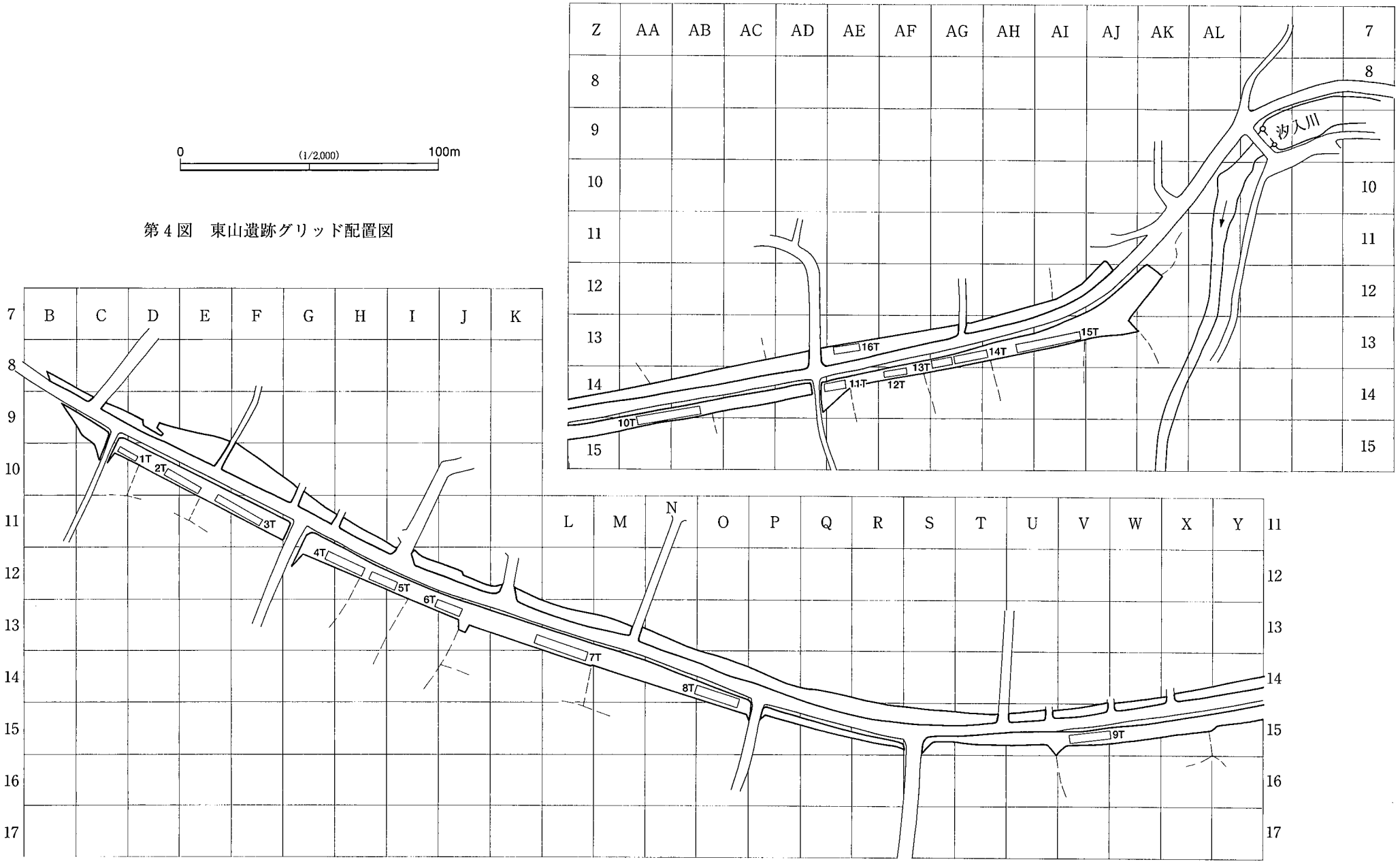
平成15年度の調査範囲は平成11年度調査範囲の東部にあたる。前回の調査で拡張した部分の隣接地であることから，検出されうる遺構については想定できたため，確認調査は実施せず重機による表土除去を行った。調査開始は平成15年9月6日である。調査区が狭小であるうえ表土が厚く，さらに湧水量が多かったため，安全対策上，調査区境界から内側約1ｍについては掘削せず，さらに壁面に傾斜をもたせることにより崩落防止の措置をとった。そのため実際の調査面積は当初予定より減少している。調査期間中に地震や台風による被害があったが，甚大なものではなく，平成15年9月30日には施設と機材の撤収を行い，すべての現地での作業を終了した。



第２図　調査区と周辺の地形



第３図　長須賀条里制遺跡グリッド配置図



第４図　東山遺跡グリッド配置図

当センターの発掘調査では公共座標に基づくグリッド設定を行うが，平成11年度の調査区については確認調査で終了したため，現地調査の段階では工事用の測量杭を用いて実測作業を行った。平成15年度の調査区については，当初から本調査の予定であったため，東山遺跡全体を覆うように20m×20m方眼の大グリッドを設定した。大グリッドは公共座標のX＝－113.0km，Y＝＋3.5kmを基点として東へ１～33，南へA～Zの記号を付した。さらに大グリッド内を２mの小グリッドに分割し，各々の小グリッドを13AJ－22のように表示した。なお，整理作業の段階で，平成11年度の調査区についても，事業者より提供された工事関係の測量杭の座標成果から，グリッドを設定した。その際，長須賀条里制遺跡については国道410号（北条）の調査の際に利用したグリッドを踏襲している。なお，遺物の水洗と注記作業の一部については，現地調査と並行して実施した。

整理作業は平成16年度に実施し，遺物の水洗・注記の一部，記録整理，図面修正，分類，接合・復元，実測，トレース，写真撮影，挿図・図版作成，原稿執筆・編集，校正を行い，報告書を刊行した。また，移管用整理作業も実施し，平成16年度中にすべての作業を終了した。

なお各年度の作業内容，期間，組織，担当職員，面積は以下のとおりである。

平成11年度

長須賀条里制遺跡　（上層確認調査）

期間　平成11年10月６日～平成11年11月12日

組織　南部調査事務所長　高田　博，担当職員　技師　城田義友

対象面積　1,770㎡　上層確認　310㎡，上層本調査　０㎡

東山遺跡　（上層確認調査）

期間　平成11年10月６日～平成11年12月24日

組織　南部調査事務所長　高田　博，担当職員　技師　城田義友

対象面積　4,800㎡　上層確認　580㎡，上層本調査　０㎡

平成15年度

東山遺跡　（上層本調査）

期間　平成15年９月１日～平成15年９月30日

組織　南部調査事務所長　鈴木定明，担当職員　研究員　城田義友

対象面積　231.8㎡　上層確認　－㎡，上層本調査　231.8㎡

平成16年度

長須賀条里制遺跡・東山遺跡　（整理・刊行）

期間　平成16年６月１日～平成16年11月30日

組織　中央調査事務所長　谷　旬，担当職員　研究員　城田義友

参考文献

注１　出野尾貝塚　館山市史編さん委員会 1973 『館山市史』 館山市

２　宮原貝塚　財団法人総南文化財センター　2002『年報』№12　財団法人総南文化財センター

３　大寺山洞穴　岡本東三 1997－1999『館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅲ　大寺山洞穴遺跡調査会

４　鉈切洞穴　金子浩昌・和田 哲ほか 1958 『館山市鉈切洞窟の考古学的調査』 早稲田大学考古学研究室

５　東田遺跡　城田義友･吉野健一　1999 「安房の古墳時代祭祀」『研究連絡誌』53　財団法人千葉県文化財センター

財団法人千葉県文化財センター　1998『年報』№24　財団法人千葉県文化財センター

６　萱野遺跡　財団法人千葉県文化財センター　2003－2004『年報』№27･№28　財団法人千葉県文化財センター

７　館ノ前遺跡　森谷ひろみ　1966 「祭祀対象不明の祭祀遺跡とその沖積地質について～館山市東長田および大戸館ノ前の場合」『千葉大学文理学部紀要』４　千葉大学

８　大戸入（沼つとるば）遺跡　森谷ひろみ　1971 「千葉県館山市沼つとるば祭祀遺跡の発掘結果からみた遺跡付近の小地誌」『千葉大学教養学部研究報告』Ｂ－４　千葉大学

９　小網坂遺跡　館山市史編さん委員会 1973 『館山市史』 館山市

10　谷遺跡・新戸遺跡・観音院遺跡　森谷ひろみ 1971 『式内社の歴史地理学的研究』 雄山閣

財団法人総南文化財センター　2002『年報』』12　財団法人総南文化財センター

11　長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡　高柳義春　1995 『長須賀条里制遺跡発掘調査報告書』 長須賀条里制遺跡調査会

財団法人総南文化財センター　2002『年報』№12　財団法人総南文化財センター

高梨友子ほか　2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡』 財団法人千葉県文化財センター

12　安房国分寺跡　館山市教育委員会 1980 『安房国分寺』 館山市教育委員会

13　腰越遺跡　財団法人総南文化財センター　1998『年報』№10　財団法人総南文化財センター

14　萱野遺跡　財団法人総南文化財センター　1998・2000『年報』№10・ №11　財団法人総南文化財センター

15　館山城跡　館山城跡調査会 1978－1980 『館山城跡調査概報』第１次～第３次 館山市・館山市教育委員会

第４次館山城跡調査会 1987 『館山城跡第４次調査報告書』 館山市・館山市教育委員会

16　稲村城跡　財団法人総南文化財センター　2002『年報』№12　財団法人総南文化財センター

第２章　長須賀条里制遺跡

第１節　概要（第２図）

今回の事業範囲の西端に位置する。事業の対象となる部分の面積は2,857㎡だが，調査時点で未買収の部分があったため，調査を実施した面積は1,843㎡である。西端は国道410号（北条）バイパスの事業範囲に隣接しており，当該調査範囲で最も近い調査区は小区画水田を検出したＢ区と，ＡＢ区第３トレンチだが，今回の調査区の西隣では遺構は検出されていない。各地点の現標高は第２トレンチ西端付近で9.4m，第４トレンチ東端で9.7m，道路北側の未買収地の西端付近が12.4m，中央付近が13.4m，東端付近が14.3mで最も高く，その東側の第６トレンチ付近は14.1mである。大まかに東から西に向かって傾斜している様子がうかがえる。確認面も同様の傾斜が認められるが，現地表面より標高差が大きい。これは遺跡北側の丘陵の尾根筋が埋没して未買収範囲周辺に延びていることを示している。

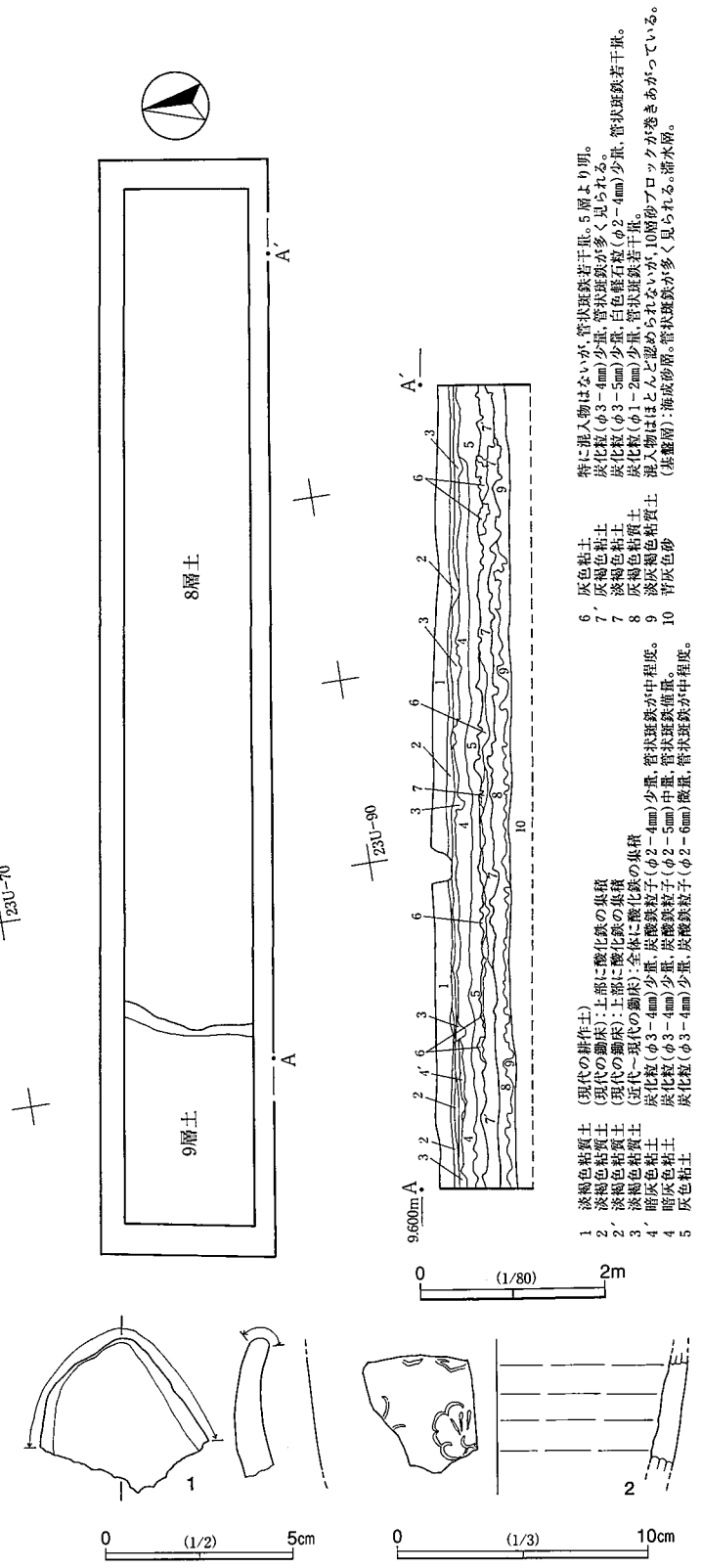
検出された遺構は古代の溝状遺構，中世のピット群と溝状遺構である。

第２節　検出された遺構と遺物

１．第１トレンチ（第５図，図版２・15）

概要

調査区西端，現道の南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.8m～0.9mで，周辺の堆積状況（国道410号バイパスのＢ区など）と比べると堆積土はかなり厚い。土層は遷移層を含め，13層程度に分けられたが，大きくは，淡褐色系の上層（１層～３層），灰



第５図　長須賀条里制遺跡第１トレンチ

色系の中層（4′層～7層），灰褐色系の下層（8層・9層）にまとめられる。本トレンチの出土遺物は極めて少量であったが，遺物の時期から勘案すると，おおむね上層が近代以降の耕作土，中層が中世末～近世段階の耕作土，下層が古代～中世の耕作土と考えることができる。層位的に3面程度の耕作土を確認したことになるが，調査範囲が狭かったため，畦畔や水路といった明瞭な遺構は検出できなかった。第5図の平面図に図示したものは8層（下層）上面の段階であり，東から西に傾斜している。トレンチ東部の1/3程度の範囲では明瞭に8層が検出されたが，その西側では8層は残っておらず，同等レベルで9層が検出された。8層検出範囲と9層土検出範囲の境はトレンチ西部ではやや東に振れた南北方向であり，国道410号バイパス調査区のA区で確認された条里型水田の方向性ともほぼ合致することから，旧地形の緩斜面を利用した条里型水田区画の境を示す可能性がある。

遺物（第5図）

古墳時代～奈良・平安時代の土師器，中世・近世の陶磁器が出土したが，量は僅少でほとんどが小破片であったため，図示し得たのは2点のみである。1は常滑系の甕の破片を転用した砥石，2は印花紋を施した瀬戸の灰釉瓶子で花瓶Ⅰb類（中型仏花瓶）と呼ばれるものである。

2．第2トレンチ（第6・7図，図版2・3・15）

概要

調査区西端，現道の北側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.4m～0.5m程度で，第1トレンチと比べると堆積土はかなり薄いが，国道410号（北条）調査区のAB区第3トレンチとほぼ同程度の厚さである。堆積土は遺構の覆土を除けば3層に分けられたが，1・2層が暗褐色系粘質土，3層が暗灰色粘土であり，概ね上下2層にまとめられる。出土遺物から上層が近代～現代の耕作土，下層が近世の耕作土と考えられる。遺構は溝状遺構（11条）とピット群が確認された。

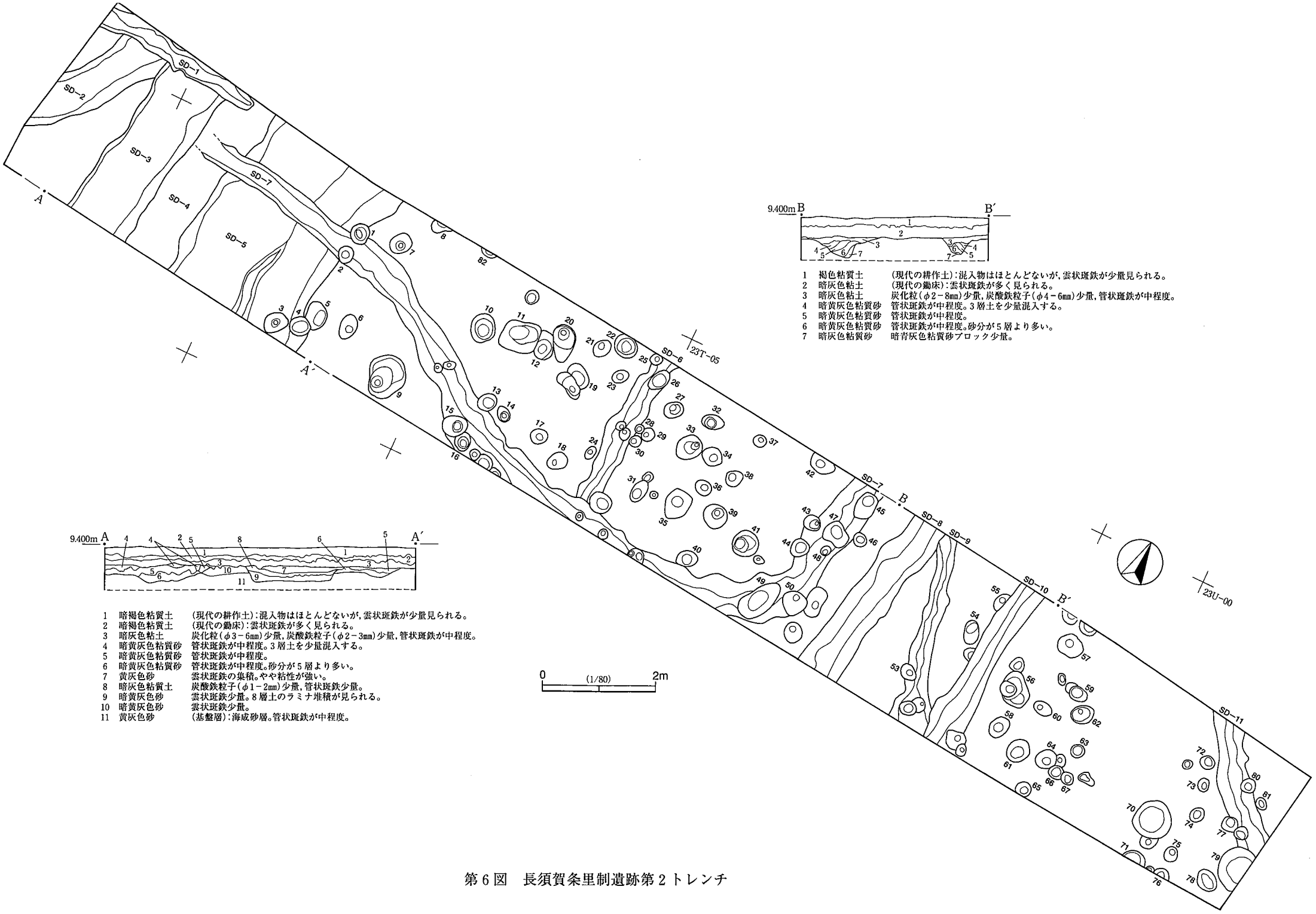
遺構

SD－1　トレンチ北西隅で検出された東西方向の溝状遺構である。重複関係からSD－2・3より新しい。幅0.3m～0.4m，深さは最も深い箇所で0.1m程度である。覆土は灰褐色系粘質土の単層で，遺物は出土しなかった。

SD－2　トレンチ西端で検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD－1・3より古い。幅1m前後，深さはもっとも深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は黒色もしくは黒褐色の粘質土で，本トレンチで検出された溝の中では異色である。覆土の状況から古墳時代あるいはそれ以前の時期の可能性が考えられたが，遺物は出土していないので断定できない。

SD－3・5　トレンチ西部で検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD－4・7より古く，SD－3はSD－2より新しい。共に幅1.2m前後，深さは最も深い箇所でも0.1m程度で，両者の間隔は2.4m前後である。国道410号（北条）調査区のA区で検出された条里坪畦畔のうち東側のものの延長線上にあたることからこの続きの坪畦畔となる可能性がある。覆土はシルト分の多い砂質土を主体とする。遺物は出土しなかった。

SD－4　トレンチ西部，SD－3と5の間に検出された南北方向の溝状遺構である。重複関係からSD－5より新しく，SD－7より古い。幅1.5m前後，深さは最も深い箇所で0.1mを僅かに超える程度である。覆土は上層と下層が砂を主体とし，中層に粘質土が挟まる。ラミナ等の堆積状況は見られないことから緩流性もしくは止水性の堆積と考えられる。遺物は土師器の小破片が出土したが図示できるものはない。性



1 暗褐色粘質土 (現代の耕作土):混入物はほとんどないが,雲状斑鉄が少量見られる。
2 暗褐色粘質土 (現代の鋤床):雲状斑鉄が多く見られる。
3 暗灰色粘土 炭化粒(φ3−6㎜)少量,炭酸鉄粒子(φ2−3㎜)少量,管状斑鉄が中程度。
4 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。3層土を少量混入する。
5 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。
6 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。砂分が5層より多い。
7 黄灰色砂 雲状斑鉄の集積。やや粘性が強い。
8 暗灰色粘質土 炭酸鉄粒子(φ1−2㎜)少量,管状斑鉄少量。
9 暗黄灰色砂 雲状斑鉄少量。8層土のラミナ堆積が見られる。
10 暗黄灰色砂 雲状斑鉄少量。
11 黄灰色砂 (基盤層):海成砂層。管状斑鉄が中程度。

1 褐色粘質土 (現代の耕作土):混入物はほとんどないが,雲状斑鉄が少量見られる。
2 暗灰色粘土 (現代の鋤床):雲状斑鉄が多く見られる。
3 暗灰色粘土 炭化粒(φ2−8㎜)少量,炭酸鉄粒子(φ4−6㎜)少量,管状斑鉄が中程度。
4 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。3層土を少量混入する。
5 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。
6 暗黄灰色粘質砂 管状斑鉄が中程度。砂分が5層より多い。
7 暗灰色粘質砂 暗青灰色粘質砂ブロック少量。

第6図 長須賀条里制遺跡第2トレンチ

格ははっきりしないが，本遺構より東側にピット群が存在するが西側には存在していないことから，居住域の区画溝の可能性が考えられる。

SD－6　トレンチ中央付近から検出された南北方向の溝状遺構である。SD－7及び重複するすべてのピットより古い。幅0.5m前後，深さは最も深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は粘質砂を主体とする。遺物は出土しなかった。

SD－7　トレンチ中央付近で東西方向から北に向きを変える溝状遺構である。重複するすべての溝より新しく，重複するすべてのピットより古い。幅0.5m～0.8m，深さは最も深い箇所でも0.1mに達しない。覆土は灰褐色系粘質土の単層で，遺物は出土しなかった。

SD－8・10　トレンチ東部で確認された南北方向の溝状遺構である。SD－9及び重複するすべてのピットより古い。いずれも幅0.5m～0.7m，深さは最も深い箇所で0.4m程度，両者の間隔は1.5m～1.8mである。覆土は粘質砂を主体とし，SD－8・10の間からの流れ込みによる堆積の様子が観察できた。性格ははっきりしないが，前述のSD－3・5と方向が一致し，SD－5とSD－8との間隔が10m弱であることから，条里型水田の南北小畦畔である可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器の小破片のほか，上層から中世の陶器類が出土している。

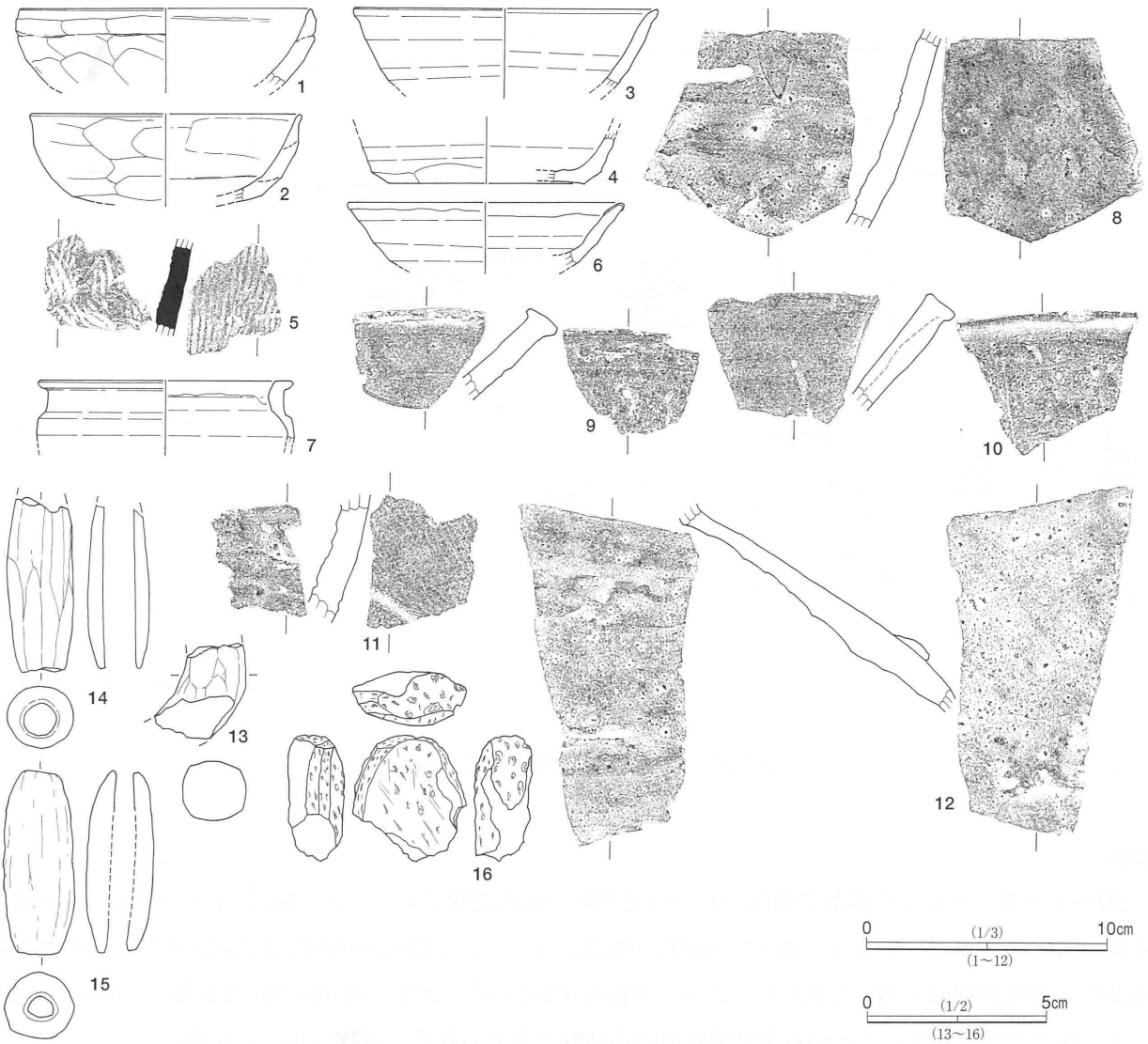
SD－9　トレンチ東部，SD－8・10の間で検出された溝状遺構である。SD－8・10より新しく，重複するすべてのピットより古い。幅0.3m～0.5m，深さは最も深い箇所で0.1mに達しない。覆土は暗灰色粘土の単層で，遺物は多くないが上層から中世の陶器等が出土している。

SD－11　調査区東端部で検出した溝状遺構である。他の溝状遺構とは重複しないが，重複するすべてのピットより古い。幅0.5m前後，深さは最も深い箇所で0.1mを僅かに超える程度である。方向は北西－南東で，覆土は黒褐色粘質シルトが主体の単層であることなど，SD－2と並び本トレンチ内の溝状遺構としては異色である。遺物は出土しなかった。

ピット群　SD－4より東側のほぼ全面から検出された。総数は116基である。それぞれ重複する溝状遺構より新しいが，SD－7と重複するものについてはこれより古い。平面形は円形もしくは楕円形で直径0.3m～0.8m程度，深さは概ね0.2m～0.5m程度である。P－10・20・22・82をはじめとして掘立柱建物として認識することのできる組合わせも複数あるが，いずれも柱穴間の距離などが同一でないため，建物とするには若干の躊躇を感じる。ただ，柱材の残るピット（P－1・3・4）も検出されていることから，これらのピットが何らかの柱穴として利用されていたことは確実であろう。遺物はほとんど出土していないが，P－55とP－78，P－22から図示可能な遺物が出土している。

遺物（第7図）

出土量は第1トレンチと比較すると明らかに多いが，小破片が多い点は変わらず，図示し得た遺物は全体の量の一部にとどまる。1・2・4・6・10・13・16はトレンチ覆土の中層～下層，3・12は拡張部分の中層～下層，5はP－55，8・14はSD－009の上層，9はP－78，11はSD－008，15はP－22から出土した。1・2は土師器杯で，いずれも体部外面は横方向のヘラケズリ，内面はヘラナデにより調整している。3・4はいわゆるロクロ土師器で，3についてははっきりしないが，4は体部下端を手持ちヘラケズリにより調整している。5は須恵器甕の胴部で，外面にはタタキ目，内面にはいわゆる青海波と呼ばれる当て具痕が明瞭に残る。6・7は古瀬戸窯製品で，6が縁釉小皿，7が袴腰形香炉である。いずれも古瀬戸後期様式第Ⅲ期に比定される。8～12は常滑窯製品で，8・11・12が甕の体部，9・10が片口鉢の口縁



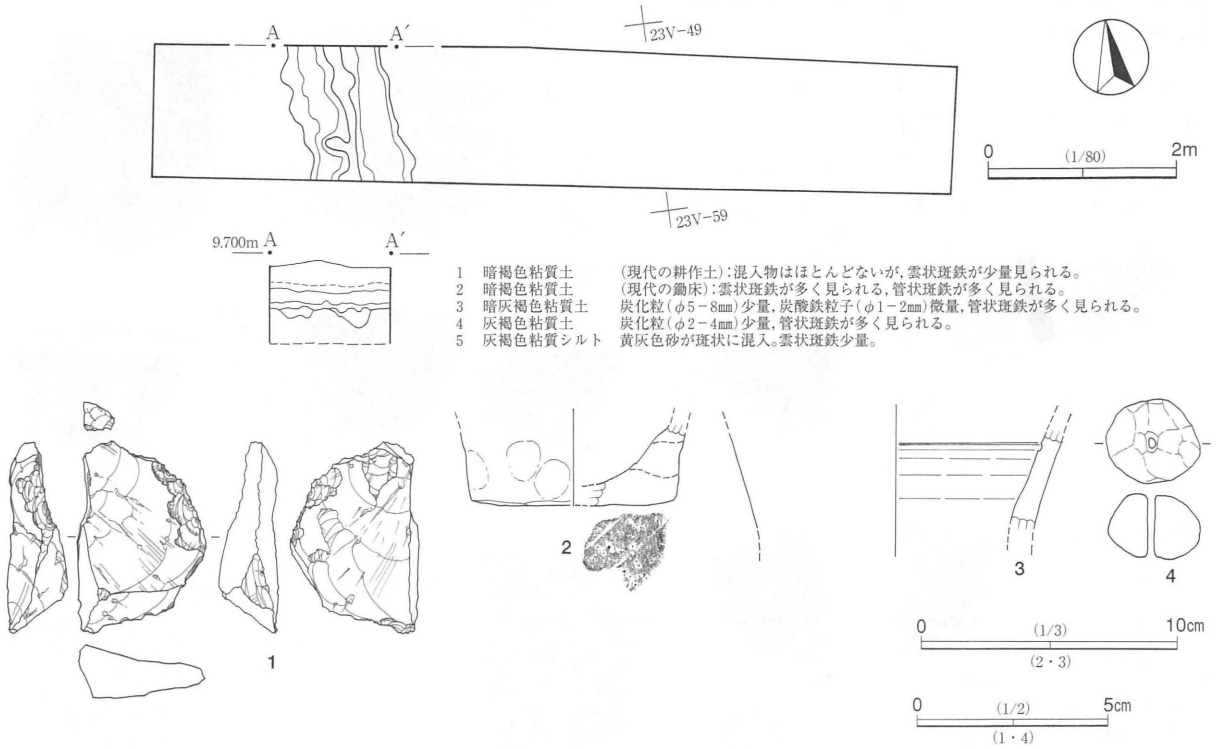
第７図　長須賀条里制遺跡第２トレンチの遺物

部である。８・12は外面に暗オリーブ灰色の釉がかかる。９・11はいずれも口縁端面は体部の傾きに対してほぼ直角で，上下に拡張される傾向がみられる事から常滑窯10型式（15世紀後半），12は体部の傾きから常滑窯５型式以降（13世紀後半以降）と考えられる。13は上下の欠損した勾玉形の土製模造品，14・15は管状土錘である。16は軽石製品で，下部を欠損するが，上面，下面，側縁のいずれもに平坦面が形成されており，やや不明瞭ながら擦痕も観察されることから砥石と考えられる。

３．第３トレンチ（第８図，図版３・４・15）

概要

調査区西部，第２トレンチの東側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.3m～0.4m程度で第２トレンチとほぼ同程度である。堆積土は遺構の覆土を除けば４層に分けられたが，１・２層が褐色系粘質土，２・４層が灰褐色系粘質土であり，実質的には上下２層にまとめられる。出土遺物から，第２トレンチと同様，上層が近代～現代の耕作土，下層が近世の耕作土と考えられる。遺構は溝状遺構（２条）が確認された。



第８図　長須賀条里制遺跡第３トレンチ

遺構

SD－１・２　トレンチ西部で検出された南北方向の溝状遺構である。共に幅は0.4m～0.6m，深さは最も深い箇所で0.2m程度である。覆土は灰褐色の粘質シルトで，基盤層の砂が斑状に混入する。この２条の溝は0.2m程度の間隔をおいて並行しており，方向も国道410号（北条）調査区Ａ区及び第２トレンチのSD－８～10とほぼ合致することから条里型水田の小畦畔と考えられる。遺物は出土しなかった。

遺物（第８図）

いずれもトレンチ覆土下層の一括出土遺物である。１は黒曜石の削器で，貝殻状剥片を半割し，側縁を調整することによって鋭利な刃をつくりだしている。２は土師器粗造土器の鉢で，外面には指頭押捺痕，底部には木葉痕を残す。３はいわゆる「締腰型」と呼ばれる古瀬戸灰釉瓶子の体部で，外面には暗オリーブ灰色の釉がかかっている。４は土玉である。

４．その他のトレンチ（第３図）

このほか，第１トレンチの東側に第４トレンチ，調査範囲中央付近の道路南側に第５トレンチ，東端付近の道路北側に第６～８トレンチを設定したが，遺構は検出されず，遺物も僅少で図示できるものはなかった。

第３章　東山遺跡

第１節　概要（第９図～第12図）

今回の調査範囲は当初，南条遺跡と呼んでいたが，隣接する東山遺跡との差が不分明であったため，館山市教育委員会の要請により，東山遺跡と呼称することになった。長須賀条里制遺跡の東端から東に200mほど離れた事業範囲の中央付近から東端の汐入川に至る範囲である。東山遺跡の周知範囲における事業の対象面積は5,158㎡で，当初時点での未買収範囲は虫食い状に207.2㎡であるが，後述の通り周辺から遺構が検出されなかったため，買収後もこの部分については調査不要とした。このほか東端部に当初の対象範囲に入っていなかった231.8㎡がある。また，買収済みであっても，現道からの段差や法面，水路が通っていたり，狭小であったりしたため，実際には調査不可能な部分が625.1㎡を占める。それでも調査可能と判断した4,951.5㎡についてはできる限りトレンチを入れ，状況の把握につとめた。トレンチの総数は16か所で，うち３か所については拡張した。また，東端部については前述の通り平成15年度に全面確認により調査を実施している。調査範囲の現標高は，東端部第15トレンチ付近の17.4mが最も高く，西端の第１トレンチ付近が13.4m，第４トレンチ付近が12.2m，第７トレンチ付近が13.0m，中央部の第９トレンチ付近が13.3m，東部の第11トレンチ付近が10.4mである。調査範囲の西端と東端との距離は約１kmであるが，その中での標高差が僅か４mに満たない。しかし基盤層の高さには６m強の高低差がある。このことは今回の調査範囲が丘陵から若干離れているため，丘陵から延びる尾根筋が完全に地表面下に埋没してしまっていることを示している。

検出された遺構は，小区画水田跡，溝状遺構，旧河道，土坑，井戸，水路，掘立柱建物跡などである。遺物量は多くはないが，縄文時代早期～晩期，弥生時代中期～古墳時代前期，古墳時代後期～奈良・平安時代，中近世に至るさまざまな時代の遺物が出土した。

第２節　確認調査の遺構と遺物

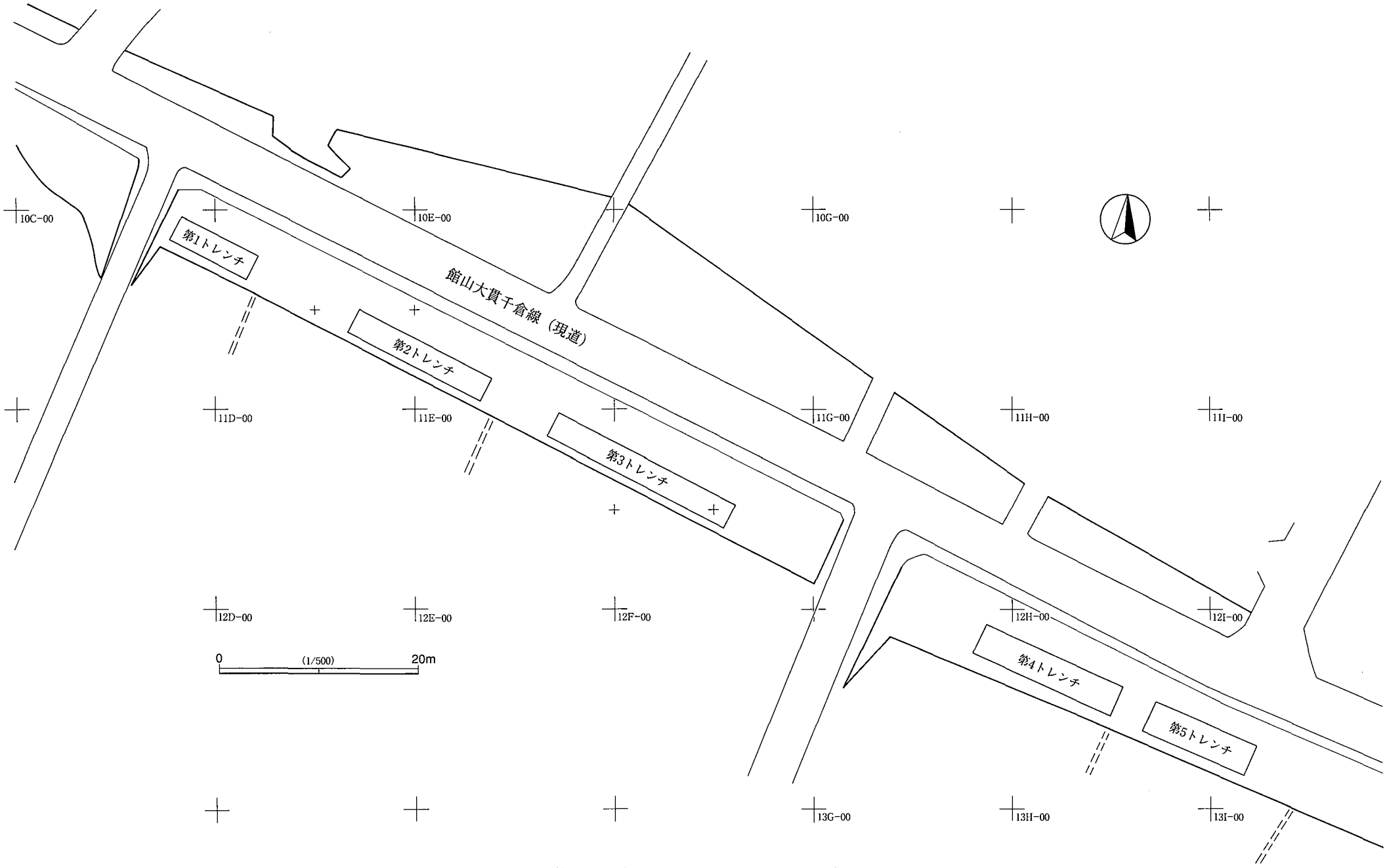
１．第２トレンチ（第13図，図版４・５・15）

概要

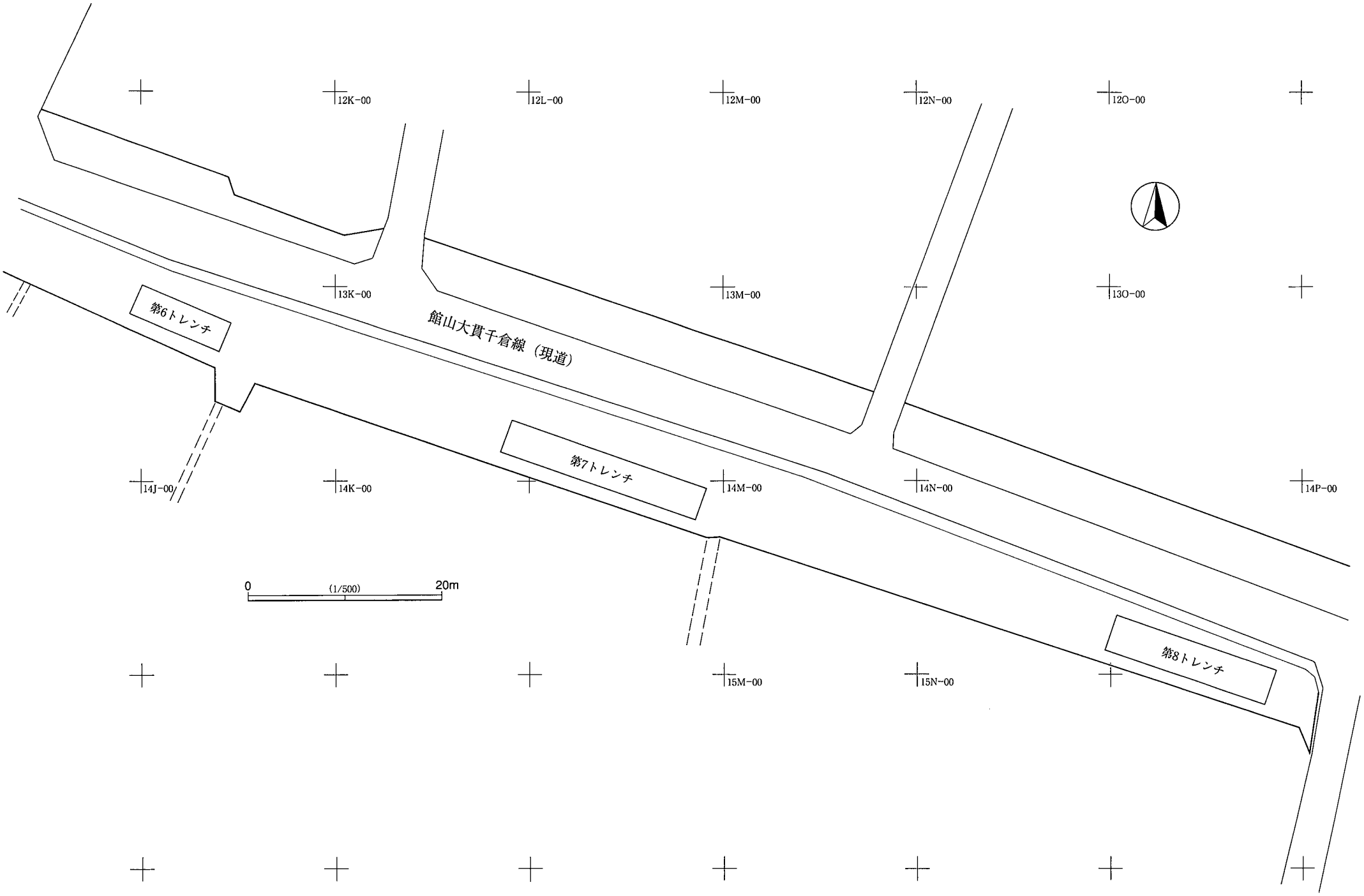
調査区西端の現道南側（第１トレンチ東端の東側８mの位置）に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までの深さは0.3m～0.4m程度で非常に浅い。堆積土は遺構の覆土を除くと，ごく近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土の単層で，遺構の検出面はこの粘質土層直下の10層上面である。遺構は溝状遺構，土坑などが確認された。

遺構

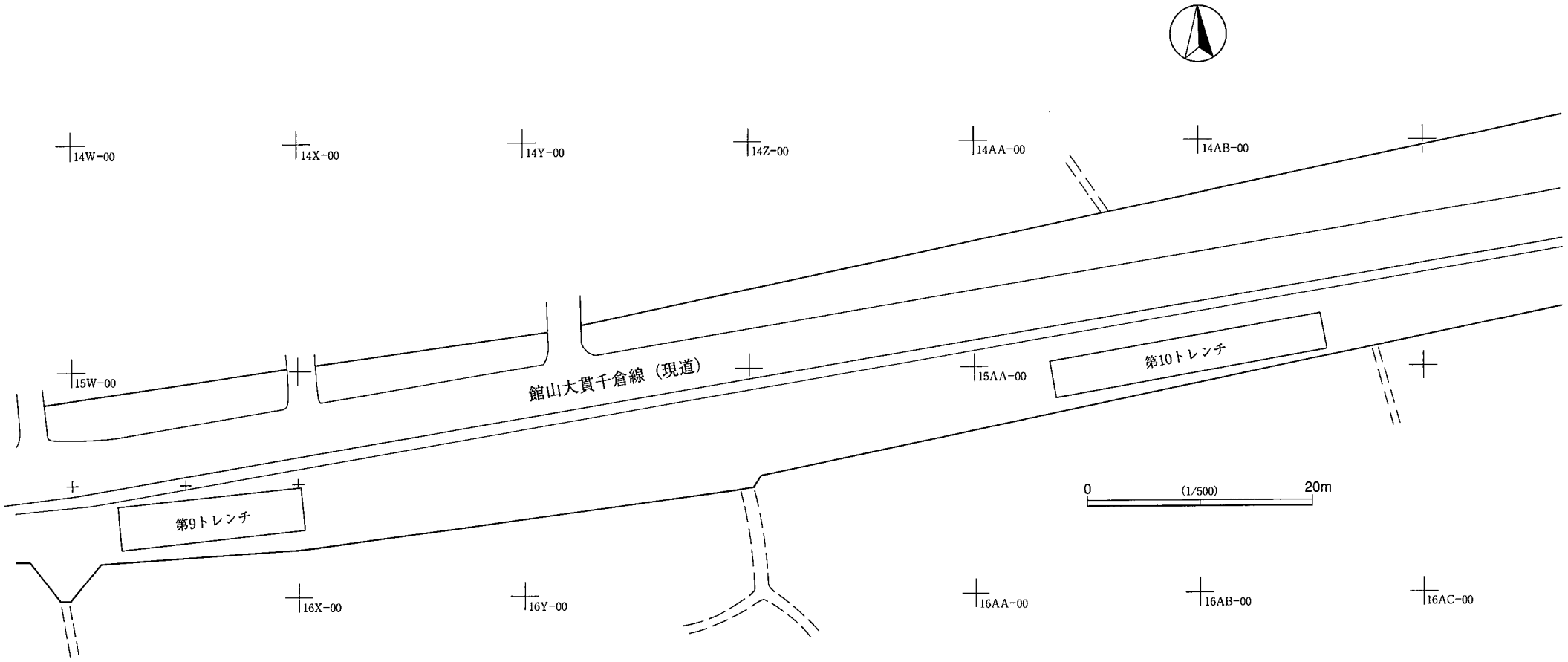
SD－１　本トレンチ西部で検出された溝状遺構である。他の遺構との重複関係はない。幅1.4m～1.5m，深さは最も深い箇所で0.3m～0.4m，底面レベルは概ね北西から南東方向に傾斜している。断面はきわめて浅い逆台形で，西北西から東南東方向で直線的に伸びている。覆土はシルトもしくは砂質が中心で，ラミナ堆積が比較的顕著に発達し，木質の小片を多く含む層（９層）が認められることから，水路もしくは流路として利用されていたものと考えられる。遺物は古墳時代～平安時代の土師器小片が若干量出土してい



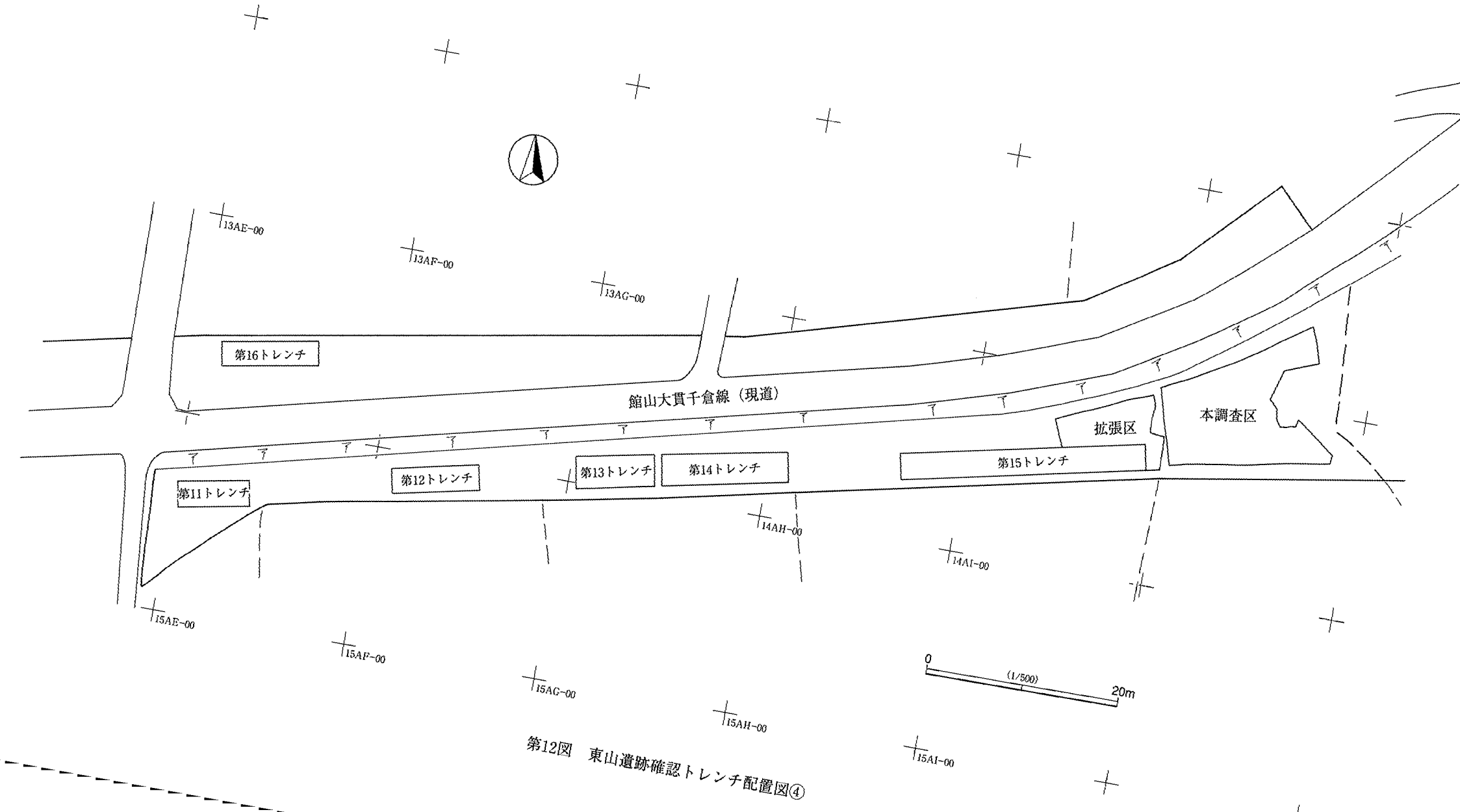
第９図　東山遺跡確認トレンチ配置図①



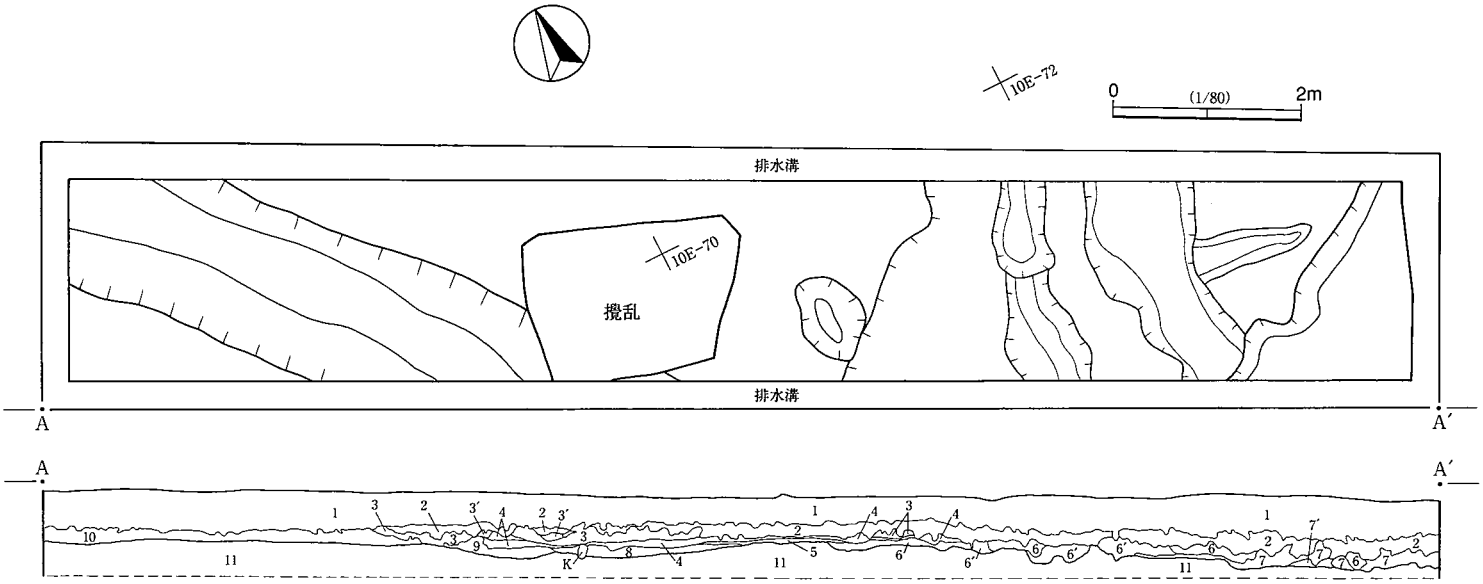
第10図　東山遺跡確認トレンチ配置図②



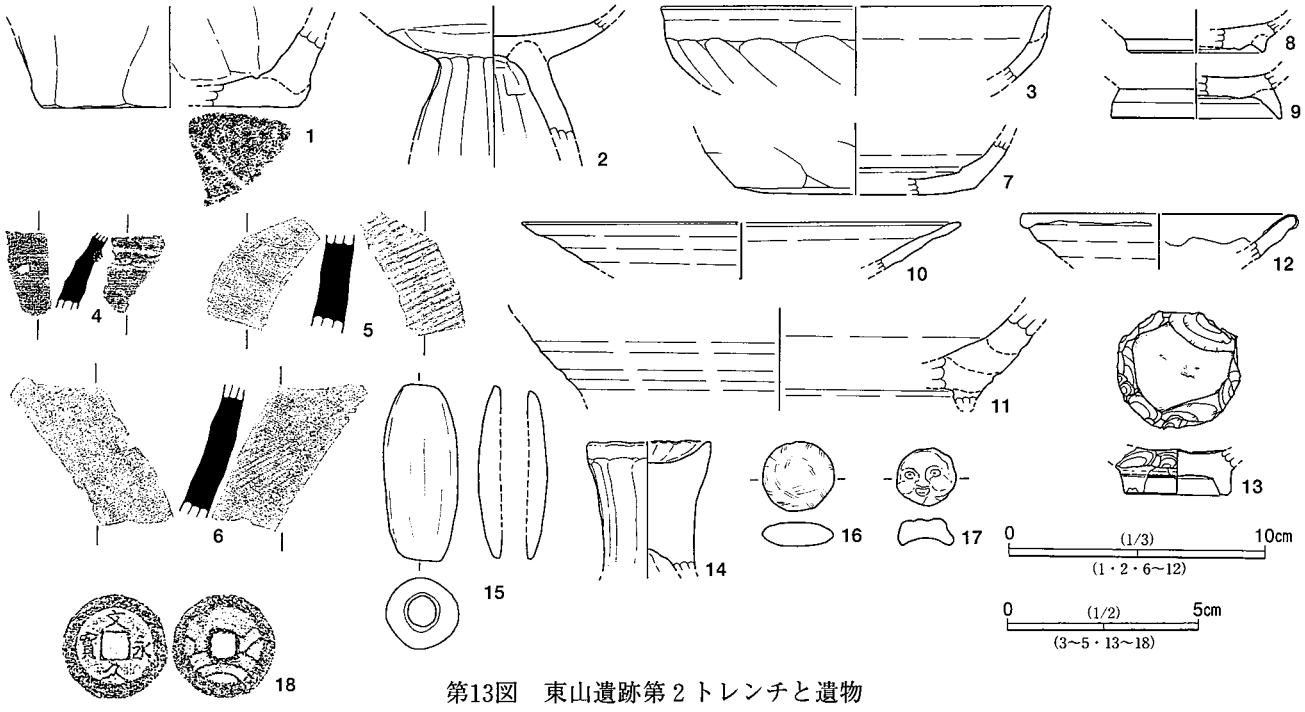
第11図　東山遺跡確認トレンチ配置図③



第12図　東山遺跡確認トレンチ配置図④



1　灰褐色粘質土　(現代～近代の耕作土・鋤床)
2　暗褐色粘土　(近世の耕作土)
3　暗黄褐色粘質砂　炭酸鉄粒子(φ1－3㎜)少量，木片をやや多く含む。
3′　暗黄褐色粘質砂　炭酸鉄粒子(φ1－3㎜)少量。
4　暗黄褐色粘質シルト　炭酸鉄粒子(φ1－2㎜)少量。
5　黄褐色粘質砂　混入物はほとんど認められない。
6　暗黄灰色砂　粒径の異なる粒子のラミナ堆積が見られる。
6′　暗黄灰色砂　7層土ブロック少量。
7　暗褐色粘土　混入物はほとんど認められない。
7′　暗褐色粘土　暗黄灰色砂ブロック少量。
8　暗黄灰色砂　粒径の異なる粒子のラミナ堆積が見られる。
9　暗褐色泥質土　木片を多く含む。
10　黄褐色粘質砂　混入物はほとんど認められないが，粒径の異なる粒子のラミナ堆積が見られる。
11　黄灰色砂　(基盤層)：海成砂層。管状斑鉄が中程度。



第13図　東山遺跡第２トレンチと遺物

るが，図示し得るものはない。

SD－２　本トレンチ東部から検出された南北方向の溝状遺構である。断面は逆台形に近く，幅0.2m～0.4m，深さ0.1m程度で，底面は概ね北から南へ傾斜している。覆土はシルトを主体とし，やや細かい砂や暗褐色粘質土の混入するラミナ堆積が認められる。遺物は出土しなかった。

SD－３　本トレンチ東部から検出された南北方向の溝状遺構である。幅0.4m～0.6m，深さは0.1mに満たない。底面は概ね北から南へ傾斜している。覆土はSD－２とほとんど同様で，ラミナ堆積が認められる。遺物は出土しなかった。

SX－1　トレンチ東端部で確認された段差であるが，遺物が比較的多く出土したため，その他の遺構として扱った。断面観察からSD－3より古い。段差の肩は東におよそ30°振れた方向で伸び，深さは0.1m～0.2m，底面にはやや顕著な凹凸がある。覆土は上層では砂を中心とするが，下層では暗褐色粘土やシルトを中心とし，それぞれ互いにブロック状になったものの混入が見られる。古墳時代～中世初期の遺物が出土している。

遺物（第13図）

1・5・10・11・14はSX－1の覆土（7層）から，2～4・6～9・12・13・15は検出面（10層上面），16～18はSX－1の2層中から出土した。1～3は土師器で，1は底部に木葉痕を残す甕，2は筒状の脚部に杯部をはめ込むタイプの高杯，3は体部に斜め方向のヘラケズリを施した杯である。4～6は須恵器甕で，4が口縁部，5・6は胴部の破片である。後者は外面にタタキ目を残すが，内面の当て具痕はケズリによって取られ，その後ヘラナデを施されている。7は非ロクロの土師器杯で，体部と底部には手持ちヘラケズリを施す。8～10はロクロ土師器である。8・9は炭素吸着による内面の黒色処理を行った高台付杯で，10はやや大ぶりの皿である。11は瓷器系陶器，いわゆる山茶碗系の片口鉢である。胎土は石英粒などを多く含む粗いもので南部系のものと考えられる。12は古瀬戸縁釉皿の口縁部で，器形や厚みから卸皿となる可能性がある。13は染付碗で，体部はすべて打ち欠かれている。14は脚部を欠く臼形の土製模造品で，外面はヘラで丁寧に調整されている。15は管状土錘，16は土製の碁石であろうか。17は人面の泥面子で，裏面に型押しの際の指頭押捺痕を残す。18は文久永宝で，俗に「真文細字」と呼ばれるものである。外縁外径2.7cm，内郭外径0.8cm，孔幅0.65cm，外縁厚の平均0.1cm，肌厚の平均0.05cm，量目は3.40gで，若干腐食しているが表裏共に銭文は明瞭である。

2．第3トレンチ（第14・15図，図版4～6・16）

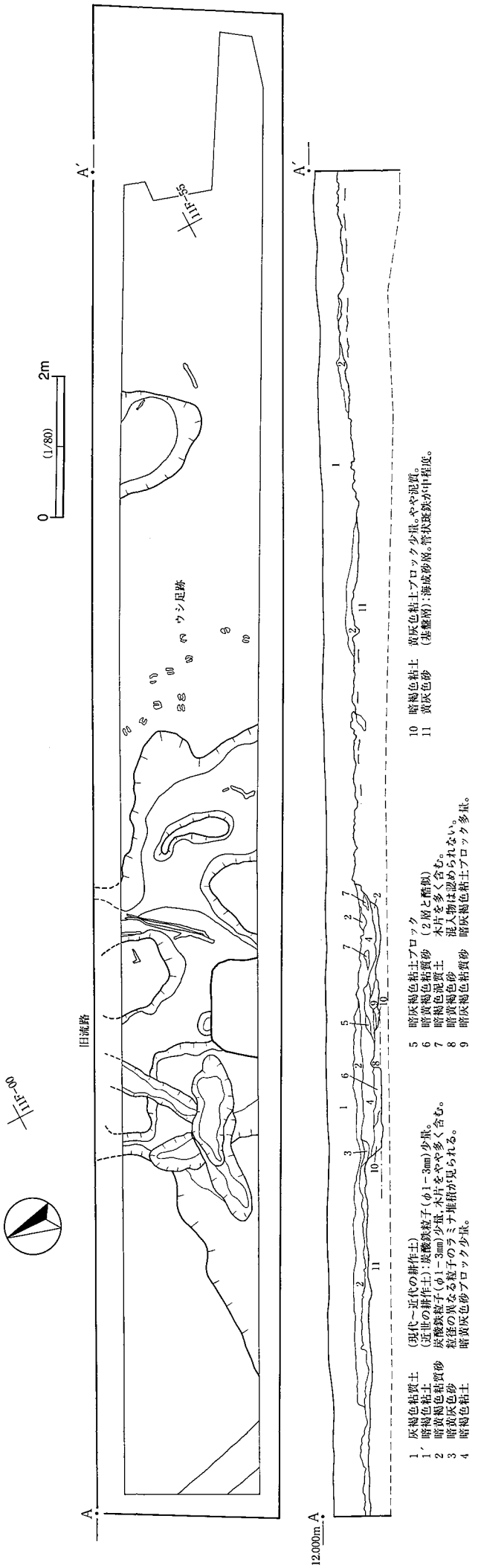
概要

調査区西部，第2トレンチ東端の東側6mの位置に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である海成砂層までは0.3m～0.5mで浅く，東から西に傾斜している様子がうかがえる。第2トレンチと同様，堆積土は遺構の覆土を除くと近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土もしくは暗褐色粘土の単層として把握することができる。遺構の検出面はこの粘質土層の直下，基盤層部分では11層上面である。遺構は旧河道，土坑のほか，ウシの足跡が確認された。

遺構

SK－1　トレンチ東部から確認された土坑である。北側の半分程度がトレンチ外にかかっているので規模ははっきりしないが，長軸長0.8m，深さ0.1m程度である。覆土は暗褐色粘土の単層で，若干の自然木小片を含む。遺物は出土しなかった。

SD－1・2（旧河道）　トレンチ中央部やや西よりで確認された旧河道である。平面形状は不整であるが，断面形は逆台形を呈し，幅は1.8m～2.5m程度，深さは最も深い箇所で0.3m程度である。覆土は上層が暗褐色粘土，下層が暗黄褐色粘質砂を主体とし，それぞれ黄褐色砂や暗褐色の泥質シルトなどのブロックを含む。特に下層において，やや粗い砂を中心とするラミナ堆積が発達していることから流水性の堆積と考えることができる。大まかに東西の2条に分けられるが，底面の高さから見て，いずれも北から南へ流れていたものと考えられる。遺物は古墳時代の土師器・須恵器の小破片が出土したが，大部分は図示し得るものではない。



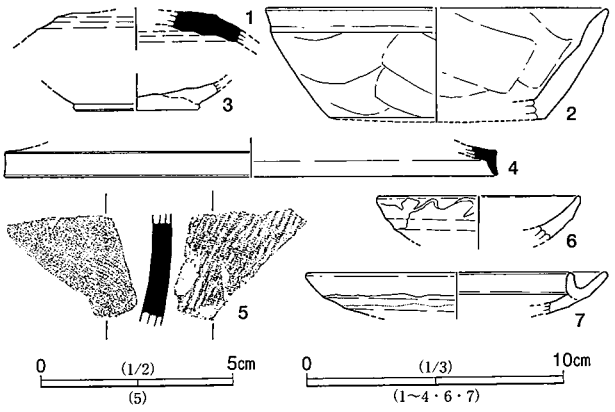
第14図　東山遺跡第３トレンチ

ウシ足跡　調査区中央付近の基盤層（11層）から検出された。トレンチ内の全域を精査して検出に努めたが，図示した範囲以外では見つからなかった。合計11個で，ほとんどは左右の蹄が離れている。大きさは幅が８cm～13cm，長さが8.5cm～12cmであり，覆土は４層土に類似するが，同一かどうかははっきりしない。

遺物（第15図）

SD－２から出土した１以外はいずれも遺構検出面（11層）上面から出土した遺物である。

１は須恵器杯蓋である。２は非ロクロの土師器杯で，底部を完全に欠くが，体部外面に横方向のヘラケズリを施す。３はロクロ土師器杯である。底面は回転ヘラケズリと考えられるが，磨耗が著しくはっきりしない。４はやや大ぶりの須恵器杯蓋で，「かえり」が若干外反している。５は須恵器甕の体部で，外面にはタタキ目，内面には弱い当て具痕（青海波）が残るが，共にヘラナデが施されている。６は古瀬戸灰釉小皿で，内面の全面と外面の口縁部に明オリーブ灰色の釉がかかっている。７は瀬戸美濃系の褐釉灯明皿で，内面全面と外面の口縁付近に暗褐色の釉がかかっている。



第15図　東山遺跡第３トレンチの遺物

3．第9トレンチ（第16・18図，図版7・16）

概要

調査区中央付近の現道南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までは0.2m～0.3m程度で極めて浅い。基盤層そのものは均質ではなく，やや粒の粗い砂層やシルト層，未分解の木質層などが交互に堆積する複雑な堆積状況を示しており，顕著なラミナ堆積も見られることから，汐入川の洪水による堆積と考えられる。また，この基盤層は水平堆積ではなく，西から東へ若干傾斜している様子がうかがえる。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色粘土と，それ以前の耕作土と考えられる暗褐色粘質土の2層が認められ，灰色粘土層直下で遺構確認を行ったが，遺構は検出されなかったため，続いて2層の直下で確認を行った。第9図の平面図は2層直下の検出状況である。遺構は畦畔を検出した。

遺構

畦畔　トレンチ中央付近に南北方向（A），トレンチ西部に東西方向（B）の各1条が確認できた。本トレンチは黄灰色砂あるいはシルトの基盤層に，耕作に伴う暗褐色粘質土の鋤込の痕跡が明瞭であったが，その中に耕作痕のない帯状の部分があったため畦畔と認定したもので，いわゆる「擬似畦畔B」と呼ばれる状態であり，本来の畦畔の高まりや耕作土は遺存していない。畦畔Aは幅0.3m～1.0m，畦畔Bは1.0m～1.2m程度で，軸方向は畦畔AがN－62°－E，畦畔BがN－28.5°－Wである。時期ははっきりしないが，現水田の軸方向（N－12°～15°－E）とは明らかに異なっていることから，条里型水田の可能性も考えられる。

遺物（第18図1・2）

古墳時代～平安時代の土器類を中心とするが，ほとんどが小破片であり，図示し得る遺物は極めて限られる。図示した遺物はすべて2層中からの出土である。

1は内面に炭素吸着による黒色処理を施したロクロ土師器の高台付杯で，高台はやや高く，わずかに「ハ」字状に広がる。2は須恵器甕の頸部破片である。ロクロナデの痕跡が顕著で，下部にロクロナデによる1段の稜を残す。

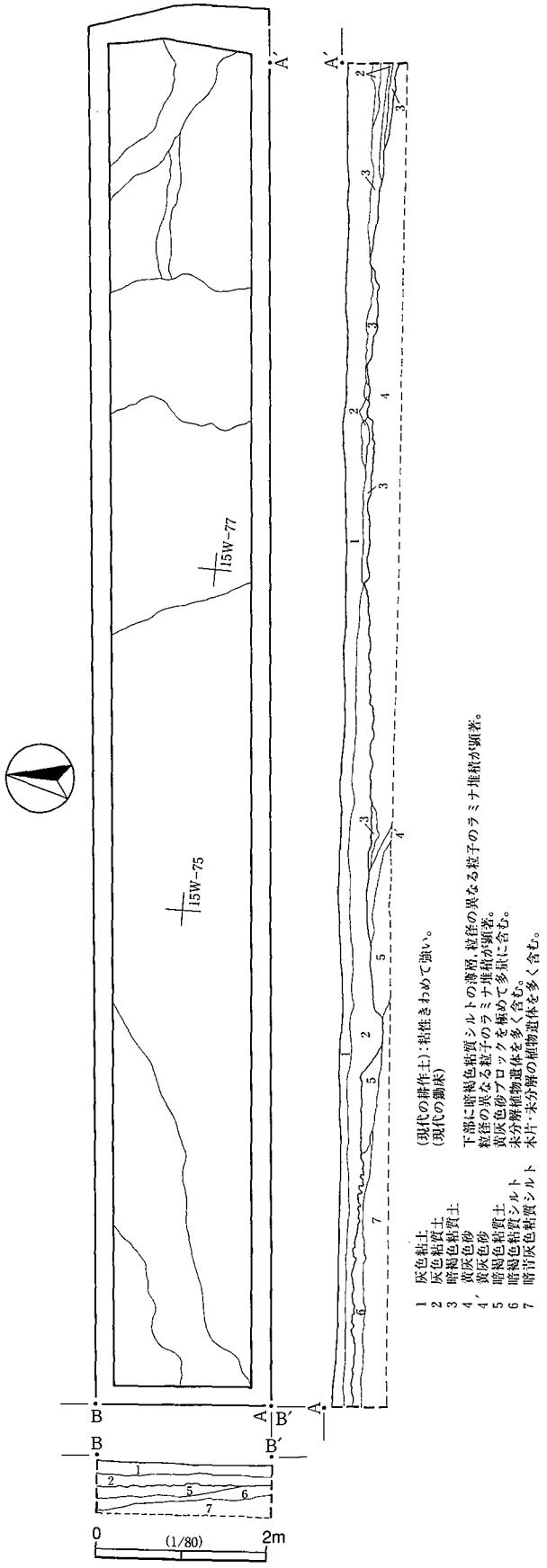
4．第11トレンチ（第17・18図，図版8・16）

概要

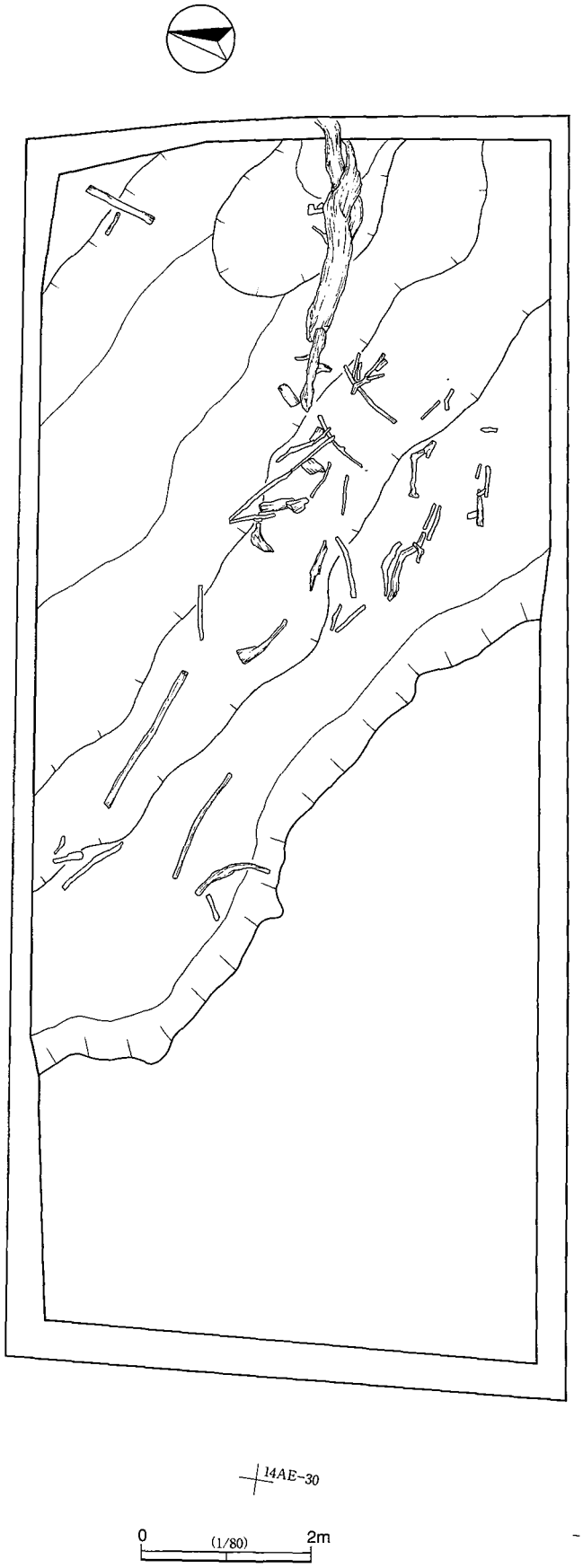
調査区東部の道路南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までの深さは，0.2m～0.3mと非常に浅い。第9トレンチと同様に基盤層そのものも均質ではなく，汐入川の洪水による堆積と考えられる。ただ，第9トレンチと異なり，堆積はほぼ水平で傾斜等は認められない。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色あるいは暗灰色粘質土の単層として把握されたため，灰色粘質土層の直下（基盤層上面）で遺構の確認を行なった。遺構は旧流路が検出された。

遺構

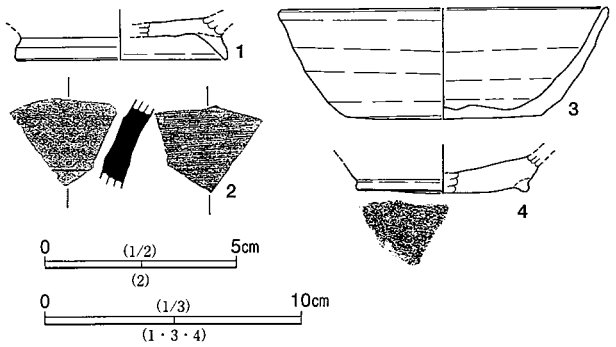
SD－1（旧流路）　トレンチ東半部で検出された溝状遺構である。幅は北側がトレンチ外にかかっているため不明であるが，遺存部分では6m以上，深さは最も深い箇所で0.3m～0.5mである。覆土は暗褐色の粘質土と黄褐色砂，シルトの互層で，ラミナ堆積が顕著に認められる。また覆土中層～上層には漂着したものと考えられる木質や未分解の木葉が多く認められる。この木質はすべて広葉樹で，樹種は不明である。直径2cm程度の枝が多く，直径15cmを超える幹なども含まれている。流路の底面はやや凹凸があり，北西端と南東端での標高差がほとんどないためはっきりしないが，この延長上に北側の丘陵を開析する小支谷



第16図　東山遺跡第９トレンチ



第17図　東山遺跡第11トレンチ



第18図　東山遺跡第９・11トレンチの遺物

が見られることから，北西から南東方向に流れていたものと考えられる。

遺物（第18図３・４）

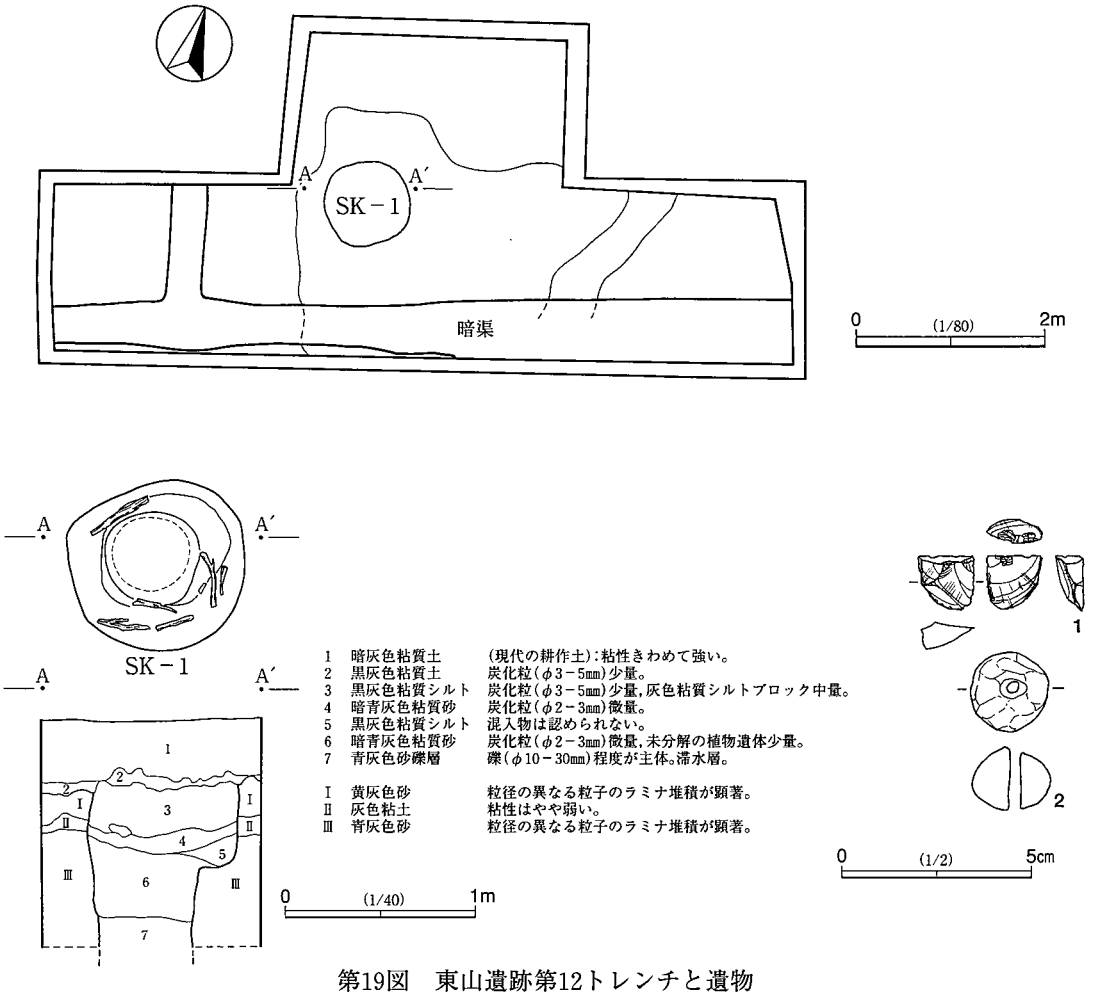
トレンチからは古墳時代～近世の土器類が出土したがいずれも小破片で量も少なく，図示し得るものはない。図示した遺物はいずれも旧河道の覆土中から出土したものである。

３はロクロ土師器の杯である。体部には明瞭なロクロ目が残り，体部下端にもヘラケズリの痕跡はない。底部は磨耗が著しいため調整技法は不明である。４は非ロクロの土師器杯である。底部は厚くやや丸底気味で，粘土紐の貼り付けにより高台を作り，わずかに底部が突出する。

５．第12トレンチ（第19図，図版９・16）

概要

調査区東部の現道南側（第11トレンチの東端から東に15mの位置）に設定したトレンチである。現地表面から基盤層である砂層までの深さは0.3m程度と浅い。これも第９トレンチと同様に基盤層そのものも均質ではなく，汐入川の洪水による堆積と考えられる。ただ，第11トレンチと同様，堆積はほぼ水平で傾



第19図　東山遺跡第12トレンチと遺物

斜等は認められない。トレンチの覆土は近年の耕作土と考えられる灰色～暗灰色の粘質土と黒灰色粘質土の２層として把握されたため，灰色粘質土層の直下（２層上面）で遺構の確認を行なおうとしたが，暗渠による撹乱が著しく，湧水も激しかったため，基盤層直上での遺構確認に切り替えた。遺構は井戸跡と考えられる土坑が検出された。

遺構

SK－１（井戸跡） トレンチ中央付近の北側壁面にかかった状態で検出されたため，拡張して全体を確認した。直径0.9m～1.1mの円形で，壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は上層が黒灰色の粘質シルトや砂で覆われ，ところどころ黒色の泥炭質シルトなども混じる。中層～下層は未分解の植物質遺体を含む粘質砂層となっている。湧水により危険であるため底面までは掘削できなかったが，検出面下1.0m程度で砂礫層が検出された。

遺物（第19図）

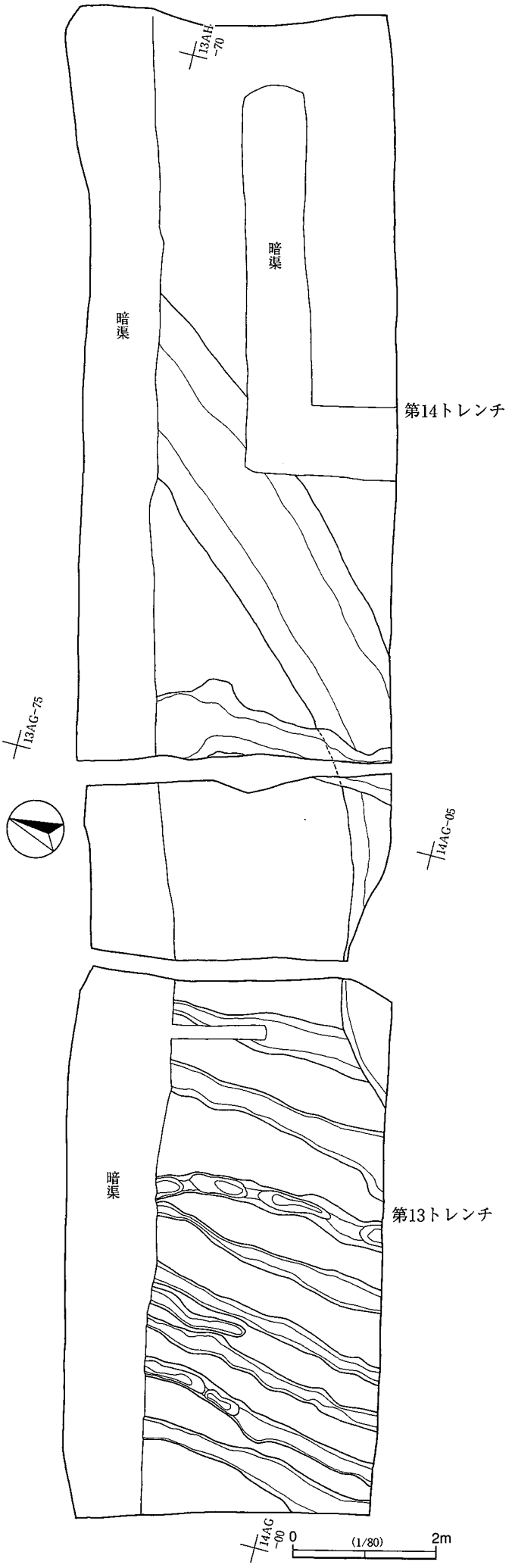
本トレンチも遺物の時期の中心は古墳時代～中世の土器類であるが，ほとんどが小破片である。図示し得たのは２点で，１がトレンチ覆土２層から，２はSK－１覆土上層から出土した。

１は黒曜石製の上部の欠損した剥片で，下端は蝶番状となっており，裏面の左側縁下半部に使用痕（刃こぼれ）がみられる。２は土玉である。

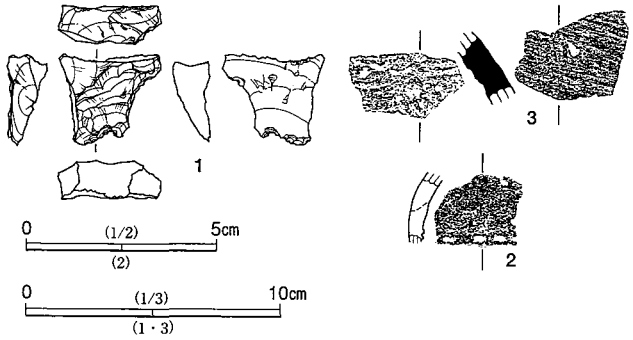
６．第13・14トレンチ（第20・21図，図版９・16）

概要

調査区東端付近の道路南側（第12トレンチの東10mの位置）に設定したトレンチである。当初は間に３mの間隔をあけた別のトレンチとして設定したが，後に間の部分について拡張したため，実質的にひとつのトレンチとなった。ただ，呼称については当初の方法を踏襲している。現地表面から基盤層である砂層までの深さは0.2m～0.3m程度と非常に浅い。第11トレンチと同様に基盤層は均質ではないが，堆積は水平方向で，傾斜は見られない。覆土はすべて近年の耕作土と考えられる灰褐色粘質土で，それ以前の堆積土は残っていなかった。遺構は畝溝が検出された。



第20図　東山遺跡第13・14トレンチ



第21図　東山遺跡第13・14トレンチの遺物

遺構

SX－1（畝溝）

並行する複数の浅い溝状遺構として認識される。第13トレンチのほぼ全面にわたり，9条が確認された。それぞれの溝状遺構の幅は0.3m～0.5m，深さは0.1m程度で，溝間の距離は0.5m～1.0m程である。軸方向は南北だが5°～10°程度東に振れている。底面には若干の凹凸があるが，耕作痕跡かどうかははっきりしない。また第14トレンチの西部からはこれらの溝状遺構とほぼ軸を同一とする浅い溝状遺構が検出されており，SX－1東端の溝とこの溝との間隔は2.8m～3.0mである。覆土は暗褐色粘質土の単層である。

遺物（第21図）

トレンチそのものの覆土が極めて浅いため，遺物はごく僅かである。1は黒曜石製の剥片だが，楔形石器の製作に伴うものと考えられる。2は縄文土器，3は須恵器である。

7．第15トレンチ上層（第22・23図，図版10・11・16）

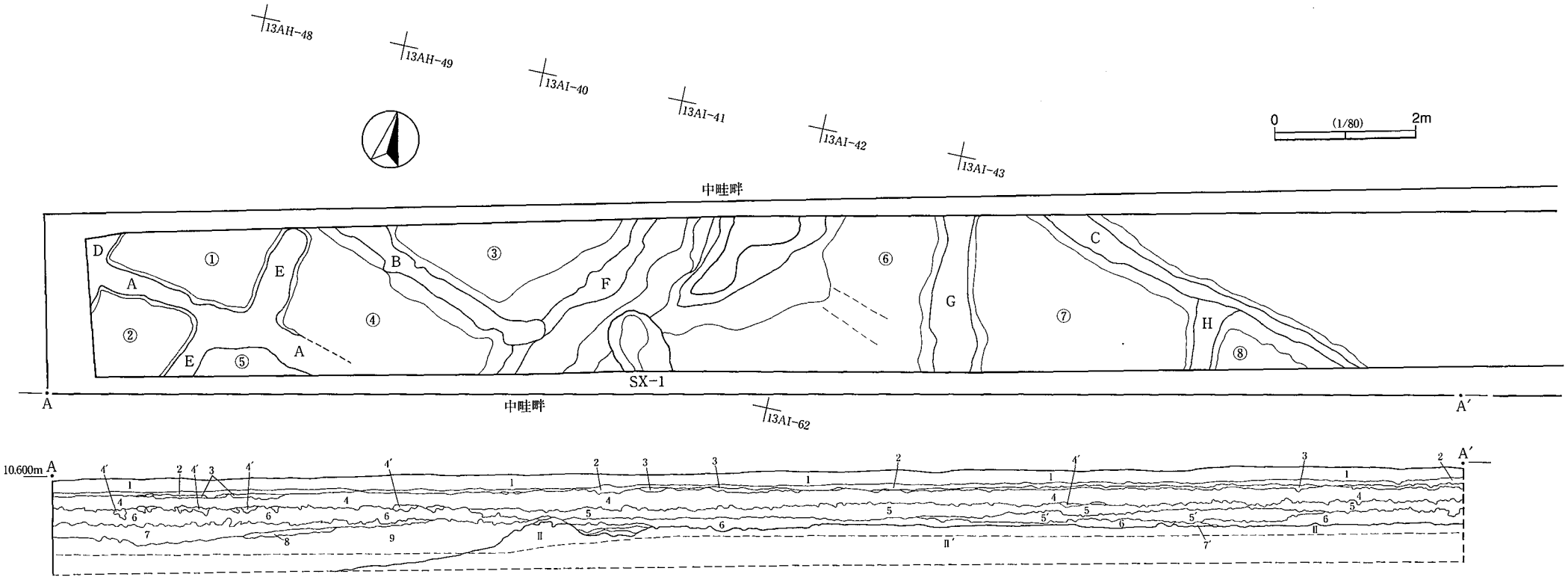
概要

確認調査時点での，調査対象範囲東端の道路南側に設定したトレンチである。現地表面から基盤層までの深さ0.8m～1.3mだが，トレンチ西端では少なくともこの深さでは基盤層を確認できなかった。基盤層はトレンチ西部がグライ化した砂もしくは粗砂，東端部では黄灰色の軟質砂岩ブロックを多く含む暗褐色砂層（Ⅱ層）である。特に東部の基盤層は明らかな再堆積土壌であるが，その下層では，現地表面から0.9m～1.0m程の深さで西部と同様なグライ化した砂層を検出している。また東部では軟質砂岩ブロックを含む基盤層からやや多くの縄文土器と剥片類が出土したため，この周辺部分については拡張を実施した。トレンチの覆土は大まかに近現代の耕作土と考えられる灰色～黒灰色系の粘質土（上層），中世～近世の耕作土と考えられる暗灰色粘質土（中層），古代とそれ以前の耕作土と考えられる黒色粘質シルトもしくは暗褐色粘質土（下層）に分けられる。またトレンチ西部ではこの下に，黒色粘質砂層がありラミナ堆積を示している。遺構は3面以上の水田耕作土層が確認されたが，平面的に確認されたのは7層もしくは6層上面で検出した小区画水田のみである。

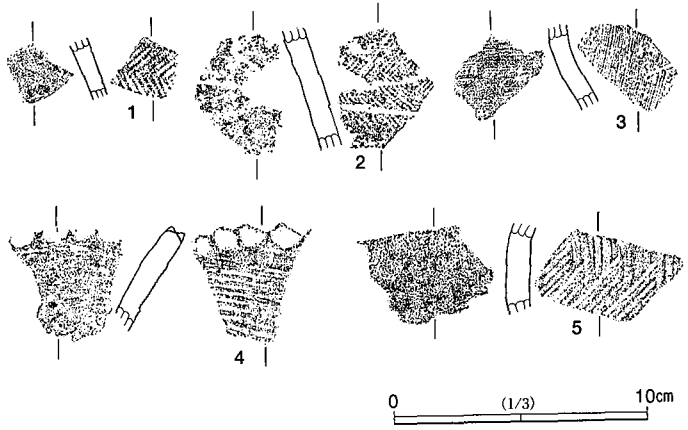
遺構

小区画水田　トレンチの西半部より確認され，東西方向に3条（A～C），南北方向に5条（D～H）の畦畔とそれらに囲まれた水田区画8区画のほか，水路1条が検出された。

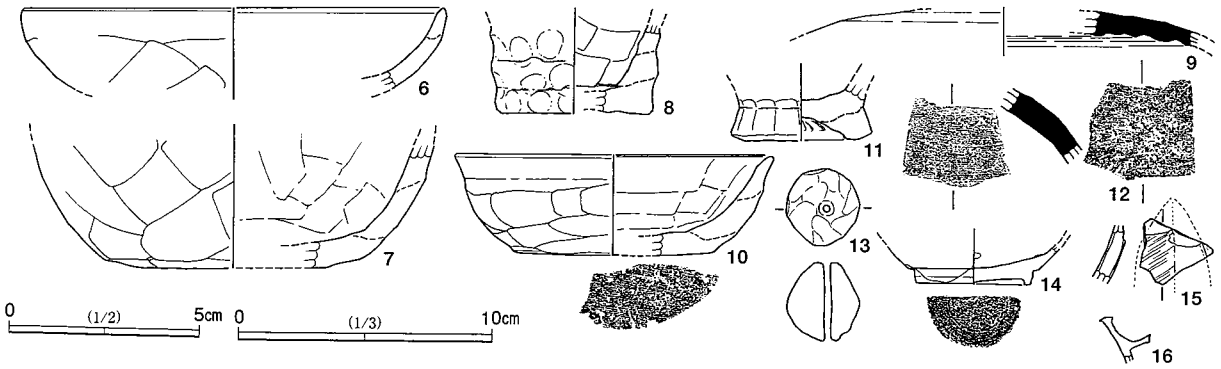
検出面である7層上面には，不明瞭ながら8層土を主体とする半月状の耕作痕跡が多く見られたが，畦畔部分にはこの痕跡を欠いている。本来の畦畔に伴う盛り土等はすでに失われ，その基部のみが遺存するいわゆる「擬似畦畔B」と呼ばれる検出状況である。また南北畦畔Fに関してはさらにその下部の基盤層（Ⅱ層）が相対的に帯状に盛り上がったような状況であり，その脇に水路と考えられる溝を伴うことから他の畦畔より大きな区画を示す大畦畔もしくは中畦畔と考えられる。トレンチ内部のみの断片的な確認状況であるため区画の面積は不明であるが，形態は一辺2m～4mの長方形が基本となり，平行四辺形や菱形に変形したものも見られる。畦畔の幅はFが0.8m～1.0m，それ以外のものは0.2m～0.4m，軸方向はA～C



1	灰色粘質土	(現代の耕作土)
2	灰色粘質土	(近現代の耕作土):粒状斑鉄少量。
3	黒灰色粘質土	(近現代の鋤床):雲状斑鉄顕著。
4	暗灰色粘土	(中世～近世の耕作土):炭酸鉄粒(φ2－3mm)少量。粘性強い。
4′	暗灰色粘土	(中世～近世の耕作土):炭酸鉄粒(φ2－3mm)少量。
5	暗灰色粘質土	(中世の耕作土):黄灰色砂岩粒(φ2－4mm)中量,炭酸鉄粒(φ2－3mm)微量。
5′	暗灰色粘質土	(中世の耕作土):混入物は5層と同等。5層よりやや暗。
6	暗褐色粘質土	(古代の耕作土):炭酸鉄粒(φ2－3mm)少量。管状斑鉄顕著。
7	黒色粘質シルト	(古代以前の耕作土):6層土の鋤込みと8層土の巻きあがり顕著。
8	暗灰色粘質土	黄灰色砂岩ブロック中量。縄文土器少量。
9	暗灰色粘質砂	暗灰色シルトのラミナ堆積が認められる。
Ⅱ	暗黄灰粘質砂	黄灰色砂岩ブロック多量,縄文土器を含む。
Ⅱ′	青灰色砂	(河成砂層):縄文土器を少量含む。



第22図　東山遺跡第15トレンチ小区画水田跡



第23図　東山遺跡第15トレンチの遺物

がN－15°～22°－W，南北畦畔ではN－28°－Eの南北F畦畔と水路を境に，その東側のD・EがN－3°～9°－W，西側のG・HがN－13°～18°－Eである。水路は南北畦畔Fとほぼ同じ軸方向で，幅0.6m～0.8m，深さは畦畔Fの検出面から0.2m～0.3mである。覆土は砂とシルトが主体で，顕著なラミナ堆積が見られる。底面の南北両端で標高差がほとんどないためはっきりしないが，覆土堆積の方向からみて北から南へ流れていたものと考えられる。本水田面はトレンチの範囲外に広がることから，拡張を行い全体の検出を試みたが，現代の暗渠排水による撹乱が著しく，トレンチ外で本水田面を検出することはできなかった。遺物は7層中から弥生土器が出土したが，ほとんどは小破片である。

遺物（第23図）

堆積土が厚いためか，他のトレンチと比較すると多くの遺物が出土しているが，ほとんどは上層～中層の混入した遺物で，弥生時代～平安時代の土器類が中心となる。1～5は7層中，6・13は6層，7・10は拡張区上層，14は上層，他はすべて中層から出土した。

1～5は弥生土器である。1～3は壺で，1・2では外面に横走羽状縄紋が施され，2では紋様下部が沈線により区画される。3は無紋だが，外面には縦方向，内面には横方向のハケ目調整が施される。4・5は甕で，4は口唇部に指頭押捺，外面に横方向の粗いハケ目，5は外面に縦方向の粗いハケ目を施す。6～8は古墳時代の土師器で，6は杯，7は鉢で，共に外面に粗いヘラケズリを施す。8は粗造土器の鉢で，内面はヘラナデ，外面には輪積痕を残し，指頭押捺を施す。9～12は奈良・平安時代の遺物である。9は須恵器杯蓋，10は非ロクロ土師器の杯で体部下半と底部は手持ちヘラケズリを施す。11は台付甕の脚台部，12は須恵器瓶子で外面に顕著に自然釉が付着する。13は土玉である。14～16は中世陶磁器で，14が古瀬戸灰釉平碗，15が青磁鎬蓮弁紋碗，16は東海系の羽釜である。

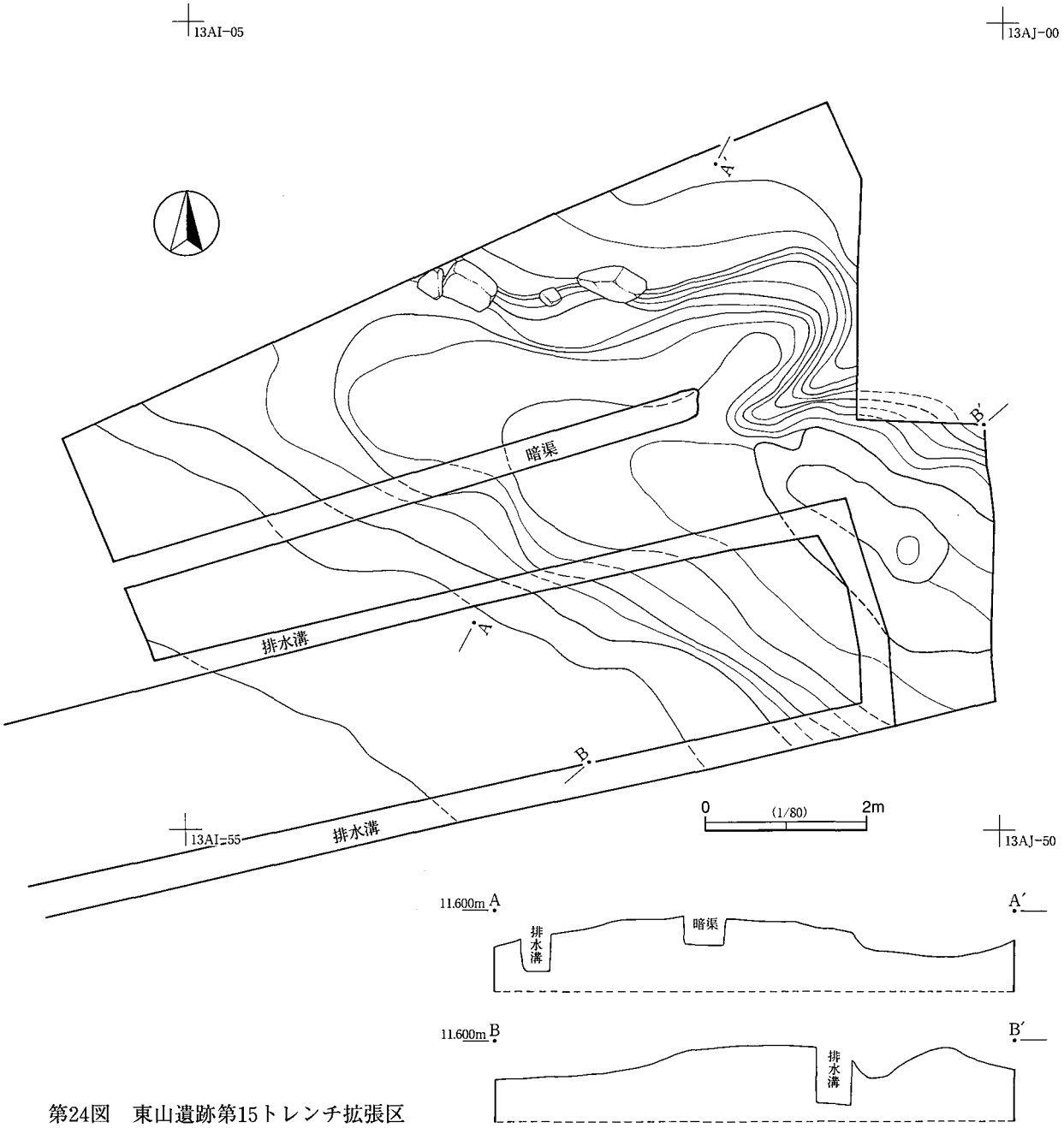
8．第15トレンチ下層（第24～26図，図版10・11・17・18）

遺構

第15トレンチの排水溝を掘削している段階で，トレンチ東部のⅡ層中から多くの縄文土器と剥片類が出土したため，東部についても拡張した。基盤層以上の堆積土については第15トレンチ西部と同様である。ただ，拡張区北東端付近は北東方向に向かって傾斜しており，その部分にⅡ層土が堆積していた。また，Ⅱ層土はきわめて堅緻であり，通常のジョレンや移植鏝ではとても掘削できず，ツルハシやエンピ等を使用した。

遺物（第25・26図）

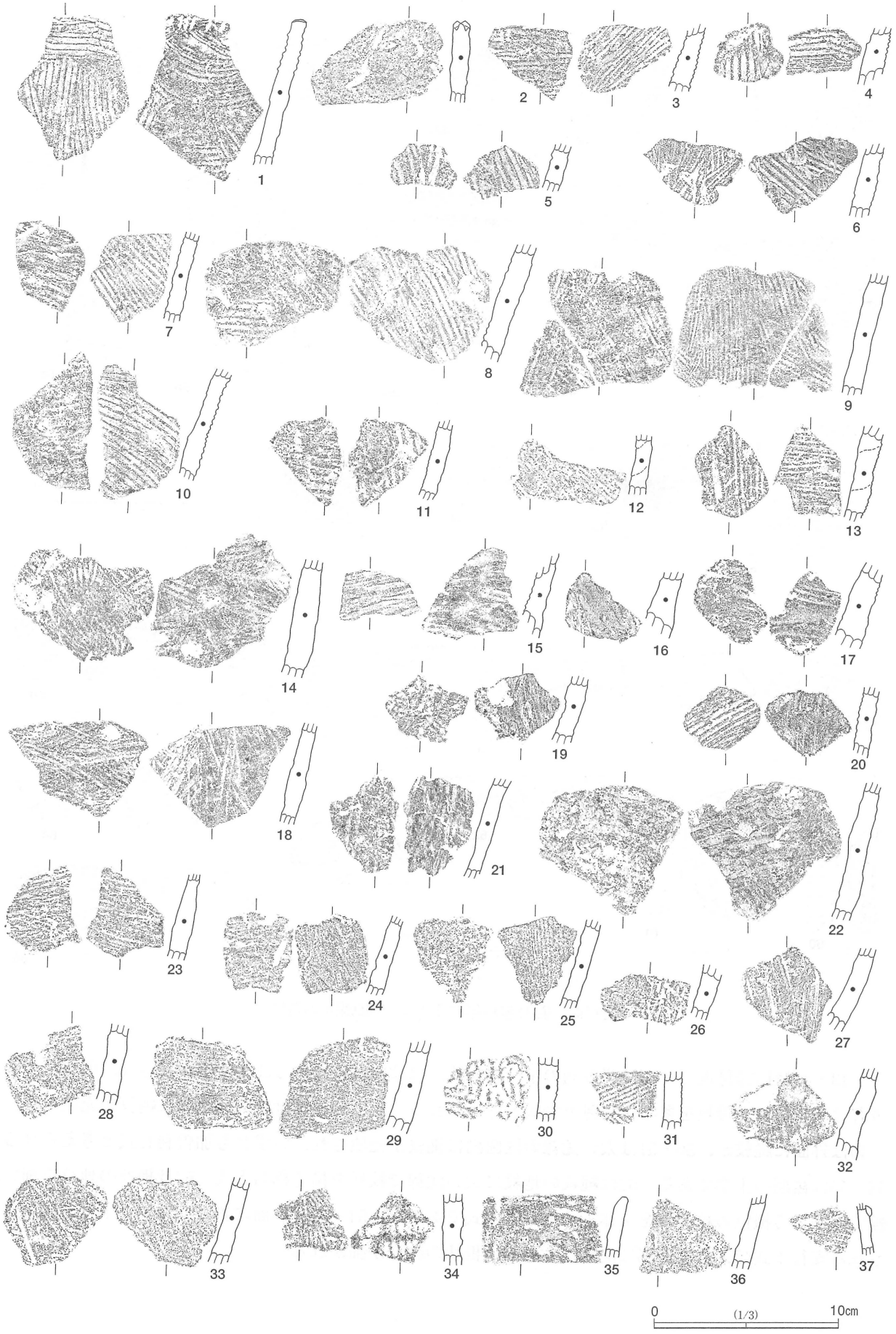
下層（Ⅱ層）から出土した遺物はすべて縄文時代のものである。時期は早期（条痕紋期）～後期（安行



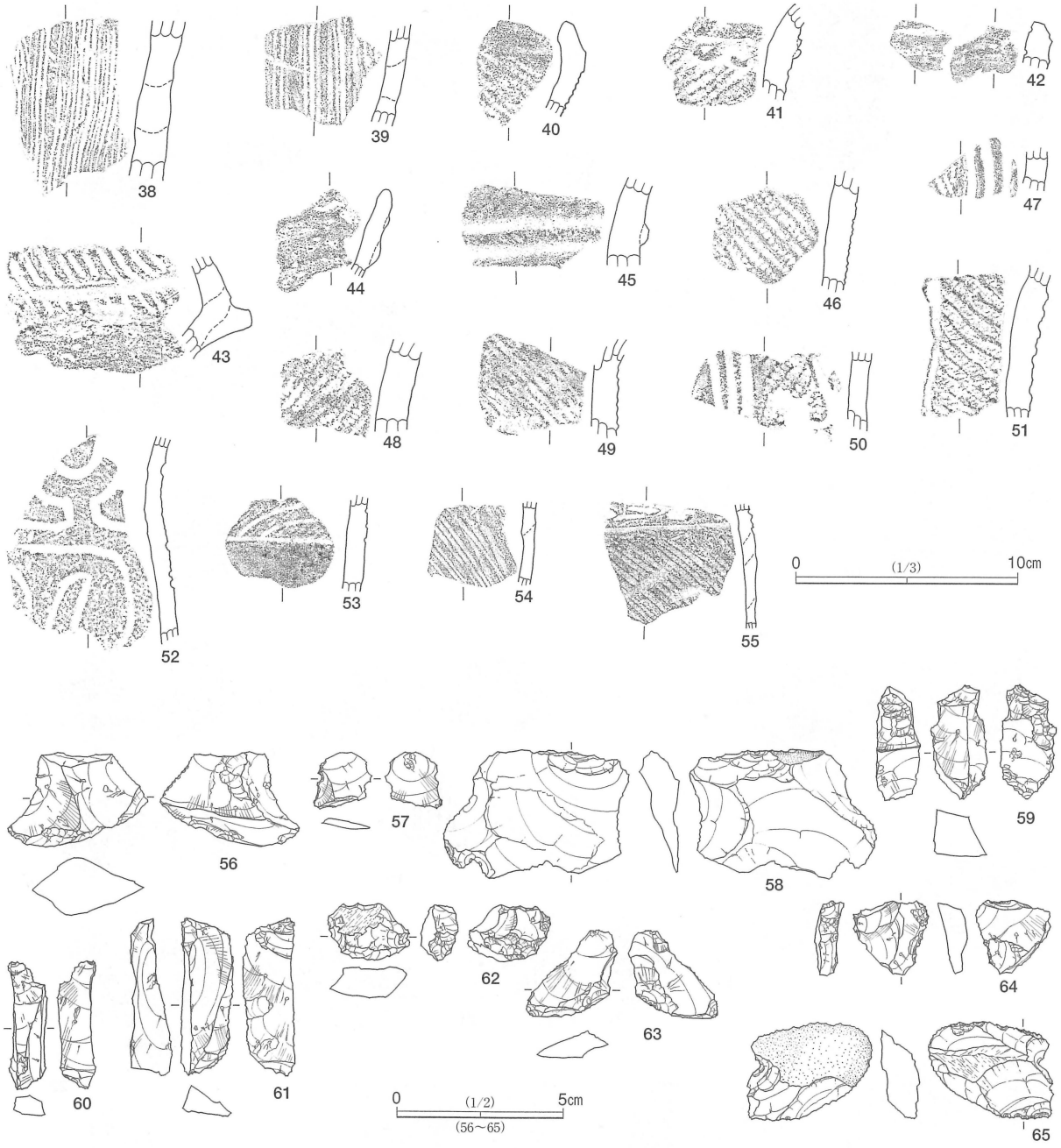
第24図　東山遺跡第15トレンチ拡張区

１式期）に及ぶが，条痕紋期の遺物が最も多い。

１～30は早期の土器で，いずれも胎土中には多量の繊維を含む。１・２は口縁部で，いずれも口唇部にキザミを施すが，１は貝殻腹縁押捺，２は丁寧に波状に整形し，その凹部に棒状工具による刺突を加える。３～29は胴部破片である。３～８は内面外面共に貝殻腹縁を用いた条痕紋を施す。９～29は同様に両面に条痕紋を施すが，外面あるいは内面のどちらかが磨り消されて不明瞭になっている。30は外面に絡条体圧痕を施すもので内面には磨消しの痕跡が残る。31は縄紋の地紋に貝殻腹縁を押圧施紋するもので，早期末～前期初頭に位置づけられる。32～37は前期の土器である。32～34は胎土に繊維を含む。32・33は内面に竹管による粗い条痕を残すが，外面は磨り消されて無紋となっている。34は横方向の押引沈線紋，35は口縁，36は胴部上半で，いずれも外面に絡条体圧痕が施され，35は口唇部にも施紋される。37は外面に縄紋と粘土紐の貼付けによる浮線紋が見られる。38～51は中期の土器である。38・39は外面に縦位の条線紋，40は口縁部で，外面に縄紋が施される。41は縄紋を地紋とする紋様帯上部を沈線で区画し，その直下に貼付けによる波状の浮線紋を施す。42は口縁部で，外面は無紋だが，内面の口唇部直下に横方向の沈線を施



第25図　東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物①



第26図　東山遺跡第15トレンチ拡張区の遺物②

す。43・44は口縁付近で，43は斜方向の平行沈線紋，44は貼付けによる波状隆帯が施され，前者は中峠式，後者は胎土中に雲母粒を多く含む阿玉台式と考えられる。45・46は貼付隆帯区画内に縄紋が充填され，47～49は外面に縄紋が，50・51は太い沈線の区画内に縄紋が充填され，いずれも加曽利E式と考えられる。52～55は後期の土器である。52は縄紋の地紋に太い沈線で紋様を描く称名寺式，53は縄紋の地紋を細い沈線で区画する横位の紋様帯を主体とする堀之内式であろう。54・55は外面に斜方向の浅い平行沈線紋が施される安行１式で，55は上部に沈線により矢羽根状の紋様が描かれる。

９．その他のトレンチ（第27図，図版19）

遺物（第27図）

遺構が確認されなかった第１，第４～第６，第８，第16の各トレンチから出土した遺物をここにまとめる。いずれも現耕作土もしくはトレンチ堆積土からの出土遺物である。

１～４は第１トレンチの現耕作土中から出土した。１は瀬戸美濃系の鉄釉擂鉢である。口縁は折返しで，縁帯幅が1.9cmである。全面に鉄釉が施され，暗褐色を呈する。２は口唇部が若干肥大し，断面が三角形を呈する白磁の碗で，色調はややオリーブ色を帯びた灰白色である。３は泥面子で，「言わ猿」を模したものと考えられる。４は玉髄もしくはメノウ製の火打石である。

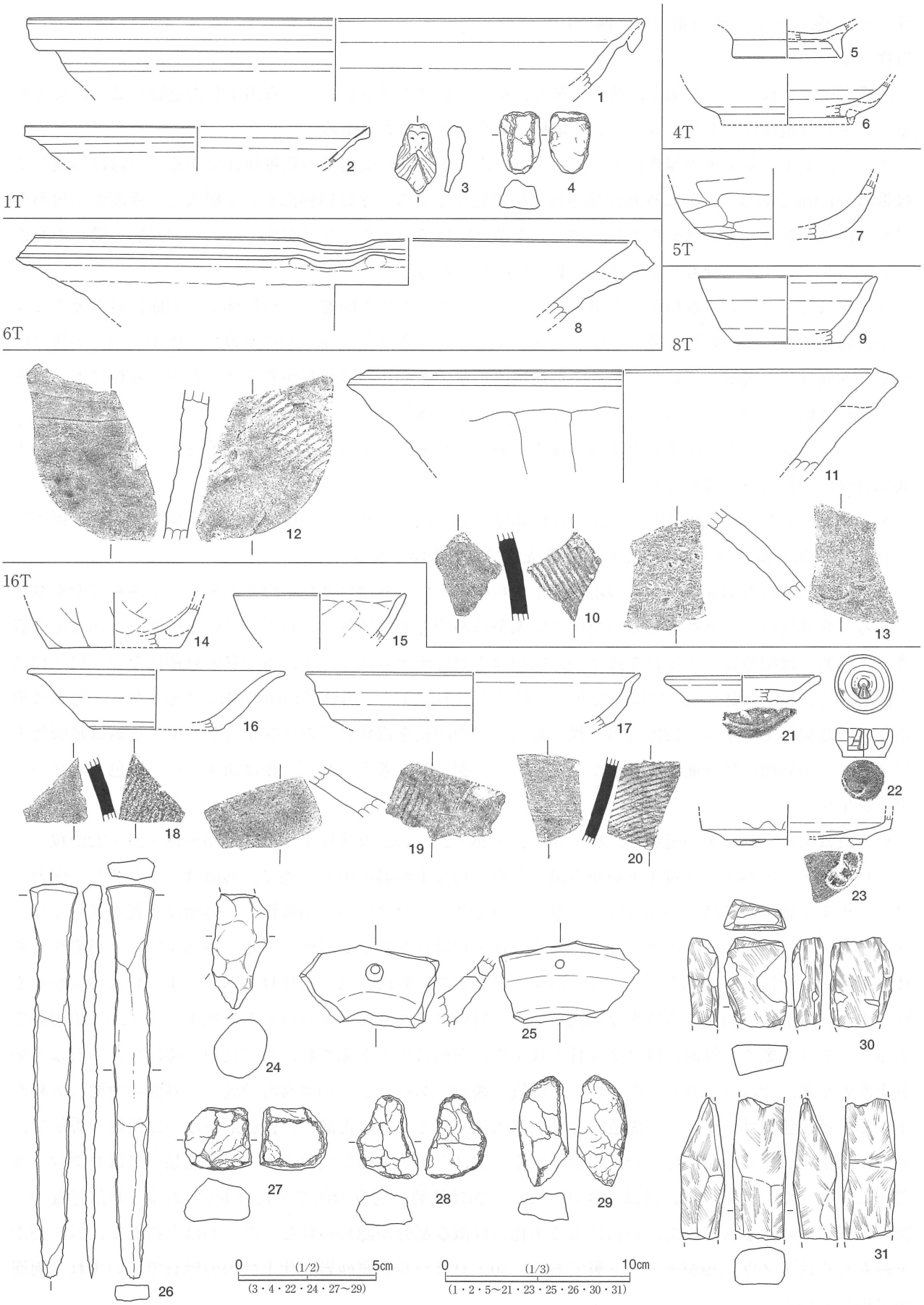
５・６は第４トレンチ堆積土から出土した。いずれもロクロ土師器の高台付杯で，内面に炭素吸着による黒色処理を施すが，磨耗が著しくはっきりしない。５は高台高1.0cmとやや足高で，僅かに「ハ」字状に広がる。内面は若干剥離しているが，外面は比較的丁寧である。６は体部が若干丸みを帯びる椀に近い形態で，高台は低いものと考えられる。これも内面は若干剥離している。

７は第５トレンチから出土した土師器椀で，底部はやや丸みを帯び，外面には手持ちヘラケズリを施す。底部周縁部が最も厚い器形である。

８は第６トレンチから出土した常滑の片口鉢である。口縁に向かって徐々に厚みを増し，口唇端面の幅1.7cm，片口部の幅3.5cm。色調は暗灰色～青灰色で，若干紫がかっている。

９～13はいずれも第８トレンチの現耕作土から出土した。９はロクロ土師器の杯で，小ぶりでやや厚手である。底部はほとんど遺存していないので調整は不明だが，体部にはロクロ目のみを残す。10は須恵器甕で，外面には明瞭にタタキ目を残すが，内面は丁寧にナデられていて，当て具の痕跡はない。11～13は常滑製品で，11が捏鉢，12・13は甕である。11はやや小ぶりで，口唇部端面の幅は1.5cmである。色調は橙色ないし暗褐色を呈する。12は成形工程に対応して押印紋を帯状に連続施紋するもので，色調は暗灰色を呈する。13の外面には全面に灰釉がかかっており，胴上部と考えられる。釉は淡オリーブ灰色～オリーブ黒色を呈する。

14～31は第16トレンチの遺物で，19・20・23・26・27・30が現耕作土～上層，15～18・21・22が覆土中層，14・24・25・28・29は覆土下層から出土した。14は土師器の中型の甕で，外面はヘラケズリ，内面にはヘラナデを施す。15は，小ぶりでやや厚手のつくりの非ロクロの土師器杯で，外面は磨耗が著しくはっきりしないが，内面はヘラナデで整形される。16・17はロクロ土師器杯である。16は皿に近い形態をもち，体部下端がやや括れ，底部がわずかに突出する形である。外面にはロクロ目のみを残す。17は体部がやや膨らみ，口縁部が折口となる特異な形態である。外面には顕著なロクロ目のみを残す。18・20は須恵器である。いずれも甕で，外面にはタタキ目を残すが，内面はナデが施され，当て具の痕跡はない。21は土師質土器の小皿，22ははっきりしないが，土師質の燭台であろうか。19は常滑の甕で，外面の全面に灰釉がかかる。釉の色調は，オリーブ黒色～オリーブ灰色である。23は古瀬戸の袴腰形あるいは筒形の香炉で，底部には指でつまんで貼り付けた低い脚がつく。24は上下の欠損した勾玉形土製模造品，25はロクロ土師器杯に穿孔したもので，用途ははっきりしない。26は鉄製の馬鍬の歯で全長21.4cmである。基部付近の一部に，桟にはめ込まれていたため錆による劣化の軽微な部分が認められる。27～29は火打石で，27・28が玉髄もしくはメノウ，29がチャート製である。30・31はシルト質砂岩の仕上げ用の砥石で，いずれも両端が欠損している。



第27図　東山遺跡その他のトレンチの遺物

第３節　本調査区の遺構と遺物（第28図～第37図，図版20～25）

概要

確認調査時に未買収だった部分で，調査対象範囲東端部の道路南側（第２・４図）にあたり，第15トレンチ拡張区に隣接する。面積は231.8㎡である。基盤層は岩盤で，表土から基盤層までの深さは最も浅い箇所で1.2m前後である。基本土層は１層（灰色粘質砂），２層（暗灰色粘土），３層（黒褐色粘土），４層（灰色粘土），５・５′・６層（シルトを含む灰色粘質砂），７層（砂分がマーブル状に多く入る暗灰色粘質土），８層（未分解のピートを含む暗灰色粘質土），９層（黒灰色粘質シルト），10層（灰色粘質シルト），11層（未分解のピートを層状に含む暗灰色砂），12層（しまりの弱い灰色粘質シルト），13層（未分解のピートを層状に含む暗灰色砂），14・15層（灰色粘質シルト），16層（未分解のピートを層状に含む暗灰色砂），17層（軟質砂岩礫を多く含む暗灰色砂）であるが，７・８層間と14・15層間には混入物のない暗灰色砂層を挟む。概ね近現代の耕作土と考えられる灰色系粘質砂及び近世～近代の耕作土と考えられる黒褐色～灰色粘土（上層），近世の耕作土と考えられる灰色粘質土及び中世の耕作土と考えられる暗灰色ないし黒灰色粘質シルト（中層），ラミナ堆積が顕著に発達した灰色～暗灰色の砂や粘質シルト（下層）という３層にまとめられる。上層と中層で３層の耕作層が確認できたが，平面的には近世以降段階の擬似畦畔を確認したのみで，中層の水田層を面的に確認することはできなかった。下層は大規模な洪水による堆積と考えられ，人為的な痕跡はなかった。ただ，調査区の南東部付近においては，中層堆積土下は径10cmを超える砂岩のブロックを極めて多く含む砂礫層であり，その中に多くの遺物を含むことから，砂岩を主体とする岩盤層まで掘削し，遺物の回収を意図したところ，岩盤上に遺構が確認された。また，表出した岩盤層は平坦ではなく，調査区の北西隅から南東隅にかけて谷状に窪んでおり，第15トレンチ拡張区北東隅の落ち込みの続きであることが確認された。検出された遺構は，ピット群，土坑である。

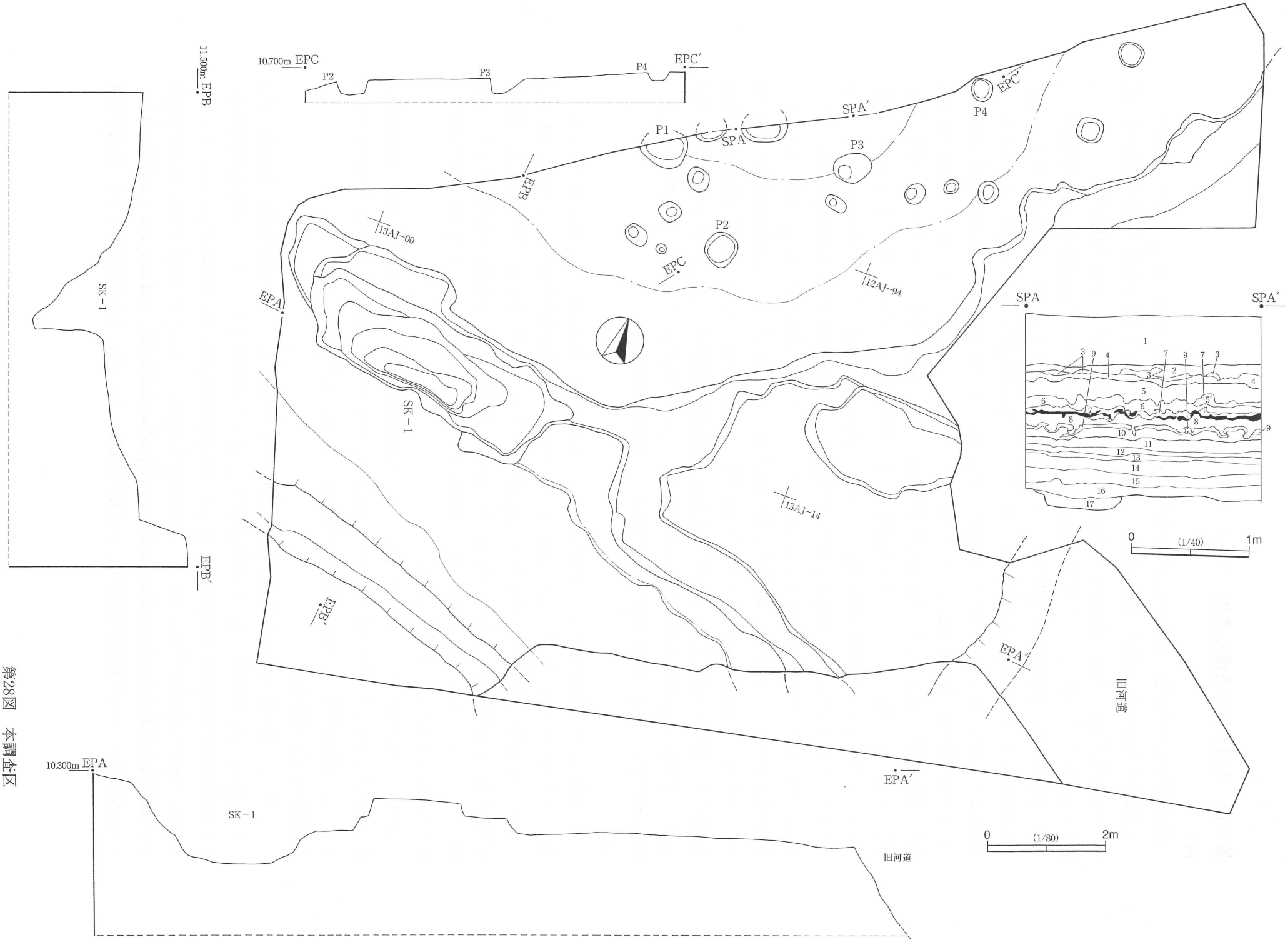
遺構

ピット群　調査区北部の岩盤上に16基確認された。当初，流量の多い渓流の河床などに見られるポットホールかと思われたが，すぐ脇を流れる現在の河床にこのような痕跡が見られないこと，柱痕等は確認できなかったが覆土が岩盤層直上の土層よりはるかに堅くしまっていることからピットと認定した。平面形は円形もしくは楕円形で，直径0.2m～0.5m，深さは0.2m～0.3mである。覆土はいずれもシルトもしくは砂で，よくしまっており，奈良・平安時代の土器類や磨石などが出土している。また，P1～P4については配列から掘立柱建物となる可能性がある。

SK－１　調査区北西部で確認された土坑である。平面形は長方形で，長さ4.0m，幅1.6m，断面は台形状で深さは1.2mである。覆土は直径５cm～20cm程の砂岩ブロックやシルト，粘質土を含んだ砂質が主体で，単層として把握できる。古墳時代～奈良・平安時代の土器類が若干量出土した。

本調査区の遺物（第29図）

１～４，10・12・14・15・17～19は中央部～南東部の覆土下層から，５・６は覆土中層（排水溝一括），７・16は覆土上層，８はSK－１，９・11・13はＰ－２からそれぞれ出土した。１～４は縄文土器である。１・２は早期で内面外面共に貝殻条痕紋を施すが，２は表面を若干磨り消した痕跡が見られる。３・４は中期で，外面に太沈線紋を多用している。５・６は無茎の石鏃で，５はチャート製で平基，６は黒曜石製で半分程度を欠くが凹基のものと考えられる。７は安山岩製の楔形石器，８はホルンフェルス製の剥片，９・10はホルンフェルス製の打製石斧で，９は刃部が欠損した長方形，10は分銅形を呈する。11は砂岩製

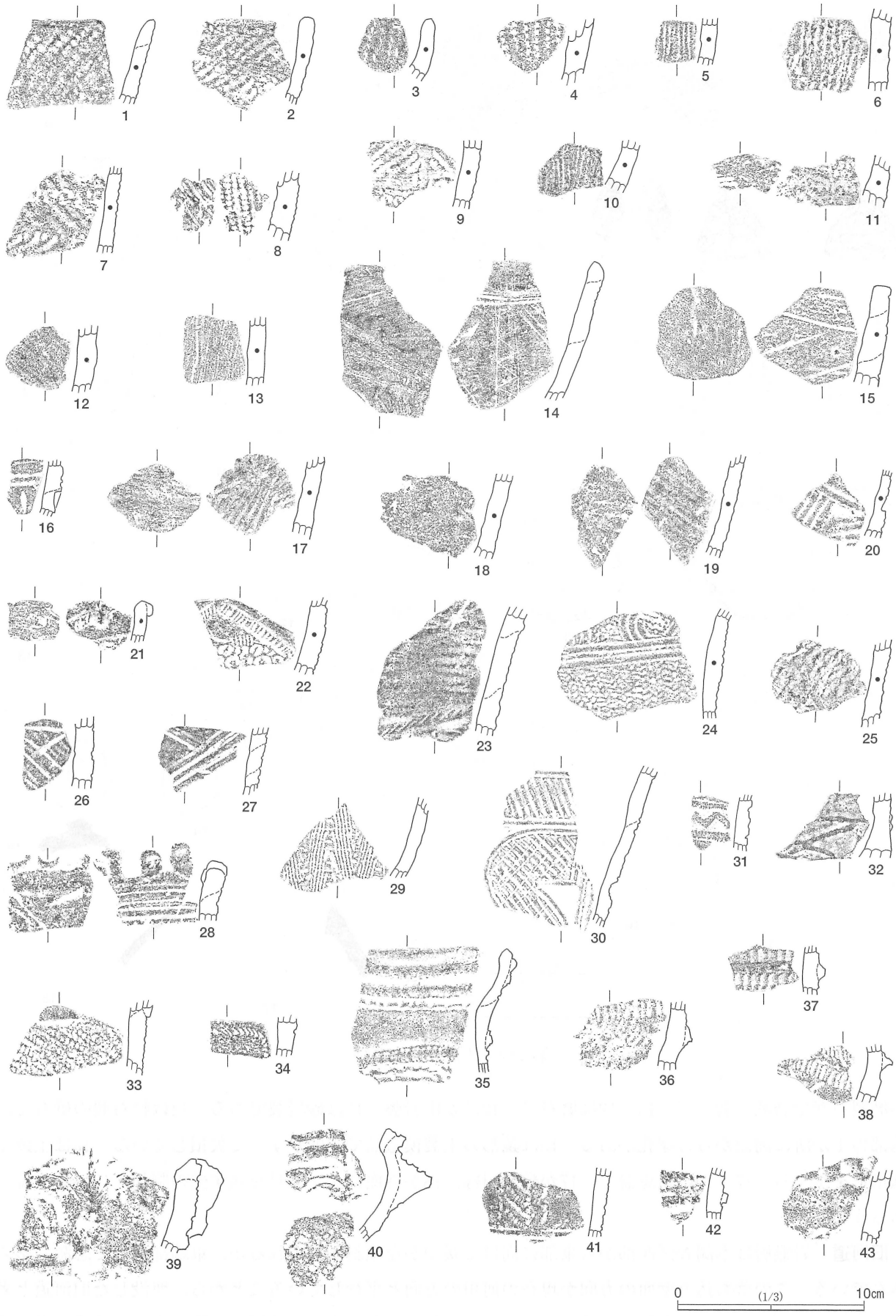

10.700m EPC
P2
P3
P4
EPC′
11.500m EPB
SK－1
EPB′
P1
SPA
SPA′
P3
P4
EPC′
EPB
13AJ－00
P2
EPC
12AJ－94
EPA
SK－1
13AJ－14
EPB′
EPA′
旧河道
SPA
SPA′
0
(1/40)
1m
10.300m EPA
SK－1
EPA′
旧河道
0
(1/80)
2m

第28図　本調査区

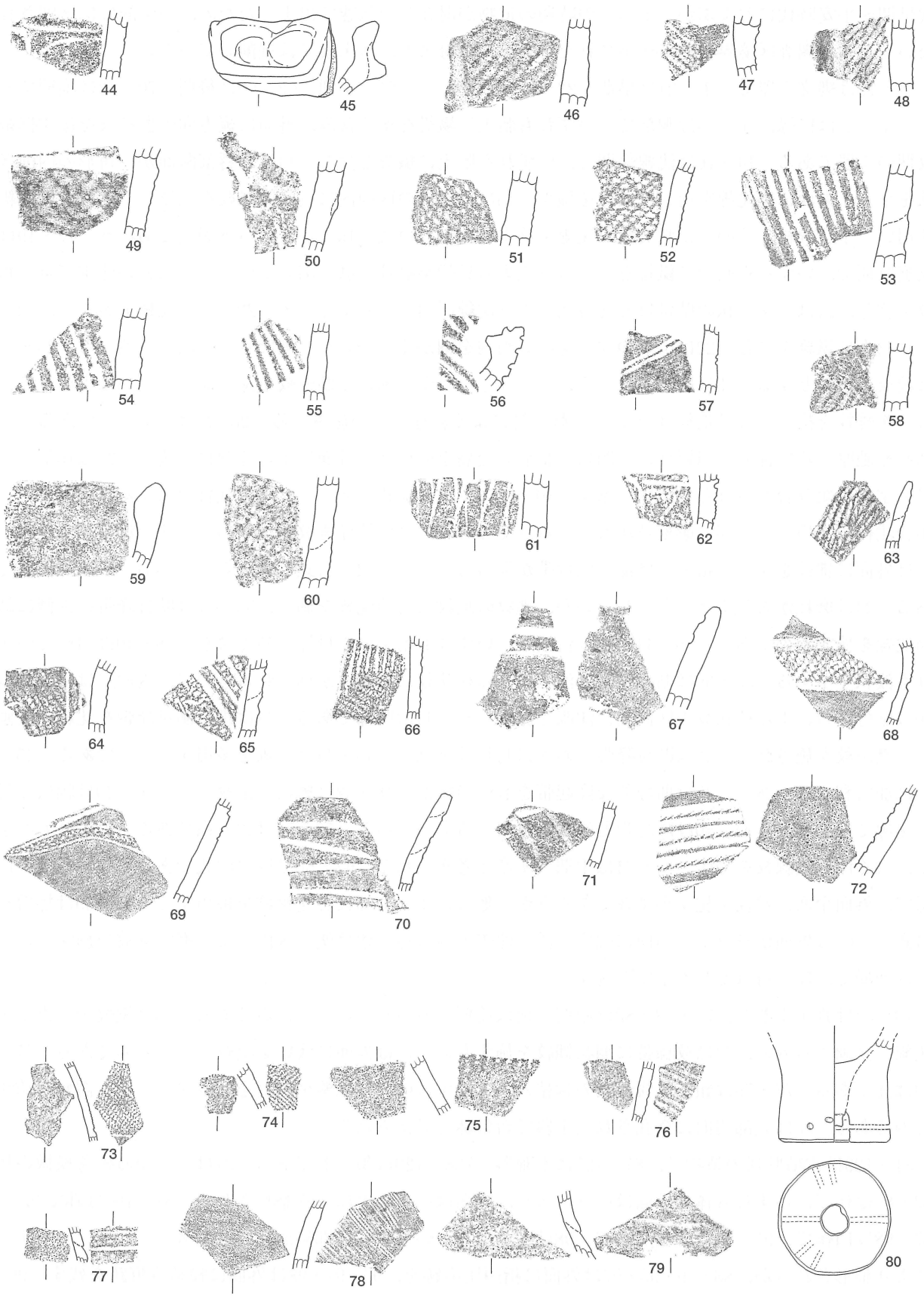
第29図　本調査区の遺物

の磨製石斧で磨滅が著しい。12・13は磨石で，12は安山岩製，13は砂岩製である。14は軽石製の砥石で，基部の１か所に両面からの穿孔がある。15は鏡形の土製模造品で周囲がすべて欠損している。16は土錘で，瓢箪形を呈する。17～19は須恵器で，17が甕の口縁，18が外面にタタキ目を残す甕の胴部，19は壺の蓋であろう。

旧河道　岩盤層は本調査区西部から東部に向けて緩やかな傾斜が見られるが，東端部付近で急激に落ち込んでいる。この落ち込み壁面の方向が現在の河川の方向と平行していることから，埋没した旧河道と考えられる。覆土は直径10cmを超える砂岩ブロックをきわめて多く含む砂礫層で遺物も多く，時期は縄文時



第30図　本調査区旧河道の遺物①



第31図　本調査区旧河道の遺物②

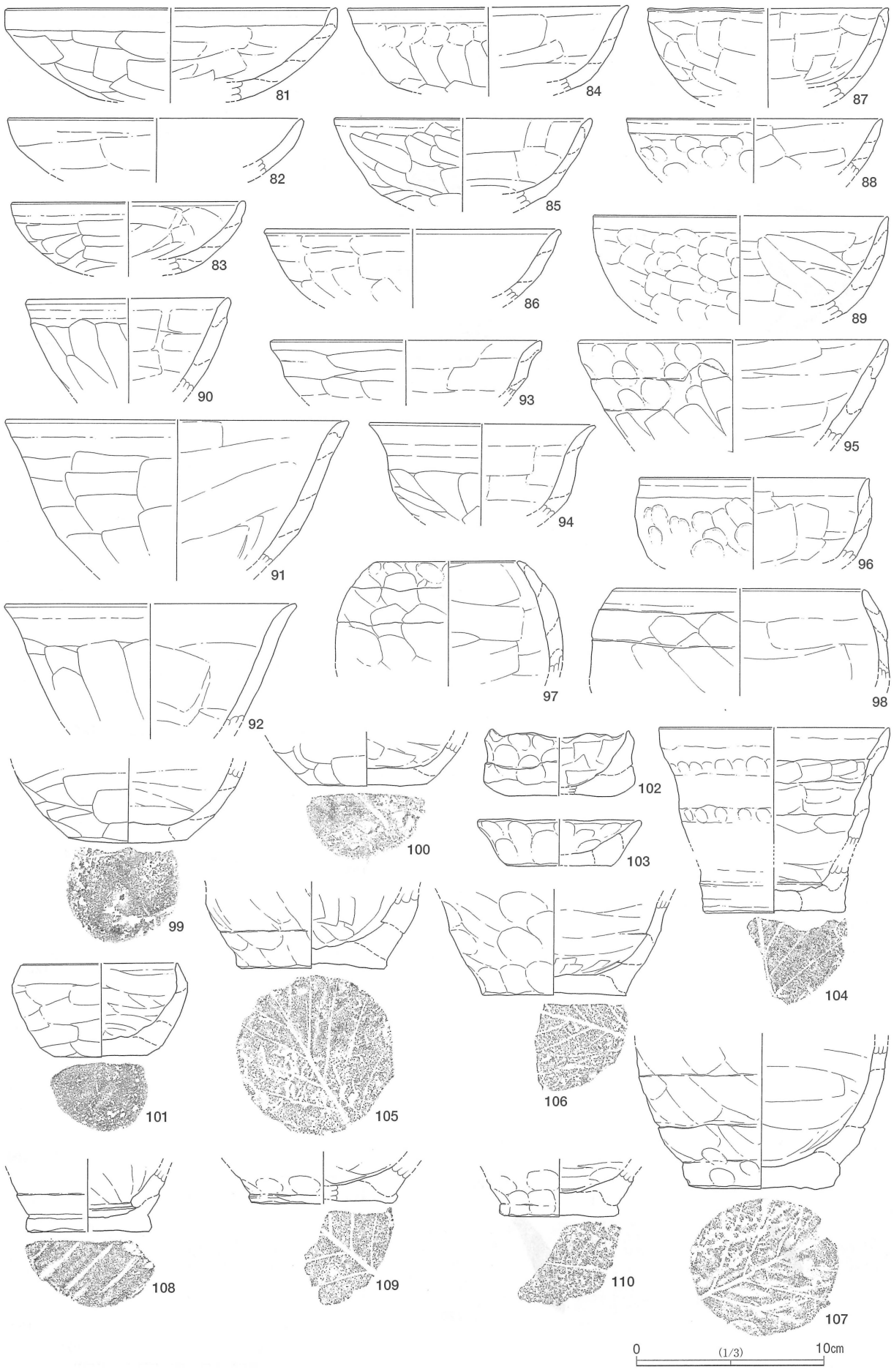
0　(1/3)　10cm

代早期～平安時代におよぶが，すべての時期の遺物が混在した状態で出土したため，層位的には区別されない。なお，調査区境界付近で検出されたため，安全対策上，河床までは掘削していない。

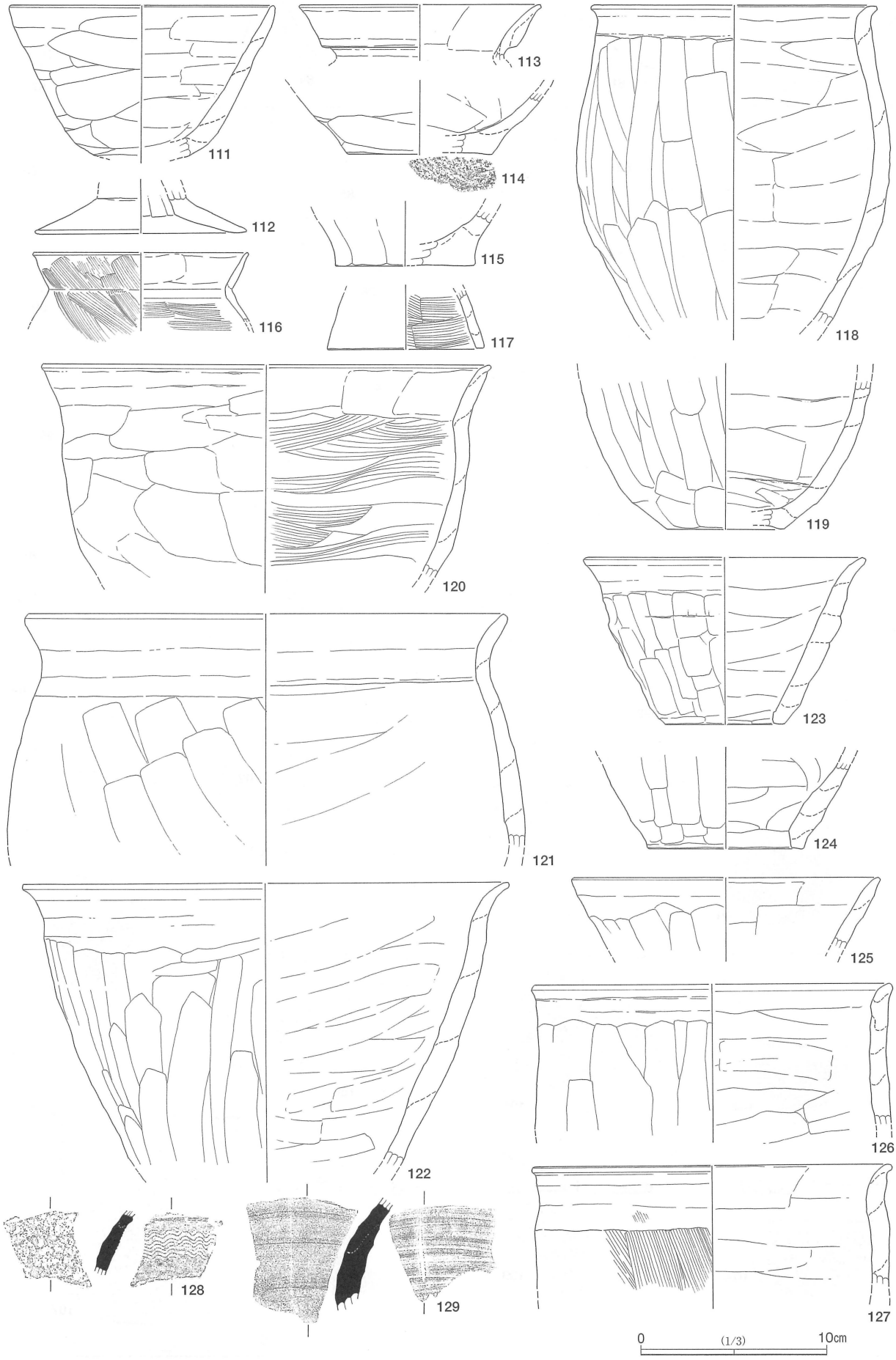
１～72は縄文土器で，１～21は早期，22～32は前期，33～61は中期，62～69は後期，70～72は晩期である。１～３は口縁，４～13は胴部で，いずれも胎土に繊維を多く含み，外面に縦方向の撚糸紋を施す撚糸紋期の土器である。14～16は沈線紋期で，いずれも胎土に繊維を含む。14は口唇部断面が三角形の内削ぎ状を呈し，外面に細沈線を用いた紋様を施す。15は細沈線の区画内に貝殻腹縁紋を充填し，16は太い沈線を用いた平行線紋，その下に刺突状の沈線を施す。14が三戸式，15・16が田戸下層式であろう。17～19は条痕紋期で，いずれも胎土に繊維を多く含み表裏の貝殻条痕紋を磨り消している。20は太い沈線で重三角紋を施し，21はツマミ状の貼付紋と斜方向の平行沈線区画にキザミを施す。22～27は花積下層式で，22～25は胎土に繊維を含む。22は山形の浅い沈線区画内を細かく刻むように刺突し，縄紋を充填する。23～26は縄紋を地紋とする。23は磨耗が著しくはっきりしないが，刻んだ貼付紋を巡らせ，24・26は半截竹管による沈線紋を描く。27は地紋はなく，半截竹管による紋様のみが施される。28・29は諸磯ｃ式である。28はやや肥厚する口縁で，口唇部には四角く整形した瘤を貼付け，外面に平行沈線紋を施し，29は体部下半でＶ字状に組み合わされた条線紋を施す。30～31は十三菩提式である。30は半截竹管による浮線区画内を集合沈線で充填し，一部に彫刻技法も用いられている。31は結節浮線紋の区画内に波状の浮線紋を施す。33は外面に縄紋を施し，積み上げ部に貼付帯が巡るもので，五領ケ台式と考えられる。34～37は勝坂式である。34は磨耗が著しくはっきりしないが，縄紋の地紋に結節沈線を施し，35～37は貼付隆帯の両側に結節沈線を施すものである。38～44は阿玉台式で，いずれも胎土に雲母片を多く含む。38～40は口縁でいずれも波状を呈する。38・39は貼付隆帯と沈線による枠状紋に角押紋が施されるもので，内面には稜をもつ。40は貼付隆帯による枠状紋の区画内に沈線を施す。41～44は胴部である。41は細い貼付隆帯を沈線で区画し，撚糸紋が施される。42は貼付隆帯の両端に角押紋を施し，43・44は沈線を多用するものである。45～52は加曽利Ｅ式である。45は曲線的な隆起帯をもつ口縁部，46～52は縄紋を地紋とし，46～49は幅広く浅い沈線で区画するもの，50は隆起帯と沈線を併用するものである。53～56は曽利系である。いずれも厚手で，太く深い条線紋を施す。57～61は中期の所産と考えられる。62～66は堀之内式である。63は薄手の口縁で，外面全面に縄紋を施す小型鉢であろうか。他はいずれも縄紋と沈線紋を併用する。67～69は加曽利Ｂ式で，67は外面が無紋で，内面に幅広く浅い沈線の巡る鉢，他は沈線区画による磨消縄紋を施す。70～72は晩期で，70・71は変形工字紋を施す。

73～80は弥生土器で，76・78・80は中期，他は後期であろう。73～76は壺である。73は縄紋帯の上下を沈線で区画するもの，74は紋様帯に羽状縄紋を施すもの，76は外面に浅い条痕紋をもつものである。77～79は甕である。77・79は頸部に複数段の輪積み痕を残すもの，78は輪積み痕を残さず，ハケ目調整を施すものである。80は底部側面に穿孔された土器で台付鉢と考えられる。

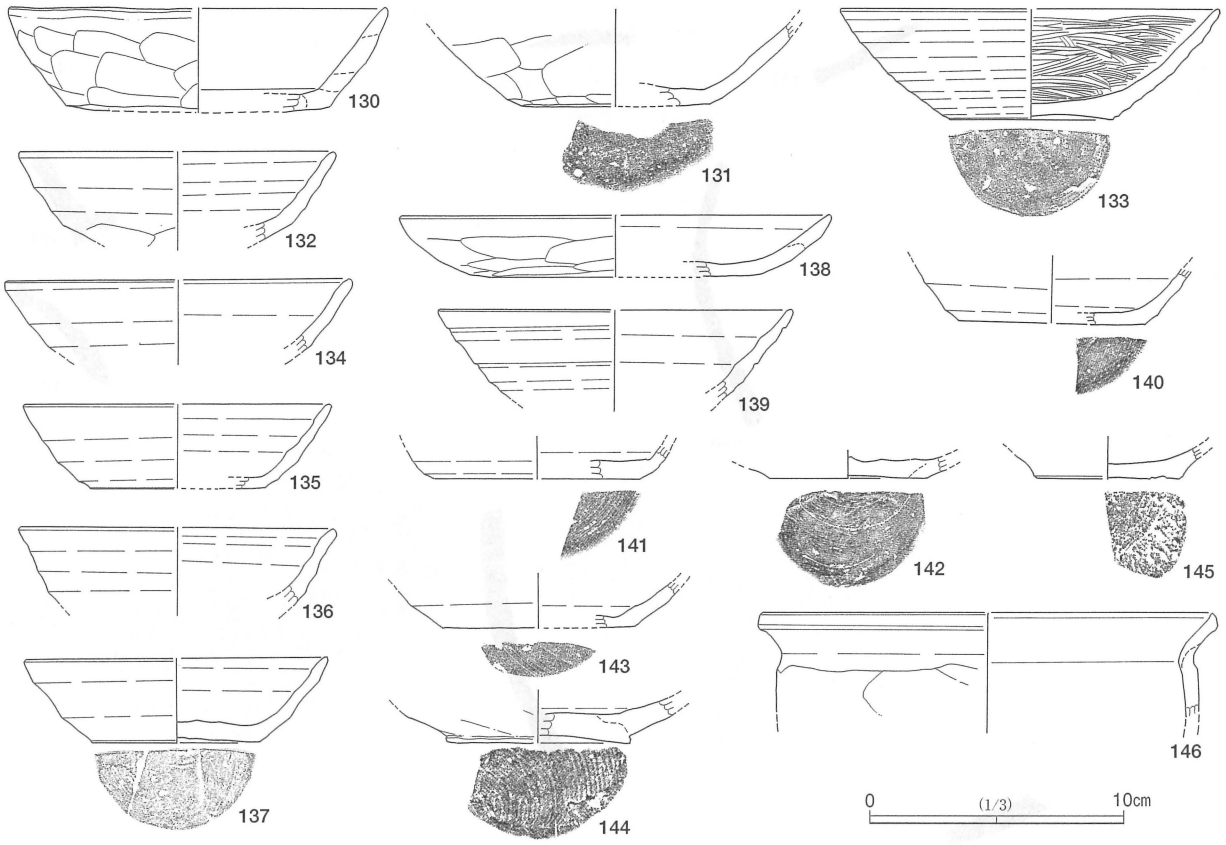
81～129は古墳時代の遺物で，81～127は土師器，128・129は須恵器である。81はいわゆる杯蓋模倣の杯，82～86は杯で，いずれも体部外面はヘラケズリ，内面はヘラナデにより整形される。87～100は鉢である。87～98は口縁で，91～94は外反し，97・98は内湾する。いずれも体部外面はヘラケズリ，内面はヘラナデにより整形されるが，88・89・95・97は外面に指頭圧痕跡を，95・97・98は外面に輪積み痕跡を残す。99・100は底部で，底面がやや丸みを持つタイプである。体部・底部共に外面はヘラケズリ，内面はヘラナデで整形される。101は小型の鉢で，口縁部のみ僅かに内湾する。外面はヘラケズリ，内面はヘラナデで整形



第32図　本調査区旧河道の遺物③



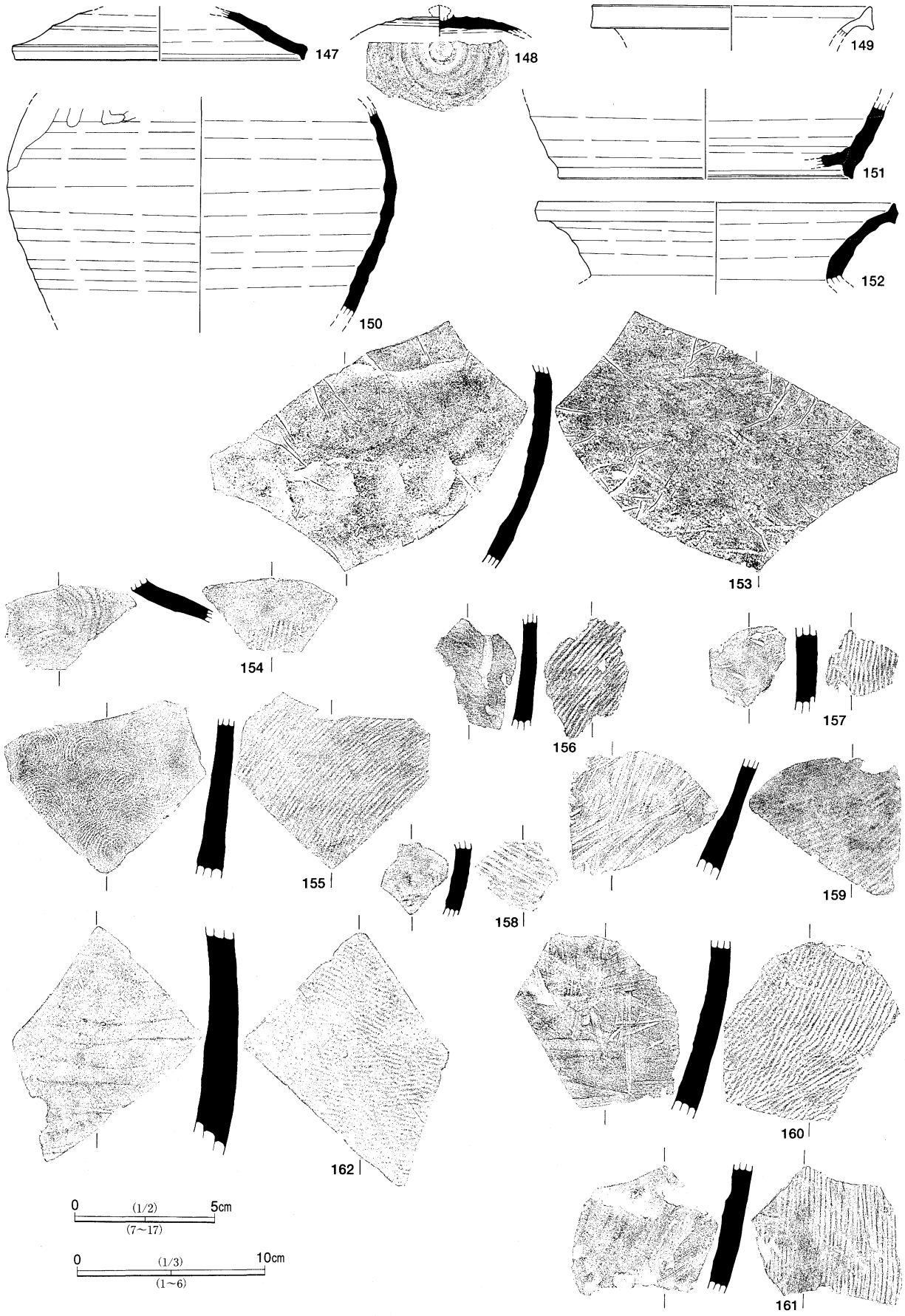
第33図　本調査区旧河道の遺物④



第34図　本調査区旧河道の遺物⑤

される。102･103はいわゆる手捏土器で，102が鉢，103が杯であろうか。共に全面に指頭圧痕を残す。104～110は粗造土器の鉢である。いずれも明瞭な輪積み痕を残し，整形にはヘラ状工具を用いながら指頭圧痕を残すものが多い。底部には明瞭な木葉痕が見られる。111・112は高杯で，111は立ち上がりの急な杯部，112は裾と脚柱の境界が明瞭な脚部である。113～115は壺で，113は複合口縁の口縁部，114・115は底部である。116は小型甕の口縁で顕著なハケ目調整を施す。117は台付甕の脚台部で，外面はヘラナデ，内面にハケ目調整痕を残す。118～121は甕で，118～119は中型，121はかなり大型の個体である。いずれも外面はヘラケズリ，内面はヘラケズリにより整形するが，120のみ内面にハケ目調整痕を残す。122～125は胴部のほとんど膨らまない甑で，123・125は小型品である。いずれも外面はヘラケズリ，内面はヘラナデで整形される。126・127は頸部のほとんどくびれない甕と考えられる。いずれも内面はヘラナデを施すが，外面は126がヘラケズリ，127はハケ目調整を施す。128･129は甕の頸部で，128は外面の上下に稜をもち，その内部に櫛描波状紋，129は縦の沈線を描く。

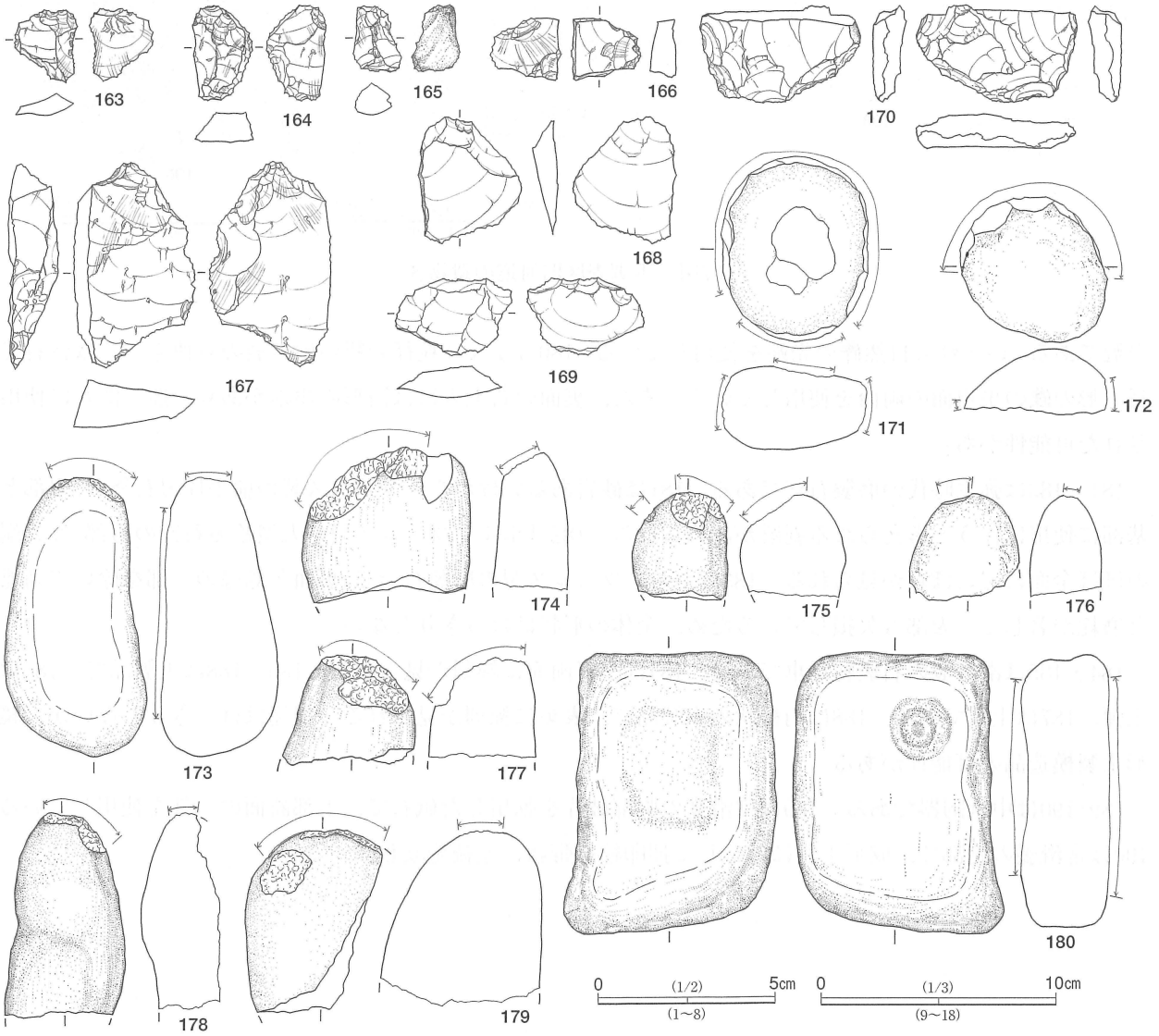
130～161は奈良・平安時代の遺物で，130～146は土師器，147・148・150～161は須恵器，149は灰釉陶器である。130･131は非ロクロの杯，138は皿で，いずれも外面は手持ちヘラケズリ，内面はヘラナデにより整形される。132～137・139～145はロクロ土師器の杯で，132は体部下端を手持ちヘラケズリ調整し，133は内面に密なミガキを施すが，他はいずれもロクロ目のみを残す。また底部は131・137が手持ちヘラケズリ，133・140・141が回転ヘラケズリ，142・143が静止ヘラケズリ，144が回転糸切り無調整，145が回転ヘラ切り無調整である。なお144は底部がやや突出し，円柱技法を用いているものと考えられる。146は口縁部が「く」字形に屈曲するタイプの甕で，外面はヘラケズリを施す。147は須恵器杯蓋，148は杯もしくは短



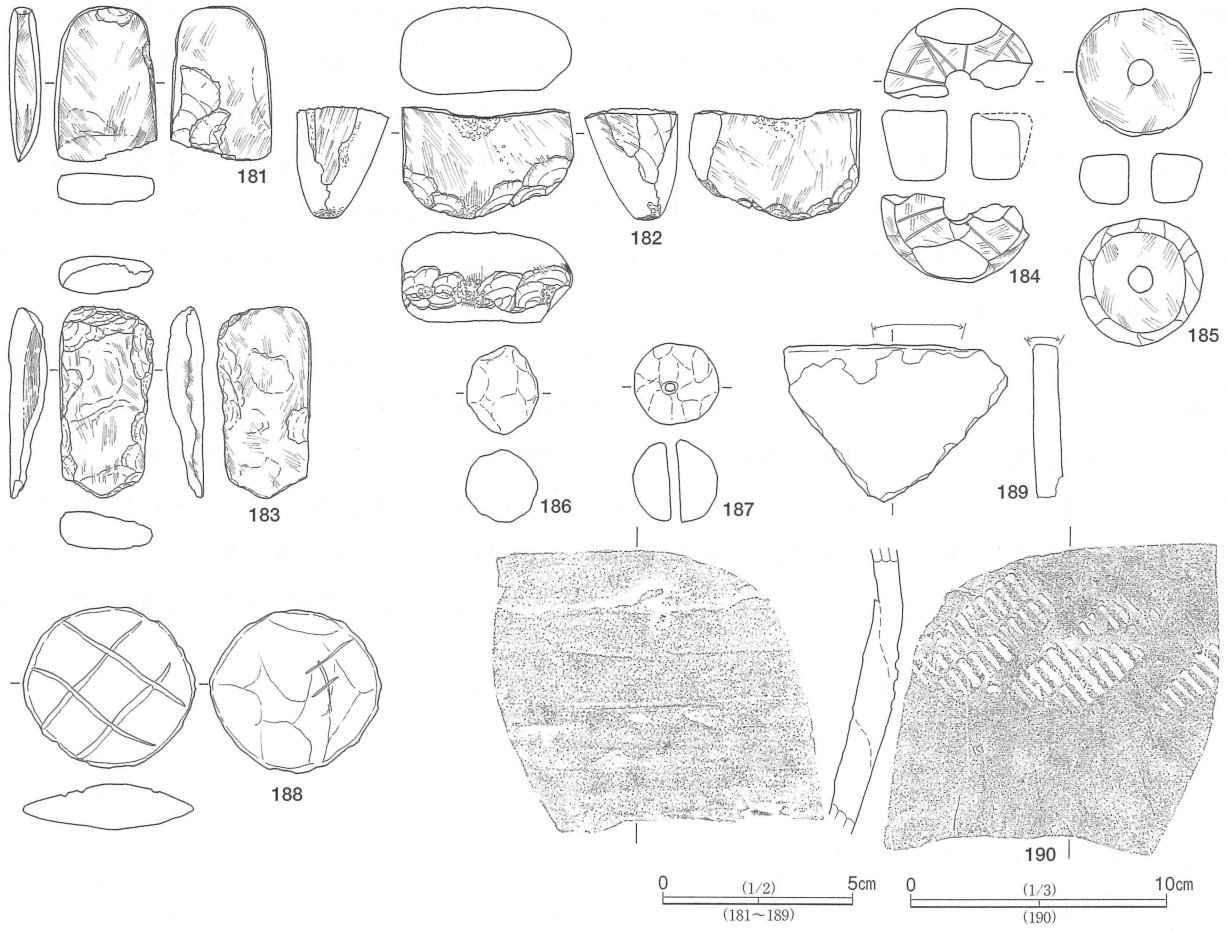
第35図　本調査区旧河道の遺物⑥

頸壺の蓋で，ツマミを欠く。149は灰釉陶器瓶子の口縁部，150･151は須恵器壺で，150は胴部，151は高台をもつ底部である。150は外面に，151は底部内面に自然釉がかかる。152～161は甕で，152は口唇部がやや上下に広がり，若干の平坦面をもつ口縁部，他はすべて胴部である。外面はいずれもタタキ目を残すが，その程度には差があり，ほとんどナデ消してしまっているもの（153），ナデを施すが，僅かに残るもの（154・159），ほとんど調整しないもの（155・160～162）まである。内面もいわゆる青海波と呼ばれる当て具痕跡を残すもの（154・155），ナデ消しているもの（156・157・161・162），粗いヘラナデを施すもの（159・160）などがある。

163～180は縄文時代の所産と考えられる石器および剥片である。163は黒曜石製の使用痕のある剥片で，右側縁に刃こぼれがみられる。164･165は黒曜石製の楔形石器である。164は上端と下端を，165は上端と裏面の左下端を調整する。166～169は剥片で，166･167は黒曜石製，168･169は粘板岩製である。170はホルンフェルス製の打製石斧で，基半部を欠くが，分銅形を呈するものと考えられる。171・172は磨石である。171は安山岩製で，楕円形の礫の側縁全周を使用し，表面の中央付近に敲打痕がある。172は砂岩製で，卵形の礫の側縁を使用している。173～179は敲石である。174は閃緑岩製，177は玄武岩製，他はすべて砂



第36図　本調査区旧河道の遺物⑦



第37図　本調査区旧河道の遺物⑧

岩製である。いずれも自然礫の先端を使用している。180はかなり粒径の粗い砂岩製の石皿もしくは台石で，長方形の礫の平坦面の両面を使用している。また，裏面の右上方には円形の窪みがあり，擂り潰しに使用された可能性がある。

181～183は弥生時代の磨製石斧である。181は砂岩あるいはホルンフェルス製の扁平片刃石斧で，刃部と基部に使用に伴うと考えられる剥離が認められる。182はホルンフェルス製の太型蛤刃石斧の刃部で，先端のほぼ全面に刃こぼれが見られる。183はホルンフェルス製の磨製石斧で，裏面と側縁の一部を除いて剥離と磨耗が著しく，刃部も欠損しているため，全体の形状ははっきりしない。

184・185は滑石製の石製紡錘車である。184は上下両面に線刻が見られる。186～188は土製品で，186は土弾，187は土玉である。188は円盤状の土製品で，表裏に線刻が見られる。用途ははっきりしないが，鏡形土製模造品の可能性がある。

189・190は中世陶器である。189は常滑甕の胴部破片を転用した砥石で，上部断面の一部を使用している。190は常滑甕の胴部で，成形工程に対応して押印紋を帯状に連続施紋している。

第4章　まとめ

長須賀条里制遺跡及び東山遺跡の遺跡範囲は広大であり，今回の調査範囲はそのごく一部をトレンチ調査したような状況に過ぎない。しかし，これまで述べてきたように縄文時代～中・近世に至るさまざまな資料が得られたことから，それぞれの遺跡について様相を概観し，まとめておきたい。

第1節　長須賀条里制遺跡

本遺跡は南北に走る砂丘帯と，丘陵に挟まれた後背湿地帯に立地するが，国道410号（北条）に伴う調査によって，かつては微高地と低湿地がモザイク状に分布する複雑な地形を呈しており，各時代でさまざまな土地利用がなされていたことが解明された[1)]。今回の調査はそれに新たな資料を付け加えたことになる。今回の第2トレンチで確認された条里型水田跡は，国道410（北条）調査区のA区で検出された条里型水田がこの部分まで延びていることを示す。また，中世のピット群は国道410（北条）調査区のC区南部及びF区で検出された中世の屋敷地に類するものと考えられる。この広がりは，北限については推定するに足る資料がないため不明だが，現道の南側の第1・第3トレンチでは基盤層が第2トレンチよりはるかに深く，西側の国道410（北条）調査区のAB区第3トレンチ及び東側の第4トレンチでもピット等の遺構は確認されていないことから現道付近が南限および西限で，東側についても同様と考えられる。規模としてはそれほど大きいものではないだろうが，今回の調査区では井戸跡が確認されていないため，屋敷地の中心は不明である。地形は若干異なるが，遺跡全体としては君津市三直中郷遺跡（中郷地区）など小糸川流域と類似する景観を想定することは可能である[2)]。

なお，本事業には未買収部分が残されており，この部分については標高がこれまで調査した部分より高くほとんどの部分の現況が畑地であるうえ，多くの遺物が散布されている現況からみて，国道410号（北条）調査区でも検出されなかった弥生時代～奈良・平安時代の集落跡が発見される可能性がある。

第2節　東山遺跡

本遺跡については今回の調査が初例となる。北側を丘陵，南側を汐入川に挟まれた低位段丘上に立地する東西に長い遺跡で，今回はその遺跡の中央付近を東西に横断するような調査区設定となった。背後の丘陵には南北方向の小支谷が複数みられ，現在の河道の流路にもその影響がうかがえること，各地点における現地表の標高差より基盤層の標高差が著しく大きいことなどの点から，過去はかなり複雑な地形であり，各時代の地形に応じて利用されていたものと推定される。残念ながら今回の調査では，この推定を明らかにするに足る人為的痕跡は見出すことができなかった。ただし，背後の丘陵に最も接近する第15トレンチ付近では，水田層下の再堆積基盤層中から比較的多量の縄文時代の遺物が出土し，この層が丘陵の斜面崩落に伴うものと考えられることから，現在痩せ尾根状を呈する丘陵部分が，遅くとも弥生時代以前の段階までは尾根上もしくはその周辺にある程度の平坦面を持ち，その部分に縄文時代の集落が営まれていた可能性がある。これまで館山市域において丘陵上は中近世城館跡以外の遺跡は想定されていないが，今後，縄文時代などの遺跡の所在についても考慮する必要があろう。

本調査区の基盤の岩盤層に掘り込まれたピットや土坑がどのような目的で作られたであろうか。少なく

とも県内では，河川に面したこのような遺構の調査例はなく，今回の調査自体も面積的にきわめて断片的であることから，実際には不明といわざるを得ない。ただし，出土遺物から見る限り，旧河道の存続時期と重なる可能性もあるので，水辺の何らかの施設に伴う可能性も考えられよう。

注1　高梨友子ほか 2004「第4章 まとめ」『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡』 財団法人千葉県文化財センター

2　笹生　衛 2003「古代集落の変化と中世的景観の形成 －西上総，小糸川流域の事例を中心に－」『千葉県史研究』第11号別冊 中世特集号　千葉県

出土遺物一覧

凡　例

・「遺構/層位」列の“T”はトレンチ，“本”は本調査区を指す。

・「寸法」のカッコ内の数値は，復元した場合の数値を示す。但し，重量のカッコ内の数値のみは破片等の遺存部分での重量を示す。

・「焼成」：●（きわめて良好），◎（良好），○（やや良好），△（普通），×（やや悪い）

・「粒度」：●（堅緻），◎（緻密），○（やや緻密），△（普通），×（粗い）

・「胎土」：色調 / 混入物とその含有量を示す。

種別/粗砂（やや径の大きい砂粒），細砂（シルト質に近い粒径の砂粒），石英（石英粒子），長石（長石粒），針（白色針状物質），繊維（植物繊維片）。量/●（夥量），◎（多量），○（中量），△（少量）。

第１表　長須賀条里制遺跡の遺物①　土器類

挿図番号	遺構/層位	区分	器種	時期	寸法（cm）			胎土			備考
					口径	底径	高	焼	粒	色調・混入物等	
第５図 2	1T 一括	瀬戸	瓶子	中世	−	−	−	◎	◎	灰白色/砂粒●	
第７図 1	2T 一括	土師	杯	古墳	(12.0)	−	(3.2)	△	◎	黄灰色/細砂○，針○	
第７図 2	2T 一括	土師	杯	古墳	(11.2)	(8.0)	(3.6)	○	◎	橙色・灰黄色/砂粒◎，針○	
第７図 3	2T 拡張区 一括	土師	杯	平安	(12.6)	−	(3.3)	◎	×	橙色/砂粒◎，細砂◎，針◎	
第７図 4	2T 一括	土師	杯	平安	−	(8.2)	(2.1)	◎	×	暗灰色/砂粒●	
第７図 5	2T P55 一括	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	◎	灰色/砂粒○，石英◎，石製◎	
第７図 6	2T 一括	瀬戸	縁釉皿	中世	(11.4)	−	(2.7)	◎	◎	灰白色/砂粒○	
第７図 7	2T 一括	瀬戸	香炉	中世	(10.6)	−	(2.5)	◎	◎	灰白色/細砂◎	袴腰型
第７図 8	2T SD−009 一括	常滑	甕	平安	−	−	−	◎		暗灰色/砂粒●，粗砂○，石英◎	
第７図 9	2T P78 一括	常滑	甕	平安	−	−	−	◎	×	淡黄灰色・灰褐色/砂粒●，石英○	
第７図 10	2T 一括	常滑	片口鉢	中世	−	−	−	◎	×	橙色/粗砂◎，石英○	
第７図 11	2T SD−008 一括	常滑	甕	平安	−	−	−	◎	×	橙色/砂粒●，粒石英粒○	
第７図 12	2T 拡張区 一括	常滑	甕	中世	−	−	−	◎	△	暗灰色/砂粒◎，石英○	
第８図 2	3T 一括	土師	粗造鉢	古墳	−	(8.0)	(3.2)	△	◎	灰色/砂粒◎	
第８図 3	3T 一括	瀬戸	瓶子	中世	−	−	−	◎	◎	灰白色/砂粒◎	

第２表　長須賀条里制遺跡の遺物②　土製品・石製品

挿図	遺構/層位	区分	器種	寸法（cm）				重量	備考（石材等）
				長(高)	幅(径)	厚	孔径	(g)	
第７図 13	2T 一括	土製品	勾玉形模造品	(2.5)	1.8	−	−	(6.6)	上下欠損。
第７図 14	2T/SD−009	土製品	管状土錘	(4.9)	1.8	−	0.9	(11.5)	下部一部欠損。
第７図 15	2T/SB−003	土製品	管状土錘	5.1	1.9	−	0.7	14.1	
第７図 16	2T 一括	石製品	砥石	(5.2)	(4.7)	(2.3)	−	(16.7)	下部欠損。
第８図 4	3T 一括	土製品	土玉	1.6	2.4	−	0.2	7.3	

第３表　東山遺跡の遺物①　縄文土器

挿図番号	遺構/層位	部位	時期	胎土			備考
				焼	粒	色調/混入物	
第21図 3	14T 検出面一括	口縁下	後期	×	○	黒褐色・橙褐色/砂粒●	
第25図 1	15T 東側 Ⅱ層	口縁	早期（条痕紋）	○	△	黒褐色/繊維◎，砂粒●	口唇部キザミ
第25図 2	15T 東側 Ⅱ層	口縁	早期（条痕紋）	○	◎	黒褐色〜暗褐色/繊維◎，灰白粒◎，長石粒○	
第25図 3	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色〜灰黄褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 4	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 5	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維◎，砂粒◎	
第25図 6	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	○	△	黒褐色/繊維◎，石英粒●，砂粒●	
第25図 7	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	○	×	黒色〜黒褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 8	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	×	×	黒褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 9	15T 東側 Ⅱ層	胴上半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 10	15T 東側 Ⅱ層	胴上半	早期（条痕紋）	◎	○	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 11	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	灰褐色/繊維◎，石英粒◎，砂粒◎	
第25図 12	15T 東側 Ⅱ′層	胴下半	早期（条痕紋）	◎	○	黒褐色/繊維●，砂粒◎	

挿図番号	遺構/層位	部位	時期	胎土			備考
				焼	粒	色調/混入物	
第25図 13	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	○	×	黒褐色/繊維◎，石英粒◎，砂粒●	
第25図 14	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	×	×	黒色/繊維◎，砂粒●	
第25図 15	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	△	○	暗褐色/繊維◎，砂粒◎	
第25図 16	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 17	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	△	黒色～黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 18	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 19	15T 拡張区 下層	胴下半	早期（条痕紋）	△	○	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 20	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 21	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	×	×	黒色～黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第25図 22	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	△	×	暗黄灰色～暗灰褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 23	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	×	×	黒褐色・橙色/繊維●，粗砂○，砂粒○	
第25図 24	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	△	△	黒褐色/繊維●，石英粒◎，砂粒◎	
第25図 25	15T 拡張区 下層	胴中位	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 26	15T 東側 Ⅱ層	胴下半	早期（条痕紋）	△	◎	黒褐色・暗橙褐色/繊維●，石英粒○，砂粒◎	
第25図 27	15T 東側 Ⅱ′層	底直上	早期（条痕紋）	△	×	暗褐色/繊維◎，砂粒◎	尖底
第25図 28	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期（条痕紋）	◎	×	黒褐色/繊維●，砂粒◎	
第25図 29	15T 拡張区 下層	胴中位	早期（条痕紋）	◎	○	黒褐色/繊維●，砂粒●	内面コゲ付着
第25図 30	15T 東側 Ⅱ層	口縁下	早期（条痕紋）	△	×	暗灰褐色/繊維◎，石英粒◎，砂粒●	
第25図 31	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	早期末～前期初	○	○	黒褐色・橙色/繊維●，石英粒○，砂粒◎	
第25図 32	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	前期前葉	○	×	黒褐色/繊維●，砂粒◎	
第25図 33	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	前期前葉	△	△	暗灰褐色/繊維●，砂粒●	
第25図 34	15T 東側 Ⅱ層	口縁	前期	△	×	黒褐色/砂粒●，石英粒○	
第25図 35	15T 東側 Ⅱ層	胴中位	前期	◎	×	灰褐色/砂粒●，粗砂◎	
第25図 36	15T 東側 Ⅱ′層	胴上半	前期（関山）	△	×	黒褐色・褐灰色/石英粒○，粗砂●，砂粒○	
第25図 37	15T 拡張区 下層	胴上半	前期（五領ヶ台）	△	△	橙褐色/砂粒●，石英○	
第26図 38	15T 拡張区 下層	胴下半	中期？	◎	◎	暗褐色～褐色/砂粒◎	
第26図 39	15T 一括	胴下半	中期？	◎	△	暗褐色・橙色/砂粒●，白色粒子◎	
第26図 40	15T 一括	口縁	中期？	△	×	黒褐色/砂粒●，粗砂○，石英◎	
第26図 41	15T 拡張区 下層	胴上半	中期？	△	×	暗赤褐色/砂粒●	
第26図 42	15T 一括	口縁	中期？	○	○	黒褐色/砂粒◎，長石粒○	
第26図 43	15T 一括	口縁下	中期（中峠？）	◎	◎	暗黄灰色/砂粒◎，粗砂◎	
第26図 44	15T 一括	口縁	中期（阿玉台）	△	×	黒褐色/雲母粒●，石英粒◎	
第26図 45	15T 一括	胴上半	中期（加曾利E）	△	×	暗灰褐色/砂粒●，小石粒○	
第26図 46	15T 一括	胴中位	中期（加曾利E）	◎	△	黒褐色/砂粒●	
第26図 47	15T 拡張区 下層	胴中位	中期（加曾利E）	×	×	黒褐色・灰褐色/砂粒●，石英粒○，長石粒○	
第26図 48	15T 一括	胴中位	中期（加曾利E）	◎	○	暗褐色/砂粒●，灰白色粒○	
第26図 49	15T 一括	胴中位	中期（加曾利E）	△	×	黒褐色/砂粒◎，白色粒○	
第26図 50	15T 一括	胴中位	中期（加曾利E）	×	×	橙褐色/砂粒●，粗砂○	
第26図 51	15T 拡張区 下層	胴中位	中期（加曾利E）	○	×	暗橙褐色～暗黄褐色/砂粒●	
第26図 52	15T 一括	胴中位	後期（称名寺）	◎	○	黒褐色/砂粒◎	
第26図 53	15T 拡張区 下層	胴中位	後期（堀之内）	○	×	暗褐色/砂粒◎，長石細粒◎，白色針状物質△	
第26図 54	15T 拡張区 下層	胴上半	後期（安行１）	●	◎	暗灰褐色/砂粒◎，白色針状物質○	第26図55と同一？
第26図 55	15T 拡張区 下層	胴中位	後期（安行１）	●	◎	暗灰褐色/砂粒◎，白色針状物質○	第26図54と同一？
第29図 1	本調査区/下層	胴下半	早期（条痕紋）	△	○	黒褐色/繊維◎，砂粒◎	
第29図 2	本調査区/下層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒色・橙褐色/繊維◎，砂粒●，石英粒●	
第29図 3	本調査区/下層	胴中位	中期（曽利並行）	△	？	？/砂粒？◎	全面鉄分膠着
第29図 4	本調査区/下層	口縁下	中期（曽利並行）	◎	？	？/砂粒？●	全面鉄分膠着
第30図 1	本/旧河道 上層	口縁	前期	×	×	灰色～灰白色/砂粒●	
第30図 2	本/旧河道 中層	口縁	早期（撚糸紋）	△	○	暗灰褐色/繊維●，砂粒◎	
第30図 3	本/旧河道 上層	口縁	早期（撚糸紋）	×	×	暗灰褐色・橙灰色/繊維○，砂粒●	
第30図 4	本/旧河道 上層	胴中位	早期（撚糸紋）	○	×	黒色/繊維○，砂粒･細砂粒◎，白色針状物質△	
第30図 5	本/旧河道 上層	口縁	早期（撚糸紋）	△	×	黒褐色・橙色/繊維△，砂粒●，粗砂粒○	
第30図 6	本/旧河道 上層	胴中位	早期（撚糸紋）	◎	×	暗灰色/繊維○，砂粒●，石英粒◎	
第30図 7	本/旧河道 上層	胴上半	早期（撚糸紋）	△	×	黒褐色/繊維●，砂粒◎，粗砂粒○，石英粒◎	第29図11と同一？
第30図 8	本/旧河道 中層	胴中位	早期（撚糸紋）	○	×	黒褐色/繊維◎，砂粒●	
第30図 9	本/旧河道 上層	胴下半	早期（撚糸紋）	◎	△	黒褐色・褐灰色/繊維○，砂粒●，黄灰色礫粒○	
第30図 10	本/旧河道 上層	胴下半	早期（撚糸紋）	○	×	黒褐色/繊維○，砂粒●，石英粒○，長石粒○	
第30図 11	本/旧河道 中層	胴下半	早期（撚糸紋）	△	×	黒褐色/繊維●，砂粒◎，粗砂粒○，石英粒◎	第29図７と同一？
第30図 12	本/旧河道 中層	胴中位	早期（撚糸紋）	◎	○	灰色・褐灰色/繊維○，砂粒●	
第30図 13	本/旧河道 中層	胴中位	早期（撚糸紋）	○	×	暗灰色/繊維○，砂粒●	
第30図 14	本/旧河道 上層	口縁	早期（田戸下層）	△	×	灰色/砂粒●，石英粒○，長石粒○	
第30図 15	本/旧河道 上層	口縁	早期（三戸）	△	×	灰黄色～暗灰色/砂粒◎，長石粒●，白色針状物質○	
第30図 16	本/旧河道 中層	胴上半	早期（三戸）	○	×	黒褐色～暗褐色/砂粒●，石英粒◎	
第30図 17	本/旧河道 上層	胴中位	早期（条痕紋）	○	○	黒褐色/繊維◎，砂粒○	
第30図 18	本/旧河道 上層	胴下半	早期（条痕紋）	△	×	黒褐色・橙色/繊維◎，砂粒◎，長石粒◎	
第30図 19	本/旧河道 中層	胴中位	早期（条痕紋）	×	×	黒色/繊維●，砂粒◎	
第30図 20	本/旧河道 上層	胴上半	早期（条痕紋）	△	△	暗褐色/繊維○，砂粒◎，粗砂●	
第30図 21	本/旧河道 中層	口縁	早期末？	△	×	灰褐色/繊維◎，砂粒●，石英粒◎	
第30図 22	本/旧河道 上層	胴上半	前期（花積下層）	◎	△	黒褐色/繊維◎，砂粒●，石英粒◎	
第30図 23	本/旧河道 中層	胴上半	前期（花積下層）	◎	○	黒灰色/砂粒◎，粗砂○	
第30図 24	本/旧河道 上層	胴上半	前期（花積下層）	◎	×	暗褐色～黒褐色/繊維○，砂粒●	第29図25と同一？

挿図番号	遺構/層位	部位	時期	胎土			備考
				焼	粒	色調/混入物	
第30図 25	本/旧河道 上層	胴中位	前期（花積下層）	◎	×	暗褐色～黒褐色/繊維○，砂粒●	第29図24と同一？
第30図 26	本/旧河道 上層	胴中位	前期前葉	◎	×	褐灰色/砂粒◎	
第30図 27	本/旧河道 上層	胴上半	前期前葉	●	×	暗灰褐色/砂粒●，石英○，長石粒◎	
第30図 28	本/旧河道 上層	口縁	前期（諸磯C）	△	×	褐色/砂粒●，石英粒◎	
第30図 29	本/旧河道 上層	胴中位	前期（諸磯C）	◎	×	黒褐色・暗褐色/石英粒●	外面スス付着
第30図 30	本/旧河道 中層	胴中位	前期（十三菩提）	◎	◎	黒褐色/砂粒●	
第30図 31	本/旧河道 中層	胴上半	前期（十三菩提）	△	○	灰褐色/砂粒●，石英粒◎	
第30図 32	本/旧河道 上層	口縁下	前期（十三菩提）	◎	◎	暗褐色/粗砂○	
第30図 33	本/旧河道 上層	胴上半	中期（五領ヶ台）	○	×	黄灰褐色/砂粒●，雲母粒◎	
第30図 34	本/旧河道 中層	胴上半	中期（勝坂）	◎	△	灰褐色/砂粒◎	
第30図 35	本/旧河道 上層	胴上半	中期（勝坂）	○	×	暗灰色/石英●，粗砂●	第29図38と同一
第30図 36	本/旧河道 上層	胴上半	中期（勝坂）	◎	△	暗褐色/砂粒●	
第30図 37	本/旧河道 上層	胴上半	中期（勝坂）	○	×	暗灰色/石英●，粗砂●	第29図36と同一
第30図 38	本/旧河道 上層	口縁	中期（阿玉台）	○	×	暗灰褐色/砂粒●，雲母粒●	
第30図 39	本/旧河道 中層	口縁	中期（阿玉台）	△	×	灰褐色/雲母粒◎，砂粒●，粗砂粒◎，石英粒◎	
第30図 40	本/旧河道 上層	口縁	中期（阿玉台）	○	×	灰褐色/雲母粒●，砂粒◎，石英粒◎	
第30図 41	本/旧河道 上層	胴中位	中期（阿玉台）	◎	×	黒褐色/雲母粒○，砂粒●，長石粒●	
第30図 42	本/旧河道 上層	胴上半	中期（阿玉台）	△	○	暗灰色/雲母粒◎，砂粒●，粗砂粒◎，石英粒◎	
第30図 43	本/旧河道 上層	胴中位	中期（阿玉台）	△	×	褐灰色～暗褐灰色/雲母粒●，粗砂粒◎，石英粒◎	
第31図 44	本/旧河道 上層	胴中位	中期（阿玉台）	△	×	褐灰色/雲母粒●，粗砂粒●，石英粒●	
第31図 45	本/旧河道 上層	口縁	中期（加曾利E）	△	×	褐灰色～暗灰色/雲母粒◎，粗砂●，石英粒◎	
第31図 46	本/旧河道 上層	胴中位	中期（加曾利E）	×	×	灰色/砂粒◎，粗砂○	
第31図 47	本/旧河道 中層	胴中位	中期（加曾利E）	○	×	灰色/砂粒●，長石粒◎，白色針状物質◎	
第31図 48	本/旧河道 上層	胴中位	中期（加曾利E）	△	×	暗褐色/砂粒●	
第31図 49	本/旧河道 上層	胴上半	中期（加曾利E）	△	△	黒褐色～暗褐色/砂粒●，長石粒◎，	
第31図 50	本/旧河道 上層	口縁	中期（加曾利E）	△	×	黒褐色～暗褐色/砂粒◎，石英粒○	
第31図 51	本/旧河道 上層	胴中位	中期（加曾利E）	△	×	灰褐色/砂粒○，粗砂◎	
第31図 52	本/旧河道 上層	胴下半	中期（加曾利E）	△	×	暗褐色・橙色/砂粒●，石英粒◎	
第31図 53	本/旧河道 上層	胴中位	中期（曽利並行）	◎	×	灰褐色/砂粒◎，細砂粒●，灰白色泥岩粒○	
第31図 54	本/旧河道 中層	胴中位	中期（曽利並行）	◎	×	暗灰色/砂粒◎，粗砂粒◎	
第31図 55	本/旧河道 上層	胴中位	中期（曽利並行）	○	×	暗灰色・褐灰色/砂粒●，石英粒◎，長石粒◎	
第31図 56	本/旧河道 上層	口縁	中期（曽利並行）	◎	×	黒褐色/砂粒●	
第31図 57	本/旧河道 下層	胴中位	中期？	△	×	黒褐色/砂粒●	
第31図 58	本/旧河道 上層	胴中位	中期？	◎	×	暗灰色/砂粒◎，長石粒◎，白色針状物質○	
第31図 59	本/旧河道 中層	口縁	中期？	◎	×	灰黄褐色/砂粒●，長石粒○	
第31図 60	本/旧河道 中層	胴下半	中期？	○	×	黒褐色・橙色/砂粒●，粗砂○	
第31図 61	本/旧河道 上層	胴中位	中期？	◎	◎	暗褐色/砂粒◎，細砂粒●	
第31図 62	本/旧河道 上層	胴上半	後期（堀之内）	○	×	黒褐色/砂粒●	
第31図 63	本/旧河道 中層	口縁	後期（堀之内）	△	○	灰黄色～灰褐色/砂粒◎	
第31図 64	本/旧河道 上層	胴中位	後期（堀之内）	○	×	黒褐色/砂粒●	
第31図 65	本/旧河道 上層	胴中位	後期（堀之内）	◎	×	灰褐色/砂粒○，細砂粒●，石英粒◎	
第31図 66	本/旧河道 上層	胴上半	後期（堀之内）？	◎	×	黒褐色～暗褐色/砂粒●，石英◎	内面炭化物付着
第31図 67	本/旧河道 上層	口縁	後期（加曾利B）	○	×	暗褐色/砂粒◎，粗砂粒○，灰黄色泥岩粒●	
第31図 68	本/旧河道 上層	胴中位	後期（加曾利B）	●	◎	暗灰色/砂粒◎	
第31図 69	本/旧河道 上層	胴上半	後期（加曾利B）	◎	×	灰黄褐色/砂粒●	
第31図 70	本/旧河道 上層	胴上半	後期（加曾利B）	○	×	暗灰色～黒灰色/粗砂◎	
第31図 71	本/旧河道 中層	口縁	晩期	◎	×	灰褐色/砂粒●，石英粒●	
第31図 72	本/旧河道 上層	口縁下	晩期	◎	◎	暗灰色/砂粒●，長石粒●	

第４表　東山遺跡の遺物②　弥生土器

挿図番号	遺構/層位	器種	部位	時期	胎土			備考
					焼	粒	色調/混入物	
第22図 1	15T 西側 7層	壺	胴上半	中期末	◎	○	褐灰色/砂粒◎，石英粒●，長石粒◎	
第22図 2	15T 西側 7層	壺	胴上半	後期	△	◎	淡橙色/砂粒◎，石英粒●，長石粒○	外面赤彩あり
第22図 3	15T 西側 8層	壺	胴上半	中期	△	◎	灰黄色/砂粒●	外面ハケ目
第22図 4	15T 水路跡	甕	口縁	中期	◎	△	褐灰色/砂粒◎，石英粒●	口唇部指頭押捺
第22図 5	15T 水路跡	甕	胴中位	中期	◎	△	灰白色・橙色～淡橙色/砂粒●，石英粒◎	外面ハケ目
第31図 73	本/旧河道	壺	胴上半	中期末	●	◎	暗橙褐色/砂粒◎	
第31図 74	本/旧河道	壺	胴上半	中期末	◎	△	灰黄白色/砂粒◎，石英粒○	
第31図 75	本/旧河道	壺	胴上半	中期	◎	×	暗灰褐色/粗砂●，石英粒◎	
第31図 76	本/旧河道	壺	胴上半	中期？	△	△	黄褐色・黄灰褐色・黒灰色/砂粒●	外面に浅い条痕
第31図 77	本/旧河道	甕	頸部	後期	△	○	橙色・灰色/砂粒●	複数段の輪積痕
第31図 78	本/旧河道	甕	口縁下	中期	◎	◎	暗灰色/細砂粒●，白色針状物質○	外面ハケ目
第31図 79	本/旧河道	甕	口縁下	後期	△	◎	淡黄灰色～黄白色/砂粒◎，粗砂○	頸部下端に１段の輪積痕
第31図 80	本/旧河道	鉢？	底部	中期？	○	×	暗灰色/砂粒●	底部側面からの穿孔あり

第５表　東山遺跡の遺物③　古墳時代以降の土器類

挿図番号	遺構/層位	区分	器種	時期	寸法（cm）			胎土			備考
					口径	底径	高	焼	粒	色調・混入物等	
第13図 1	2T SX－1	土師	甕	古墳	－	(10.0)	(3.2)	△	×	灰色～灰黄色・橙色/砂粒◎，粗砂●	木葉痕

挿図番号	遺構/層位	区分	器種	時期	寸法（cm）			胎土			備考
					口径	底径	高	焼	粒	色調・混入物等	
第13図 2	2T 検出面一括	土師	高杯	古墳	−	−	(4.7)	◎	◎	橙色/砂粒○，石英◎，針○	
第13図 3	2T 検出面一括	土師	杯	古墳	(15.0)	−	(3.0)	◎	◎	淡橙色～灰黄色/砂粒◎，針○	
第13図 4	2T 検出面一括	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	○	灰色/細砂●	
第13図 5	2T SX－1	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	◎	灰色/細砂●	
第13図 6	2T 検出面一括	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	×	淡灰色/砂粒●	外面線刻？
第13図 7	2T 検出面一括	土師	杯	奈良	−	(9.4)	(2.1)	○	◎	黄灰白色/細砂○，褐色粒◎，黄白色粒◎	
第13図 8	2T 検出面一括	土師	高台杯	平安	−	(5.2)	(1.3)	◎	○	暗灰色～灰白色・橙色/細砂○，針△	
第13図 9	2T 検出面一括	土師	高台杯	平安	−	(6.6)	(1.8)	◎	○	灰色～灰白色・淡橙色/細砂◎，灰白色粒○	
第13図 10	2T SX－1	土師	高台杯	平安	(17.2)	−	(1.9)	◎	◎	淡橙色～橙色/細砂◎	
第13図 11	2T SX－1	陶器	片口鉢	中世	−	−	(3.5)	◎	×	灰色/砂粒●，粗砂●，石英●	
第13図 12	2T 検出面一括	瀬戸	縁釉皿	中世	(10.8)	−	(1.8)	◎	×	灰白色（帯黄）/細砂◎	鉄釉
第13図 13	2T 検出面一括	染付	椀	中世	−	(4.0)	(1.8)	●	●	乳白色/砂粒△	口縁部破砕
第15図 1	3T SD－002	須恵	杯蓋	平安	−	−	(1.3)	◎	◎	灰色/細砂○，石英○	
第15図 2	3T 一括	土師	杯	平安	(13.4)	(8.4)	4.3	◎	◎	黄橙色/細砂○，赤褐色粒○	
第15図 3	3T 一括	土師	杯	平安	−	(4.8)	(1.1)	△	△	灰黄色/砂粒○，細砂○，赤褐色粒◎	
第15図 4	3T SD－002	須恵	杯蓋	平安	(19.3)	−	(1.2)	◎	×	灰色～暗灰色/細砂○	
第15図 5	3T 一括	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	△	灰色～灰白色/細砂○	
第15図 6	3T 一括	瀬戸	小皿	中世	(7.8)	−	(1.8)	◎	◎	灰白色/細砂○	灰釉
第15図 7	3T 一括	瀬戸	灯明皿	近世	(11.7)	−	(1.6)	◎	○	灰白色/細砂○	褐釉
第18図 1	9T 一括	土師	高台杯	平安	−	(8.1)	(1.7)	◎	◎	灰白色・橙色/細砂○，針○，灰白色粒◎	
第18図 2	9T 一括	須恵	甕	平安	−	−	−	●	◎	灰色/砂粒●	
第18図 3	11T 一括	土師	杯	平安	(12.8)	(7.6)	4.4	○	×	橙色/細砂○，灰白色粒◎	
第18図 4	11T 一括	土師	杯	奈良	−	(6.8)	(1.3)	△	×	橙色～橙褐色/砂粒●，針△	
第21図 1	13T 一括	須恵	甕	古墳	−	−	−	●	○	灰色/細砂●	
第23図 6	15T 6層	土師	杯	古墳	(16.4)	−	(3.3)	◎	×	淡橙色/砂粒●，針○	全面赤彩
第23図 7	15T 拡張区	土師	鉢	奈良	−	(7.2)	(4.8)	◎	◎	灰色・淡橙色/砂粒◎，粗砂◎，針○	
第23図 8	15T 一括	土師	粗造鉢	古墳	−	(5.8)	(3.6)	●	◎	暗赤褐色/砂粒●，針◎，赤橙色粒○	
第23図 9	15T 一括	須恵	杯蓋	平安	−	−	(1.3)	◎	△	灰白色/細砂●，白色粒○	
第23図 10	15T 拡張区	土師	杯	平安	(12.4)	(7.8)	4.0	◎	◎	灰黄色/砂粒◎，針○	
第23図 11	15T 一括	土師	台付甕	奈良	−	(4.4)	(2.2)	◎	◎	淡橙色・黄灰色/粗砂●，針○	
第23図 12	15T 一括	須恵	壺	平安	−	−	−	◎	○	灰白色/細砂●，炭化粒○	外面自然釉
第23図 13	15T 6層	瀬戸	平碗	中世	−	4.5	(1.6)	●	×	淡黄橙色/砂粒●	褐釉
第23図 14	15T 上層一括	青磁	碗	中世	−	−	−	●	●	灰白色/混入物なし	
第23図 15	15T 一括	瓦質	羽釜	中世	−	−	−	◎	◎	灰色～灰白色/細砂○	
第27図 1	1T 一括	瀬戸	擂鉢	中世	(33.4)	−	(3.8)	●	×	灰白色/砂粒◎，石英○	鉄釉
第27図 2	1T 一括	白磁？	皿？	中世	(18.8)	−	(1.9)	●	●	灰白色/石英○	全面釉
第27図 5	4T 一括	土師	高台杯	平安	−	(5.8)	(1.9)	△	△	暗灰色・橙色/砂粒○，細砂◎，針●，褐色粒	
第27図 6	4T 一括	土師	高台杯	平安	−	(7.5)	(2.0)	△	△	灰白色～灰黄色/細砂●，針○，灰黄色粒○	
第27図 7	5T 一括	土師	杯	古墳	−	(8.0)	(3.4)	○	◎	橙色～淡橙色/砂粒○，細砂◎，針●，褐色粒○	
第27図 8	6T 一括	常滑	片口鉢	中世	(32.6)	−	(4.5)	◎	×	暗灰色/砂粒●，粗砂◎	
第27図 9	8T 一括	土師	杯	平安	(9.8)	(6.0)	3.7	◎	△	橙色・淡黄橙色/細砂◎	
第27図 10	8T 一括	須恵	甕	平安	−	−	−	●	△	灰白色/細砂◎	
第27図 11	8T 一括	常滑	片口鉢	中世	(27.6)	−	(5.0)	●	×	橙色/砂粒●，粗砂○	
第27図 12	8T 一括	常滑	甕	中世	−	−	−	◎	△	灰色/砂粒●	タタキ目あり
第27図 13	8T 一括	常滑	甕	中世	−	−	−	◎	×	灰黄色/砂粒●，小石粒○	
第27図 14	16T 下層一括	土師	甕	古墳	−	(7.2)	(2.4)	◎	△	暗灰褐色・橙色/粗砂◎，細砂○，針○	
第27図 15	16T 中層一括	土師	杯	奈良	(9.2)	−	(2.5)	◎	◎	淡橙色/砂粒◎，石英○	
第27図 16	16T 中層一括	土師	杯	平安	(13.3)	(6.9)	3.3	◎	◎	淡橙色/細砂◎	
第27図 17	16T 中層一括	土師	杯	平安	(18.2)	−	(3.0)	△	×	橙色/細砂○	
第27図 18	16T 中層一括	須恵	甕	平安	−	−	−	●	△	灰白色/砂粒●，細砂●	
第27図 19	16T 上層一括	常滑	甕	中世	−	−	−	◎	○	灰褐色/砂粒◎，石英◎	外面自然釉
第27図 20	16T 上層一括	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	×	灰白色/砂粒○，細砂◎	
第27図 21	16T 中層一括	土師	小皿	中世	(8.4)	(5.8)	1.4	△	×	黄橙色～黄灰色/細砂△，灰白色粒○	
第27図 22	16T 中層一括	土師	燭台？	中世	2.8	2.3	1.6	◎	◎	橙色/細砂○	
第27図 23	16T 上層一括	瀬戸	香炉	中世	−	(7.7)	(1.6)	◎	△	灰黄白色/細砂○	
第27図 25	16T 下層一括	土師	高台杯	平安	−	−	−	◎	◎	橙色/細砂◎，針○	
第29図 17	本調査区/下層	須恵	甕	平安	−	−	−	●	○	灰色/砂粒●，炭化粒○	内面自然釉
第29図 18	本調査区/下層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	×	灰色/砂粒◎	
第29図 19	本調査区/下層	須恵	杯蓋？	古墳？	−	−	(1.8)	●	◎	黒灰色/砂粒●，石英○	外面自然釉
第32図 81	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(17.8)	−	(5.0)	◎	△	灰黄色/砂粒●，針○	
第32図 82	本/旧河道 中層	土師	杯	古墳	(15.8)	−	(3.1)	◎	◎	灰黄色～淡橙色/砂粒△，細砂◎，針○	
第32図 83	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(12.6)	−	(3.9)	◎	△	灰黄褐色/砂粒○，細砂◎，針○	
第32図 84	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(15.0)	−	(4.5)	◎	◎	灰黄白色/粗砂◎，針○	
第32図 85	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(13.8)	−	(4.7)	◎	○	灰黄色/砂粒○，細砂●，針○	
第32図 86	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(15.8)	−	(3.8)	◎	△	灰黄褐色/砂粒●，粗砂◎，針◎	
第32図 87	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(13.0)	−	(5.0)	△	○	淡褐灰色/砂粒●，針○	
第32図 88	本/旧河道 中層	土師	杯	古墳	(13.8)	−	(3.0)	◎	△	淡橙灰色/砂粒◎，針○，赤褐色粒○	
第32図 89	本/旧河道 上層	土師	杯	古墳	(15.8)	−	(5.5)	△	△	灰黄色/砂粒○，針◎	
第32図 90	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(10.7)	−	(5.0)	○	○	黄灰色・暗灰色/砂粒◎，粗砂○，針△	
第32図 91	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(18.3)	−	(7.8)	◎	×	黄灰色/砂粒●，針◎，橙色粒◎	
第32図 92	本/旧河道 中層	土師	鉢	古墳	(15.5)	−	(6.6)	△	△	暗灰色・灰褐色/砂粒◎，粗砂○，針△	

挿図番号	遺構/層位	区分	器種	時期	寸法（cm）			胎土			備考
					口径	底径	高	焼	粒	色調・混入物等	
第32図 93	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(14.3)	−	(3.0)	◎	○	暗黄灰色/砂粒◎，針△	
第32図 94	本/旧河道 中層	土師	鉢	古墳	(12.2)	−	(5.0)	◎	△	黄灰色/砂粒◎，粗砂○，針△	
第32図 95	本/旧河道 中層	土師	鉢	古墳	(16.2)	−	(5.3)	△	×	褐灰色/砂粒◎，粗砂△，針○	
第32図 96	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(12.4)	−	(5.5)	△	△	灰黄色/砂粒●	
第32図 97	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(7.6)	−	(5.9)	◎	×	暗灰色・灰黄色/砂粒◎，針○	
第32図 98	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	(13.3)	−	(4.8)	◎	×	灰褐色/砂粒◎，針△	
第32図 99	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	−	6.4	(4.1)	●	△	橙色・淡橙色/粗砂○，細砂◎，針○	
第32図100	本/旧河道 上層	土師	鉢	古墳	−	6.4	(2.3)	◎	○	明灰色・黄灰色/砂粒◎，針○	
第32図101	本/旧河道 上層	土師	小型鉢	古墳	(8.4)	5.2	5.0	△	○	灰黄色/砂粒◎，針○	
第32図102	本/旧河道 上層	土師	手捏	古墳	(7.4)	(6.0)	3.6	△	×	褐灰色・灰褐色/砂粒○，細砂●	
第32図103	本/旧河道 上層	土師	手捏	古墳	(8.6)	(5.6)	2.5	△	×	暗灰色・黄灰色/細砂○，針○，黄灰色泥岩粒◎	
第32図104	本/旧河道 上層	土師	粗造鉢	古墳	(12.4)	(7.6)	(10.0)	◎	○	暗褐色～黒褐色/砂粒◎，粗砂○，針△	脈相顕著
第32図105	本/旧河道 上層	土師	粗造鉢	古墳	−	7.8	(4.0)	◎	△	橙色・黄灰色/砂粒●，粗砂◎，針○	脈相不明瞭
第32図106	本/旧河道 中層	土師	粗造鉢	古墳	−	7.8	(5.2)	●	○	橙色・灰黄色/砂粒◎，針○	脈相顕著
第32図107	本/旧河道 上層	土師	粗造鉢	古墳	−	7.8	(7.7)	◎	△	淡灰色・黄灰色/砂粒◎，粗砂○，針○	脈相顕著
第32図108	本/旧河道 中層	土師	粗造鉢	古墳	−	(6.6)	(3.3)	◎	△	暗灰黄色～黄灰色/砂粒◎，針△	脈相不明瞭
第32図109	本/旧河道 中層	土師	粗造鉢	古墳	−	(7.8)	(2.2)	◎	○	褐灰色/粗砂◎，針○	脈相顕著
第32図110	本/旧河道 上層	土師	粗造鉢	古墳	−	(6.4)	(2.6)	◎	×	暗黄灰色/砂粒◎，粗砂○，針◎	脈相不明
第33図111	本/旧河道 中層	土師	鉢？	古墳	(14.2)	−	(9.0)	◎	○	淡灰褐色～淡橙黄色/砂粒◎，針○	
第33図112	本/旧河道 上層	土師	高杯	古墳	−	(11.4)	(2.3)	◎	◎	灰褐色～淡橙色/砂粒●，針△	
第33図113	本/旧河道 上層	土師	壺	古墳	(13.0)	−	(2.9)	◎	×	灰黄褐色/砂粒●，粗砂◎	
第33図114	本/旧河道 中層	土師	壺？	古墳	−	(7.8)	(3.3)	◎	×	淡橙色・黄灰褐色/砂粒●，長石◎，針△	
第33図115	本/旧河道 上層	土師	甕	古墳	−	(7.4)	(3.0)	◎	×	暗灰色・淡橙色/砂粒●，長石◎	磨耗
第33図116	本/旧河道 上層	土師	中型甕	古墳	(11.5)	−	(4.0)	◎	◎	灰白色～黄白色/粗砂◎，長石○，針○	外面ハケ
第33図117	本/旧河道 上層	土師	台付甕	古墳	−	(8.3)	(3.1)	◎	×	橙色/砂粒●，長石◎，針△	内面ハケ
第33図118	本/旧河道 上層	土師	甕	古墳	(15.4)	−	(17.3)	◎	×	灰黄褐色～橙色/砂粒◎，粗砂○，針◎	
第33図119	本/旧河道 上層	土師	甕	古墳	−	(6.2)	(8.0)	◎	△	黄灰色/砂粒◎，粗砂●，針○	
第33図120	本/旧河道 上層	土師	甕	古墳	(23.9)	−	(11.5)	◎	△	暗灰色・暗黄灰色/砂粒◎，粗砂○，針○	
第33図121	本/旧河道 上層	土師	甕	古墳	(25.5)	−	(12.5)	◎	△	暗灰色・淡橙色/砂粒◎，粗砂○，針◎	
第33図122	本/旧河道 上層	土師	甑	古墳	(26.0)	−	(15.2)	◎	×	暗灰色・褐灰色/砂粒●，粗砂○，針○	
第33図123	本/旧河道 上層	土師	甑	古墳	(14.8)	(6.2)	(9.0)	◎	×	灰褐色・褐灰色/砂粒●，粗砂○，針●	
第33図124	本/旧河道 上層	土師	甑	古墳	−	(8.2)	(4.6)	◎	×	橙色・淡橙色/砂粒●，針△	
第33図125	本/旧河道 上層	土師	甑	古墳	(16.4)	−	(3.8)	◎	×	灰褐色/砂粒●，粗砂○，針○	
第33図126	本/旧河道 上層	土師	甑？	古墳？	(19.0)	−	(7.5)	△	○	黄灰色/砂粒○，針△	
第33図127	本/旧河道 上層	土師	甑？	古墳	(19.2)	−	(6.5)	◎	×	淡灰色・淡橙色/砂粒●，針○	外面ハケ
第33図128	本/旧河道 上層	須恵	甕	古墳	−	−	−	×	△	にぶい橙褐色・暗灰色/砂粒◎，石英○	
第33図129	本/旧河道 中層	須恵	甕	古墳	−	−	−	◎	×	灰白色/細砂●	
第34図130	本/旧河道 上層	土師	杯	奈良	(15.0)	(10.4)	(4.1)	◎	○	淡黄橙色・淡灰色/砂粒●，針○	
第34図131	本/旧河道 上層	土師	杯	奈良	−	(7.4)	(3.4)	○	○	灰黄色・淡橙色/細砂●，針△	
第34図132	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.6)	−	(3.6)	◎	◎	橙色～淡橙色/細砂○，褐色ブロック○	
第34図133	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(15.0)	6.4	4.4	●	◎	橙色～淡橙色/細砂○，針●	内面ミガキ
第34図134	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(13.6)	−	(2.8)	◎	◎	褐灰色～淡橙色/細砂○，針△	
第34図135	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.0)	(6.6)	3.4	◎	◎	灰白色～淡紅色/細砂○，灰白色粒○	
第34図136	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.4)	−	(3.0)	◎	◎	橙色・淡黄灰色/細砂◎	
第34図137	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(12.0)	6.6	3.3	●	◎	淡灰色・淡橙色/細砂○，針△	
第34図138	本/旧河道 上層	土師	盤	奈良	(17.0)	(9.8)	2.5	◎	◎	橙色・淡黄灰色/細砂◎，褐色粒○	
第34図139	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	(14.0)	−	(3.5)	●	○	淡黄褐色・淡橙色/細砂●，針○	
第34図140	本/旧河道 中層	土師	杯	平安	−	(7.4)	(2.4)	◎	◎	橙色/細砂○	
第34図141	本/旧河道 中層	土師	杯	平安	−	(8.0)	(1.3)	◎	◎	橙黄色/細砂●，針○	
第34図142	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	−	(6.2)	(0.9)	◎	◎	灰白色・橙色/細砂△，灰黄白色粒◎	
第34図143	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	−	(7.6)	(1.8)	●	◎	橙色/細砂○	
第34図144	本/旧河道 上層	土師	杯	平安	−	7.2	(1.8)	◎	○	橙色・淡黄灰色/砂粒●，長石◎，灰黄色粒○	
第34図145	本/旧河道 中層	土師	杯	平安	−	(5.8)	(1.3)	●	◎	暗灰色・橙灰色/細砂◎，針△	
第34図146	本/旧河道 上層	土師	甕	奈良	(17.6)	−	(4.1)	●	×	暗橙褐色/砂粒◎，細砂●	ロクロ整形
第35図147	本/旧河道 上層	須恵	杯蓋	平安	−	(15.3)	(2.7)	◎	×	灰色/砂粒○，石英◎	
第35図148	本/旧河道 上層	須恵	杯蓋？	平安	−	−	(1.2)	●	×	暗灰色/砂粒◎，石英◎	
第35図149	本/旧河道 上層	灰釉	瓶子	平安	(14.8)	−	(1.7)	●	◎	灰白色/細砂○，黒色粒◎	
第35図150	本/旧河道 上層	灰釉	瓶子	平安	−	−	(11.0)	●	◎	灰色/砂粒●，石英●	
第35図151	本/旧河道 上層	須恵	壺	平安	−	(15.5)	(4.0)	●	×	淡灰色/砂粒●，石英△	
第35図152	本/旧河道 中層	須恵	甕	平安	(18.2)	−	(4.5)	●	×	灰白色・暗灰色/砂粒◎	
第35図153	本/旧河道 上層	須恵	壺	平安	−	−	−	◎	△	灰色/細砂●，針●，石英○	
第35図154	本/旧河道 上層	須恵	壺	平安	−	−	−	◎	◎	灰黄色/石英○，黒色粒◎	外面自然釉
第35図155	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	○	灰色/砂粒◎	
第35図156	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	△	×	灰白色/細砂●	
第35図157	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	○	灰白色/細砂●	
第35図158	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	○	灰色/細砂●，石英△，炭化粒△	
第35図159	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	×	灰色/砂粒◎，石英○，炭化粒○	
第35図160	本/旧河道 中層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	×	明灰色/砂粒●，石英◎	
第35図161	本/旧河道 中層	須恵	甕	平安	−	−	−	△	×	暗褐色/砂粒●，石英○	
第35図162	本/旧河道 上層	須恵	甕	平安	−	−	−	◎	○	灰色～灰白色/砂粒●	
第37図 10	本/旧河道	常滑	大甕	中世	−	−	−	◎	△	灰色・暗灰色/砂粒●，小礫○	

第６表　東山遺跡の遺物④　土製品・石製品

挿図	遺構/層位	区分	器種	寸法（cm）				重量	備考（石材等）
				長(高)	幅(径)	厚	孔径	(g)	
第13図 14	2T SX－1	土製品	臼形模造品	(3.3)	3.1	－	－	(17.6)	脚部欠損
第13図 15	2T 検出面一括	土製品	管状土錘	4.6	1.9	－	0.7	11.5	
第13図 16	2T 2層	土製品	碁石？	－	1.9	0.6	－	2.0	
第13図 17	2T 2層	土製品	泥面子	－	1.5	0.5	－	1.4	人面。
第19図 2	12T/SK－001	土製品	土玉	1.6	2.1	－	0.3	6.4	
第23図 8	15T 東側 8層	土製品	土玉	2.1	1.9	－	0.2	7.3	
第27図 3	1T 上層一括	土製品	泥面子？	(2.0)	1.5	0.6	－	(1.5)	「言わ猿」か？
第27図 4	1T 一括	石製品	火打石	2.3	1.5	1.4	－	4.4	玉髄/瑪瑙
第27図 24	16T 下層一括	土製品	勾玉形模造品	(4.2)	2.1	1.9	－	(15.7)	上下欠損。
第27図 27	16T 上層一括	石製品	火打石	2.3	2.5	1.6	－	12.3	玉髄/瑪瑙
第27図 28	16T 下層一括	石製品	火打石	3.1	2.2	1.3	－	8.3	玉髄/瑪瑙
第27図 29	16T 下層一括	石製品	火打石	4.0	1.8	1.1	－	7.8	チャート
第27図 30	16T 上層一括	石製品	砥石	(4.9)	3.1	1.6	－	(37.3)	砂岩。仕上砥。
第27図 31	16T 中層一括	石製品	砥石	(7.5)	2.8	2.0	－	(73.4)	砂岩。仕上砥。
第29図 14	本調査区/下層	石製品	砥石	(7.8)	(6.7)	3.6	0.9	(25.0)	軽石。
第29図 15	本調査区/下層	土製品	鏡形模造品	－	(5.0)	1.0	0.3	(19.0)	外周全欠。
第29図 16	本調査区/上層	土製品	管状土錘	4.3	2.0	－	0.8	13.8	瓢箪形，くびれ部径1.7cm。
第37図185	本/旧河道 中層	石製品	紡錘車	－	(3.8)	1.9	(0.7)	(21.4)	滑石。表裏線刻，半欠。
第37図186	本/旧河道 中層	石製品	紡錘車	－	3.3	1.3	0.7	25.8	滑石。
第37図187	本/旧河道 上層	土製品	不明	2.4	1.9	－	－	8.9	土弾？
第37図188	本/旧河道 上層	土製品	土玉	2.1	2.3	－	0.3	9.8	
第37図189	本/旧河道 中層	土製品	鏡形模造品？	－	4.5	1.2	－	20.9	表裏線刻，無孔。
第37図190	本/旧河道 上層	土製品	転用砥石	－	－	－	－	66.4	常滑甕破片の転用品

第７表　東山遺跡の遺物⑤　石器類

挿図	遺構/層位	区分	器種	寸法（cm）			重量	備考（石材等）
				長(高)	幅(径)	厚	(g)	
第19図 1	12T 一括	U－剥片	黒曜石	1.41	1.46	0.70	1.3	
第21図 2	14T 一括	剥片	黒曜石	2.38	2.70	1.05	5.2	楔形石器の削片
第26図 56	15T 西側 8層	剥片	黒曜石	2.84	4.15	1.75	14.9	
第26図 57	15T 東側 Ⅱ層	R－剥片	黒曜石	1.69	1.70	0.30	0.7	
第26図 58	15T 東側 Ⅱ層	剥片	ホルンフェルス	3.85	5.65	1.13	17.9	
第26図 59	15T 東側 Ⅱ層	楔形石器	黒曜石	3.40	1.70	1.33	7.1	
第26図 60	15T 東側 Ⅱ層	剥片	黒曜石	3.82	1.14	0.81	2.8	
第26図 61	15T 東側 Ⅱ層	剥片	黒曜石	4.70	1.56	1.25	6.4	
第26図 62	15T 東側 Ⅱ層	剥片	黒曜石	1.70	2.45	1.12	4.2	
第26図 63	15T 東側 Ⅱ層	剥片	黒曜石	2.60	2.70	0.85	3.8	
第26図 64	15T 東側 Ⅱ層	楔形石器	黒曜石	2.22	2.25	0.88	3.5	
第26図 65	15T拡張区 下層	楔形石器	安山岩	2.91	3.73	1.54	16.4	
第29図 5	本調査区/排水溝	石鏃	チャート	2.71	2.68	0.83	5.1	平基無茎鏃，先端欠損
第29図 6	本調査区/排水溝	石鏃	黒曜石	2.20	(1.16)	0.38	(0.9)	凹基無茎鏃，半欠
第29図 7	本調査区/上層	楔形石器	安山岩	2.59	3.33	1.50	11.7	両極石核か？
第29図 8	本調査区 SK－001	剥片	ホルンフェルス	3.96	4.80	1.05	19.4	
第29図 9	本調査区/SB－002	打製石斧	安山岩？	(5.79)	4.43	1.85	(51.9)	
第29図 10	本調査区/下層	打製石斧	ホルンフェルス？	7.31	6.23	3.38	194.3	分銅形
第29図 11	本調査区/SB－002	磨製石斧	ホルンフェルス？	(5.28)	5.85	3.70	(151.9)	
第29図 12	本調査区/下層	磨石	安山岩	(3.70)	(6.20)	(2.80)	(88.0)	楕円形？
第29図 13	本調査区/SB－002	磨石	砂岩	(7.40)	3.90	3.00	(164.8)	
第36図163	本/旧河道 上層	U－剥片	黒曜石	2.04	1.77	0.62	1.5	
第36図164	本/旧河道 上層	楔形石器	黒曜石	2.68	1.70	0.89	4.1	
第36図165	本/旧河道 中層	楔形石器	黒曜石	1.85	1.37	0.92	2.2	
第36図166	本/旧河道 中層	剥片	黒曜石	2.18	1.76	0.72	2.7	
第36図167	本/旧河道 上層	剥片	黒曜石	5.79	3.45	1.44	24.4	
第36図168	本/旧河道 上層	剥片	粘板岩	2.93	3.62	0.65	6.5	
第36図169	本/旧河道 上層	剥片	粘板岩	2.17	3.32	0.89	6.6	
第36図170	本/旧河道 上層	打製石斧	ホルンフェルス	(4.11)	6.88	1.45	(46.0)	半分以上欠損
第36図171	本/旧河道 中層	磨石	安山岩	7.90	6.20	3.50	283.2	楕円形
第36図172	本/旧河道 中層	磨石	砂岩	(5.80)	(6.10)	(2.80)	(132.8)	
第36図173	本/旧河道 中層	敲石	砂岩	11.80	5.80	4.90	489.9	
第36図174	本/旧河道 上層	敲石	閃緑岩	(5.80)	7.20	3.20	(234.8)	
第36図175	本/旧河道 中層	敲石	砂岩	(4.40)	4.00	4.50	(118.8)	
第36図176	本/旧河道 上層	敲石	砂岩	(4.30)	(4.70)	(3.00)	(83.1)	
第36図177	本/旧河道 中層	敲石	玄武岩	(4.30)	5.40	4.50	(177.1)	
第36図178	本/旧河道 中層	敲石	砂岩	(8.40)	4.80	(3.40)	(219.4)	
第36図179	本/旧河道 上層	敲石	砂岩	(7.50)	(5.30)	6.80	(390.4)	
第36図180	本/旧河道 中層	磨石/台石	砂岩	11.90	8.40	3.70	649.6	
第37図181	本/旧河道 上層	扁平片刃石斧	ホルンフェルス	6.10	4.05	1.22	46.4	
第37図182	本/旧河道 上層	太型蛤刃石斧	ホルンフェルス	(4.45)	6.82	3.64	(144.3)	
第37図183	本/旧河道 中層	磨製石斧	ホルンフェルス	7.57	3.72	1.52	51.7	表裏磨耗顕著

写　真　図　版

図版1

遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影，1：10,000）

図版 2　（長須賀条里制遺跡）

第 1 トレンチ検出状況（東から）

第 2 トレンチ検出状況（東から）

第 2 トレンチ完掘全景（北東から）

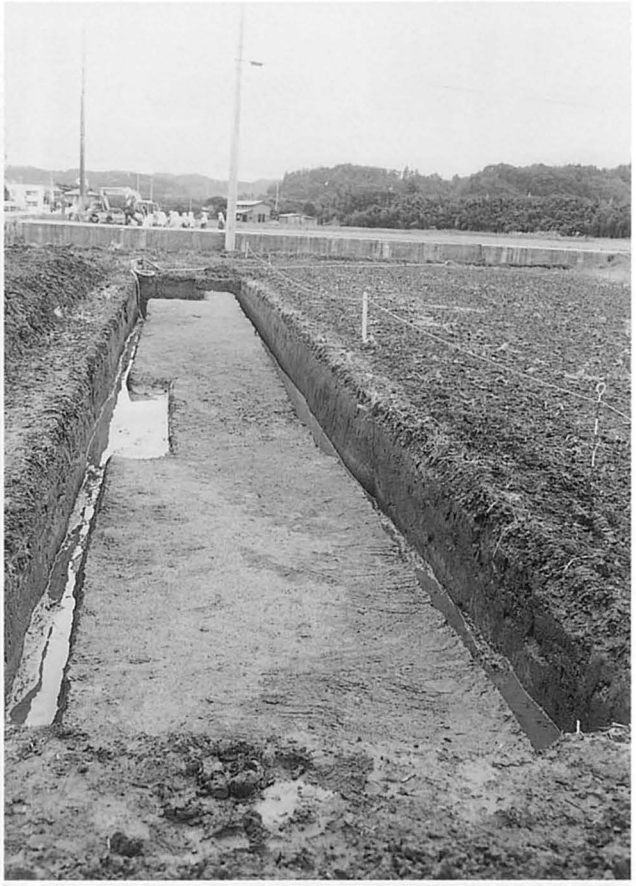
第 2 トレンチ拡張区完掘全景（北西から）

第 3 トレンチ検出状況（西北西から）

第 3 トレンチ完掘全景（西南西から）

第 2 トレンチ完掘全景（東から）

第 2 トレンチ検出状況（西から）



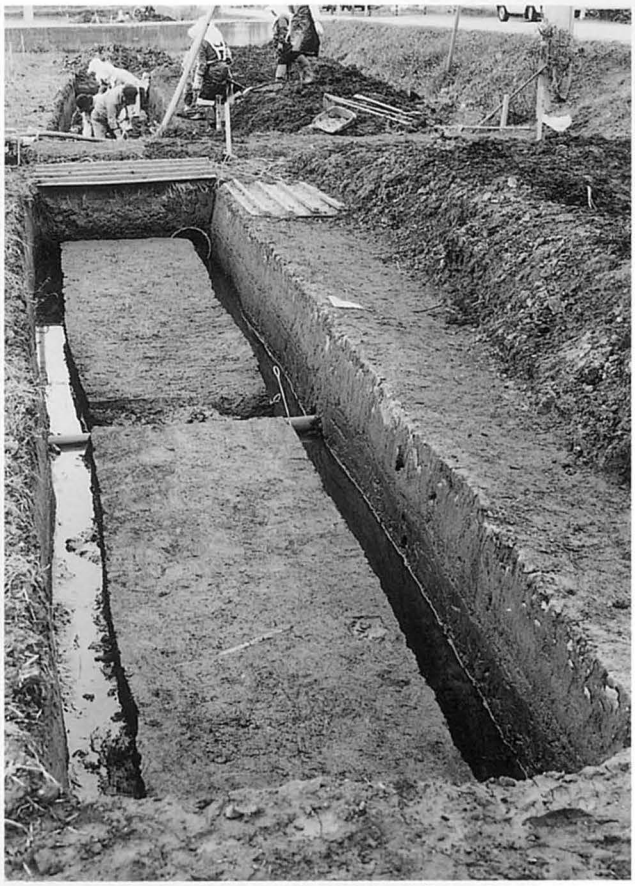
第 3 トレンチ検出状況（西から）

第２トレンチ完掘全景（北西から）

第２トレンチSD－002完掘全景
（北西から）

第３トレンチウシ足跡検出状況
（北北東から）

第 3 トレンチ中央付近全景（西から）



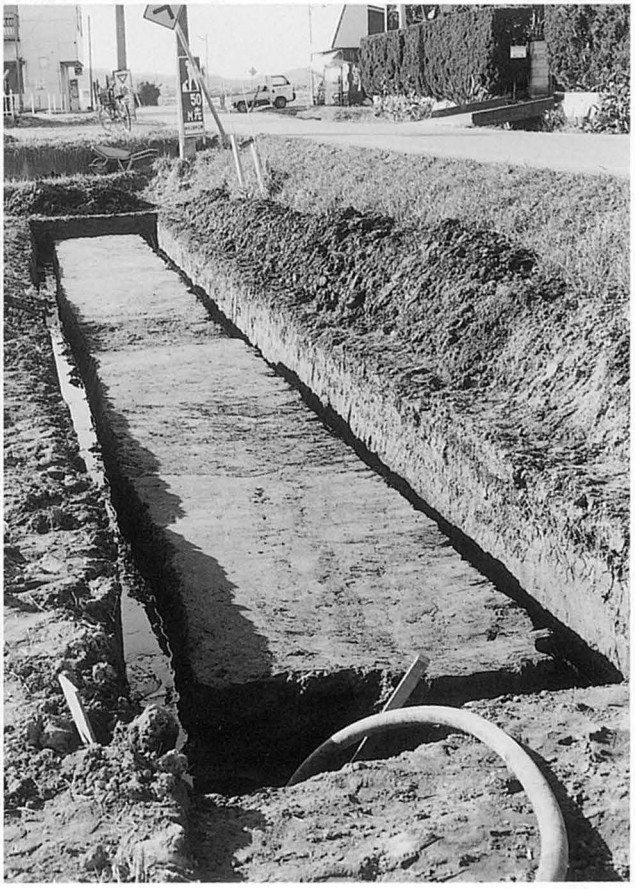
第 5 トレンチ検出状況（東から）

第 4 トレンチ検出状況①（北東から）

第 4 トレンチ検出状況（西から）

第 7 トレンチ検出状況（東から）

第 9 トレンチ検出状況（南西から）



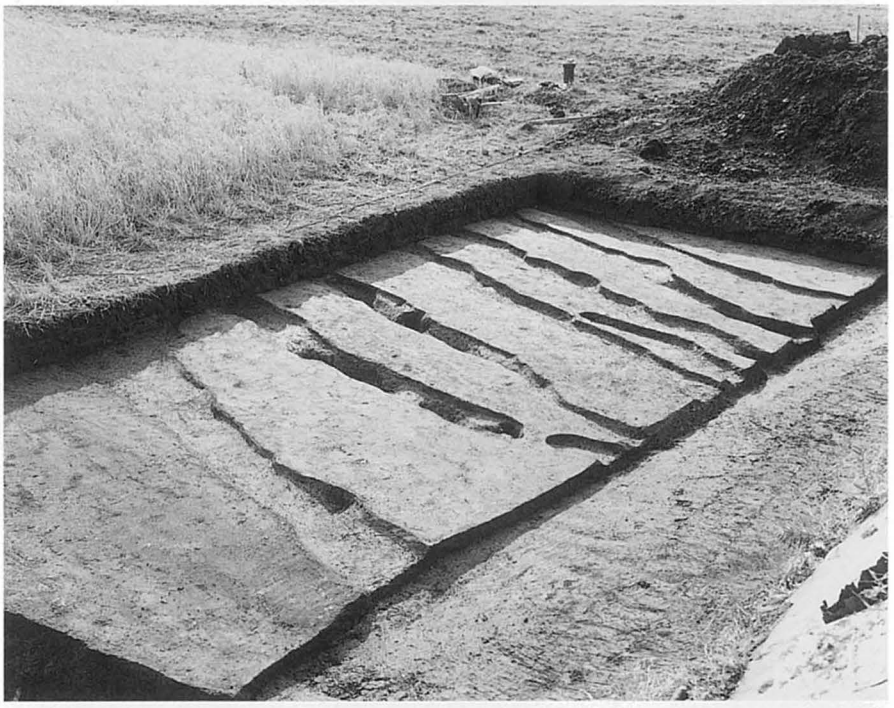
第 9 トレンチ検出状況（東南東から）

第 8 トレンチ検出状況（西から）

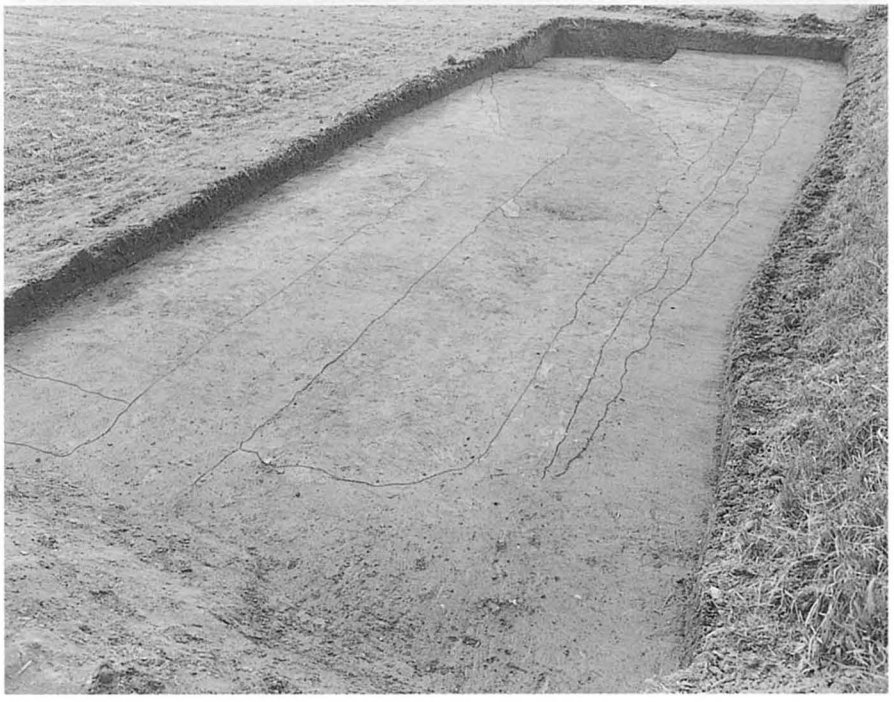
第10トレンチ検出状況（北東から）

第11トレンチ旧河道木質出土状況（東から）

第12トレンチSK－１全景
（西から）



第13トレンチ完掘全景
（東北東から）



第14トレンチ検出状況
（北西から）

第15トレンチ小区画水田跡

第15トレンチSX－1

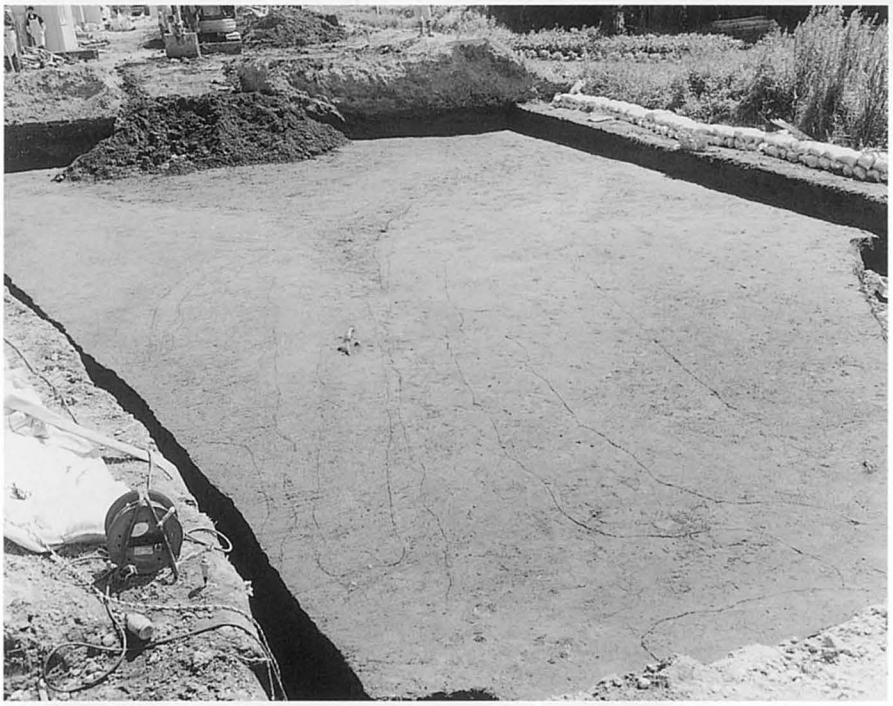
第15トレンチ検出状況（東から）

第15トレンチ検出状況（東から）

第16トレンチ検出状況

図版12 （東山遺跡本調査区）

上層検出状況（北東から）



上層検出状況（北西から）

上層断面（西から）

全景①（南西から）

全景②（南東から）

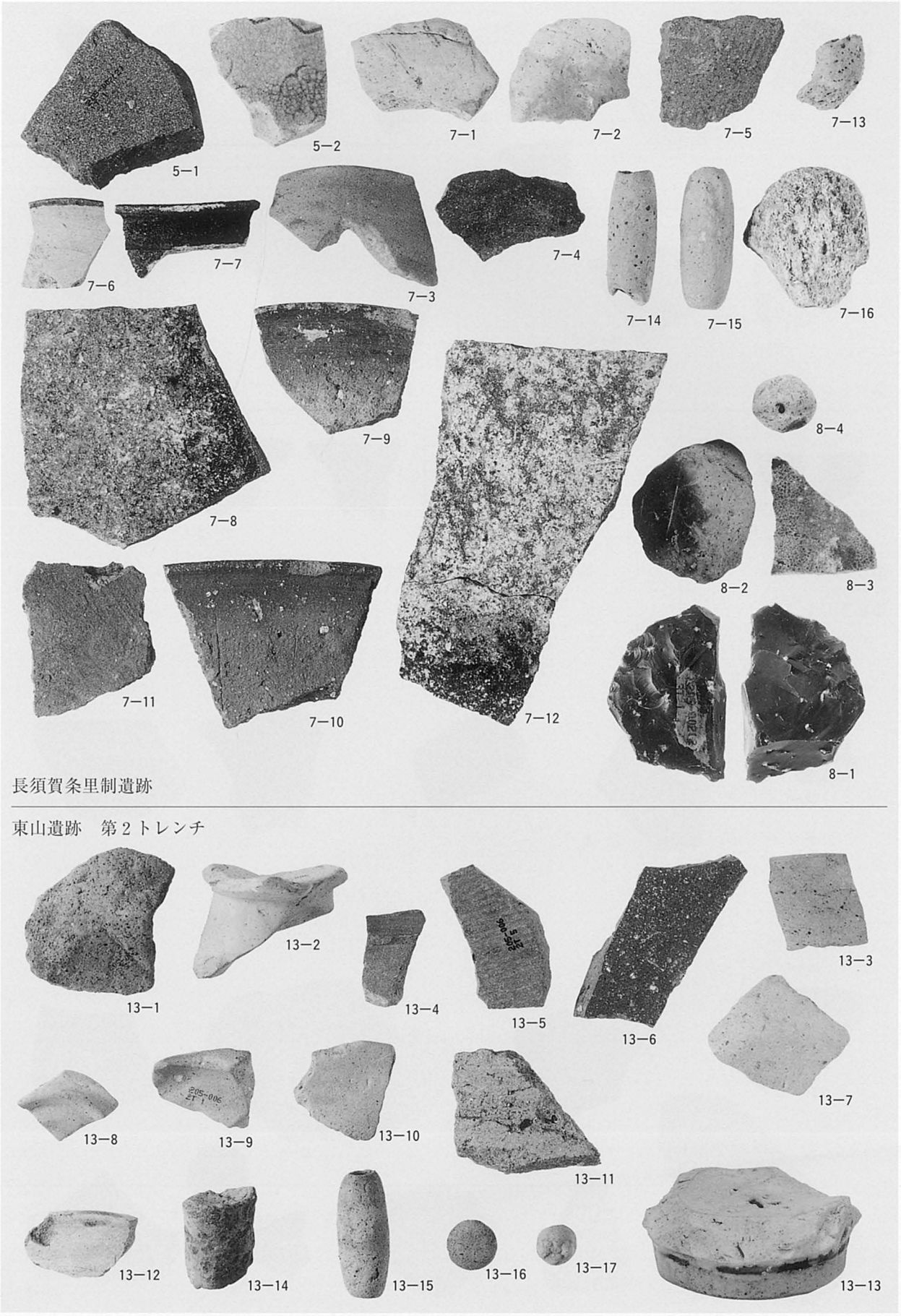
全景③（北東から）

図版14 （東山遺跡本調査区）

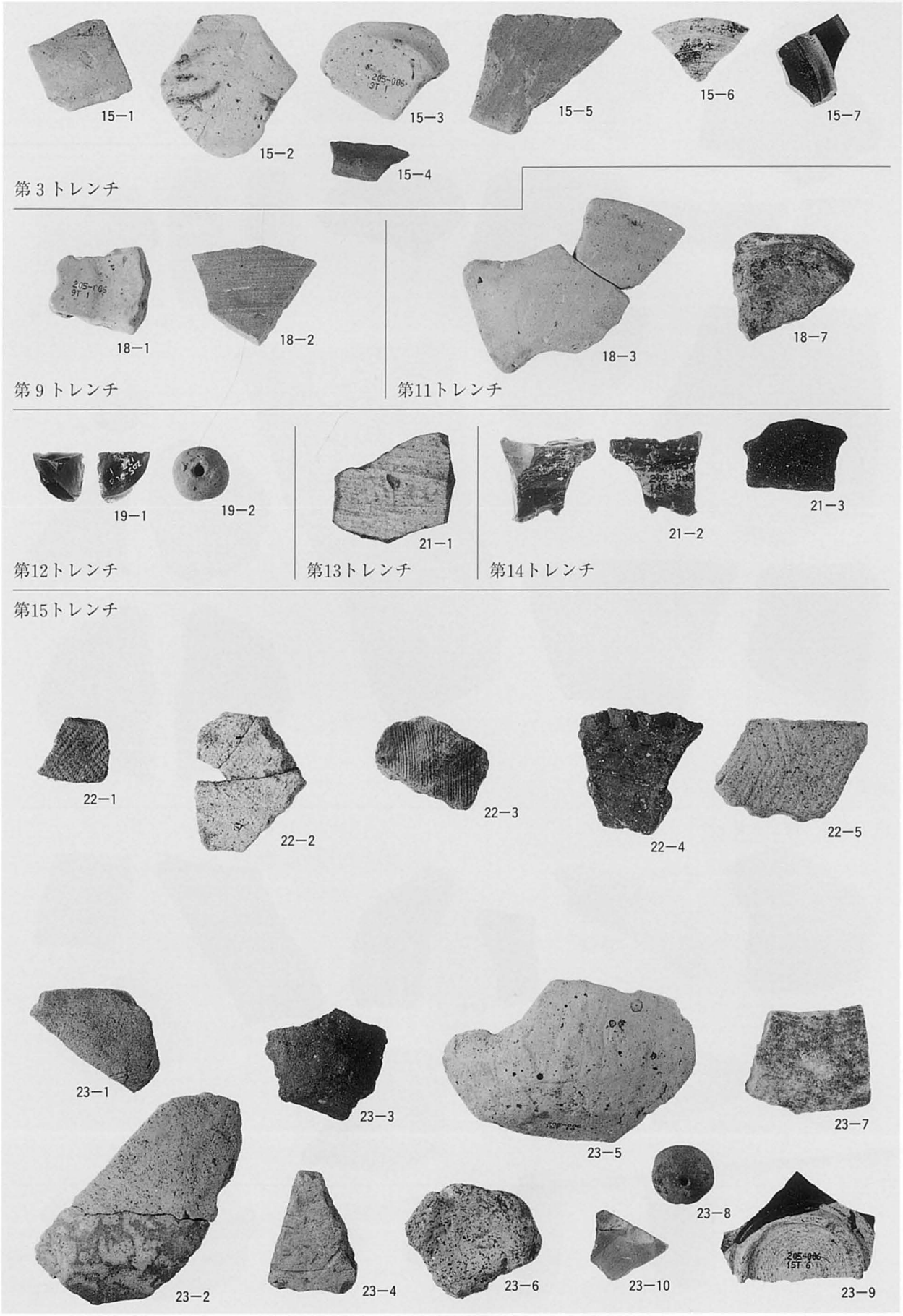
全景④（北西から）

ピット群全景①（西から）

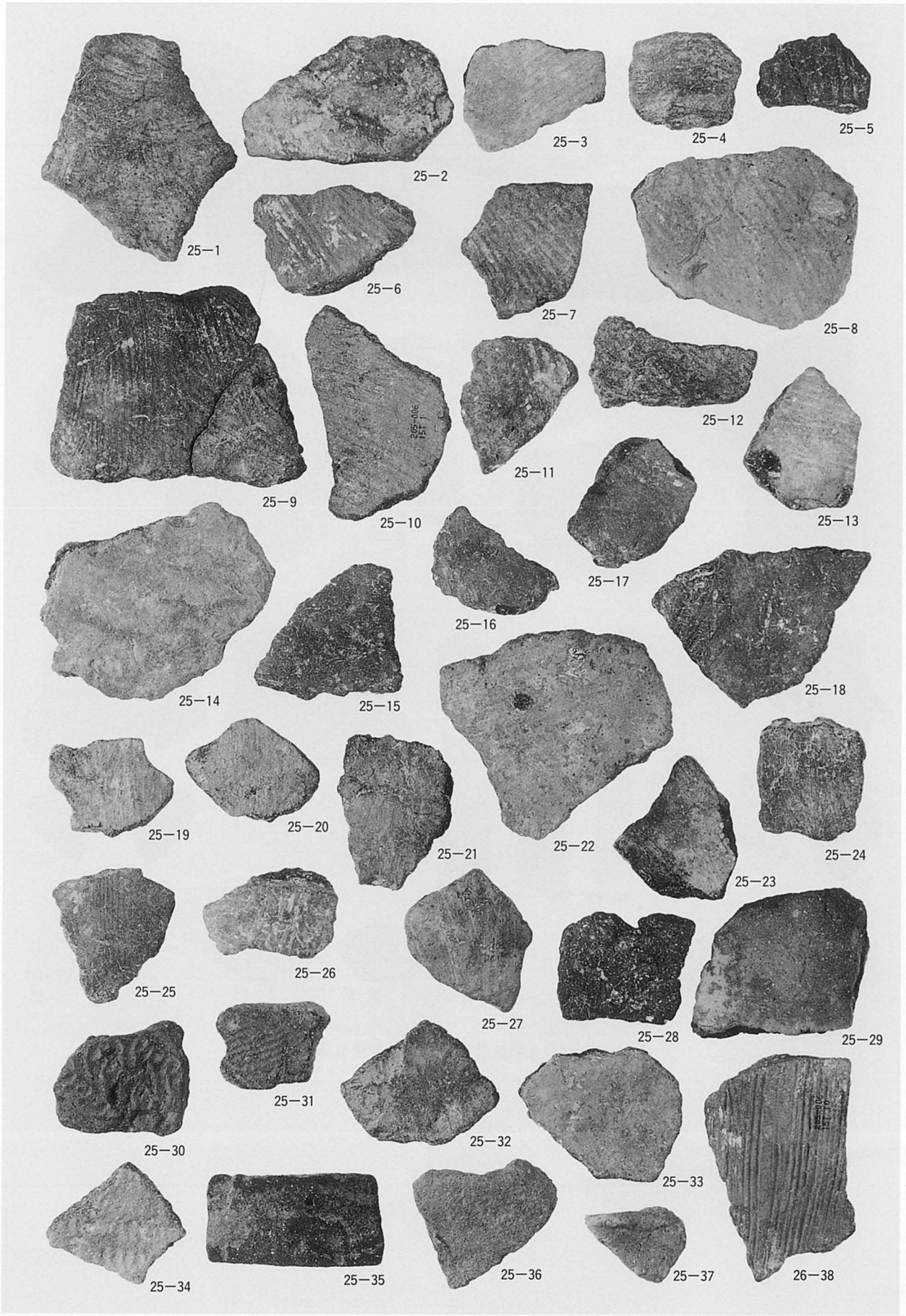
ピット群全景②（東から）



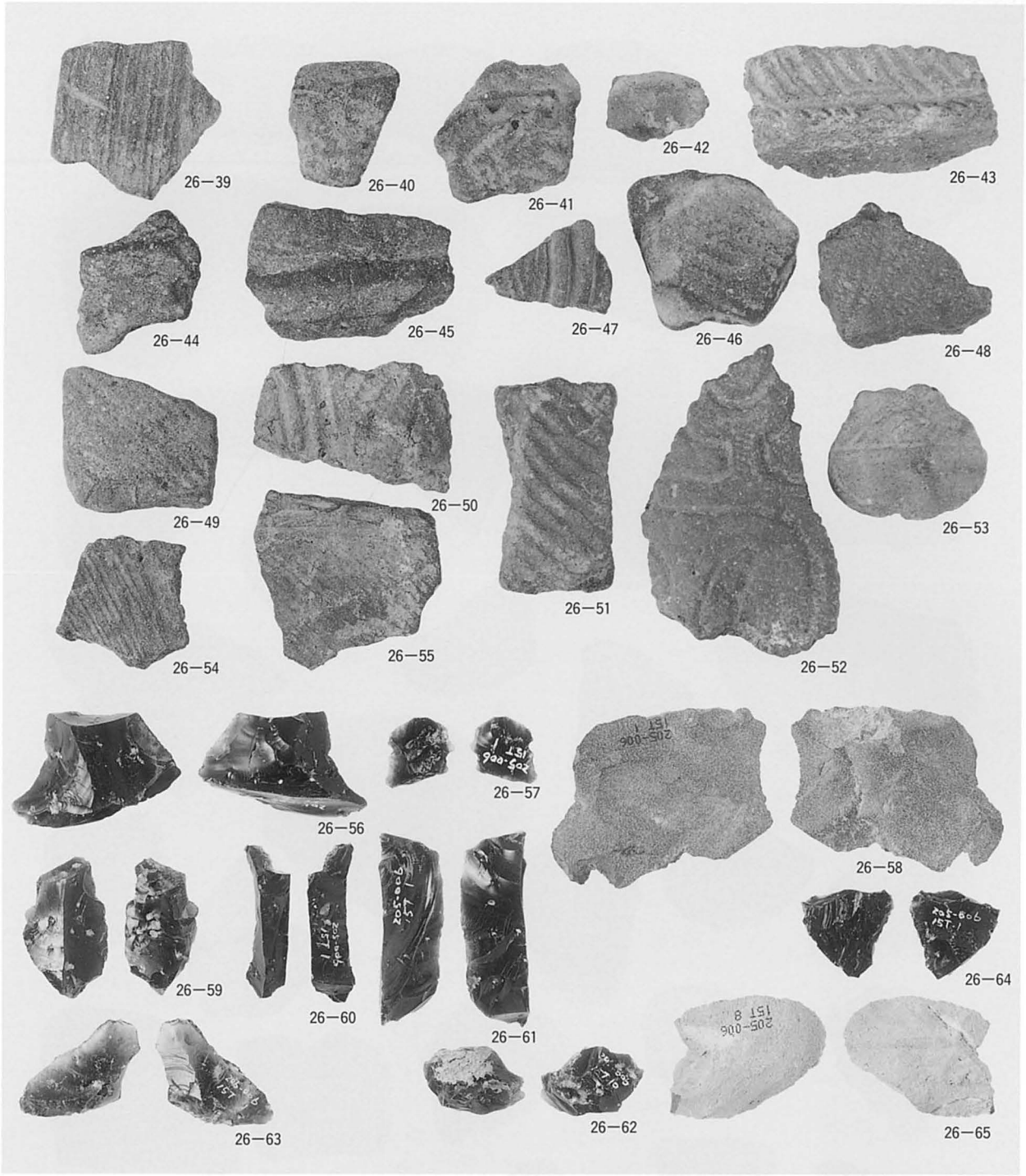
出土遺物①（長須賀条里制遺跡・東山遺跡第２トレンチ）



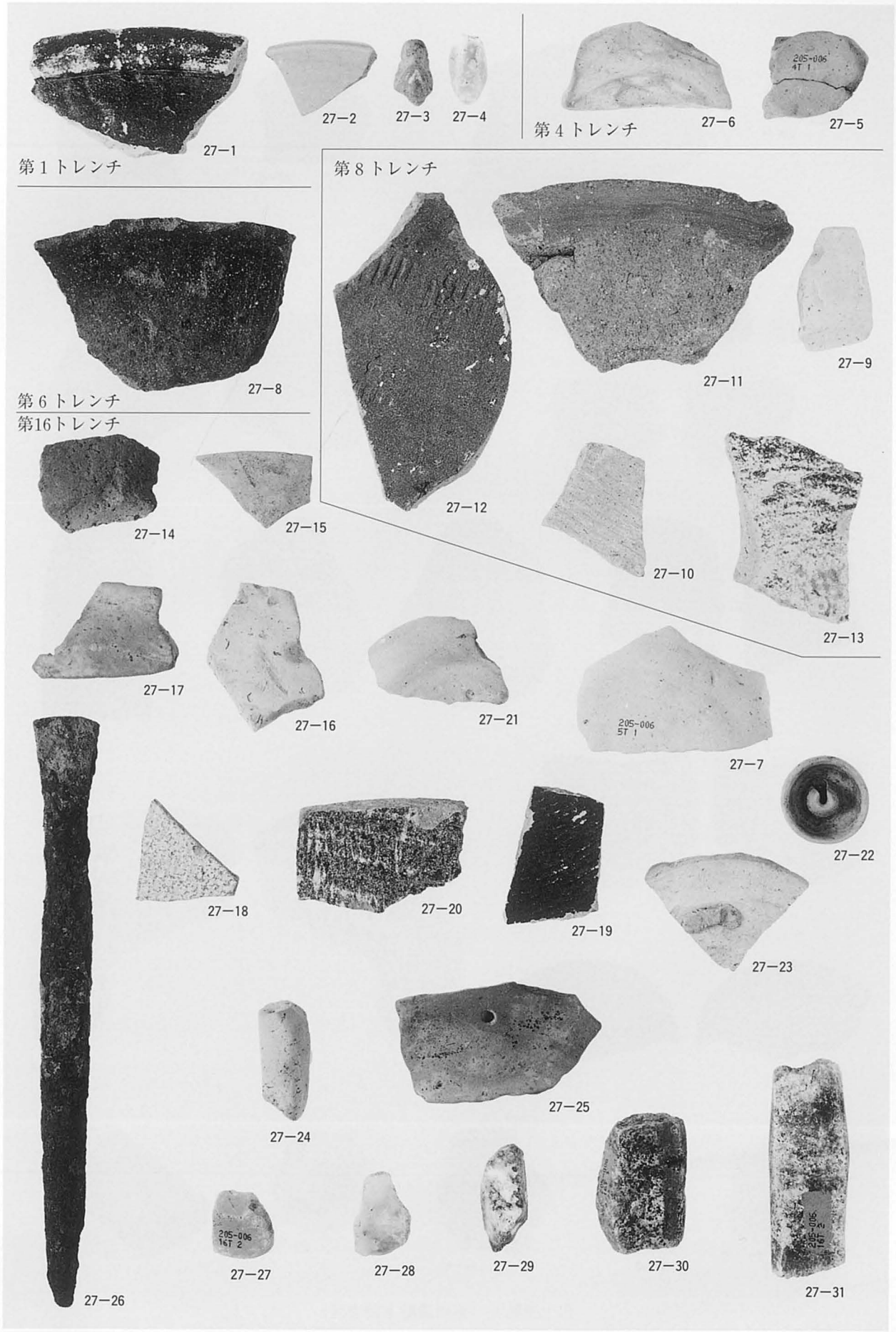
出土遺物②（東山遺跡第３・９・11～１トレンチ）



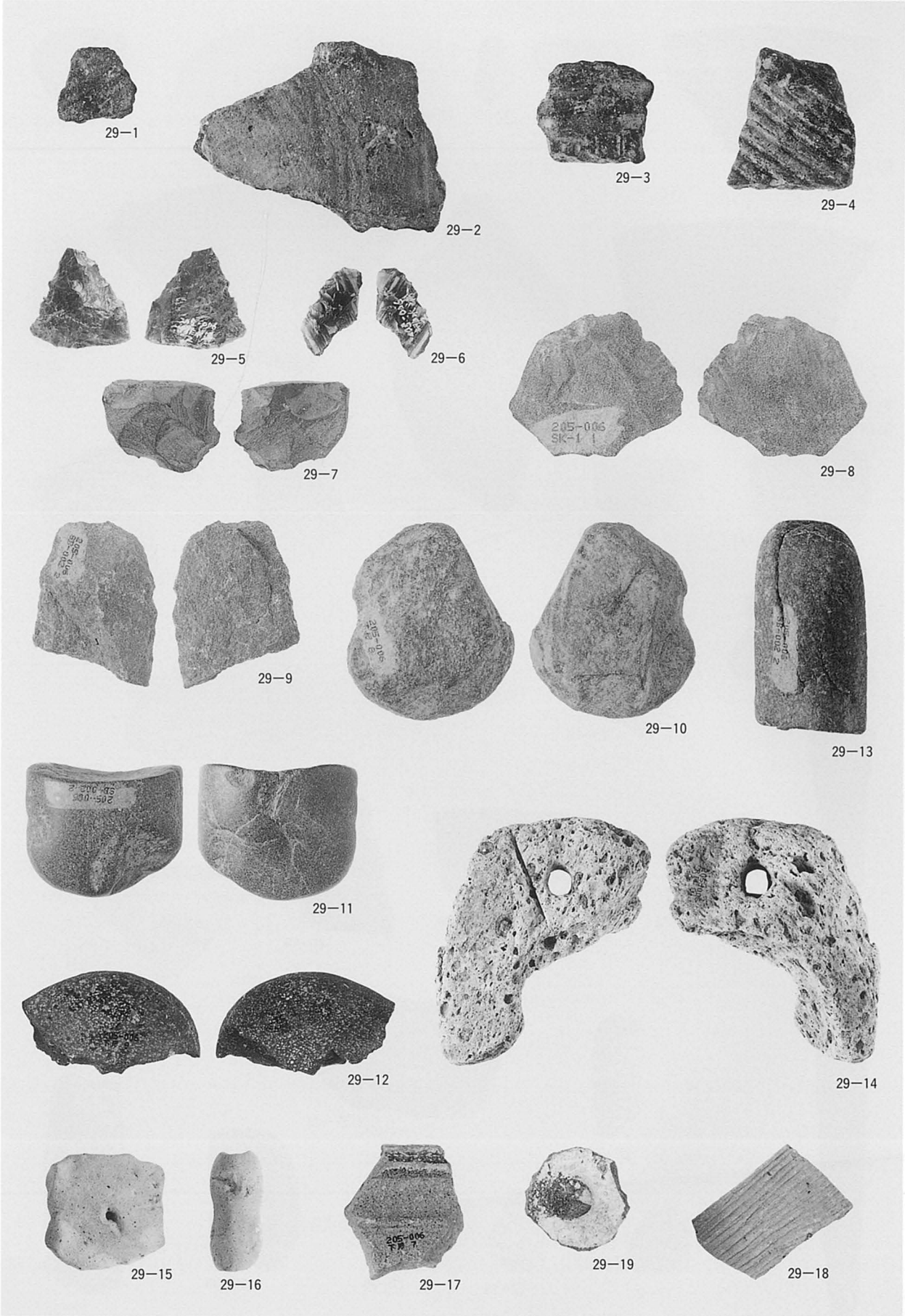
出土遺物③（東山遺跡第15トレンチ拡張区①）



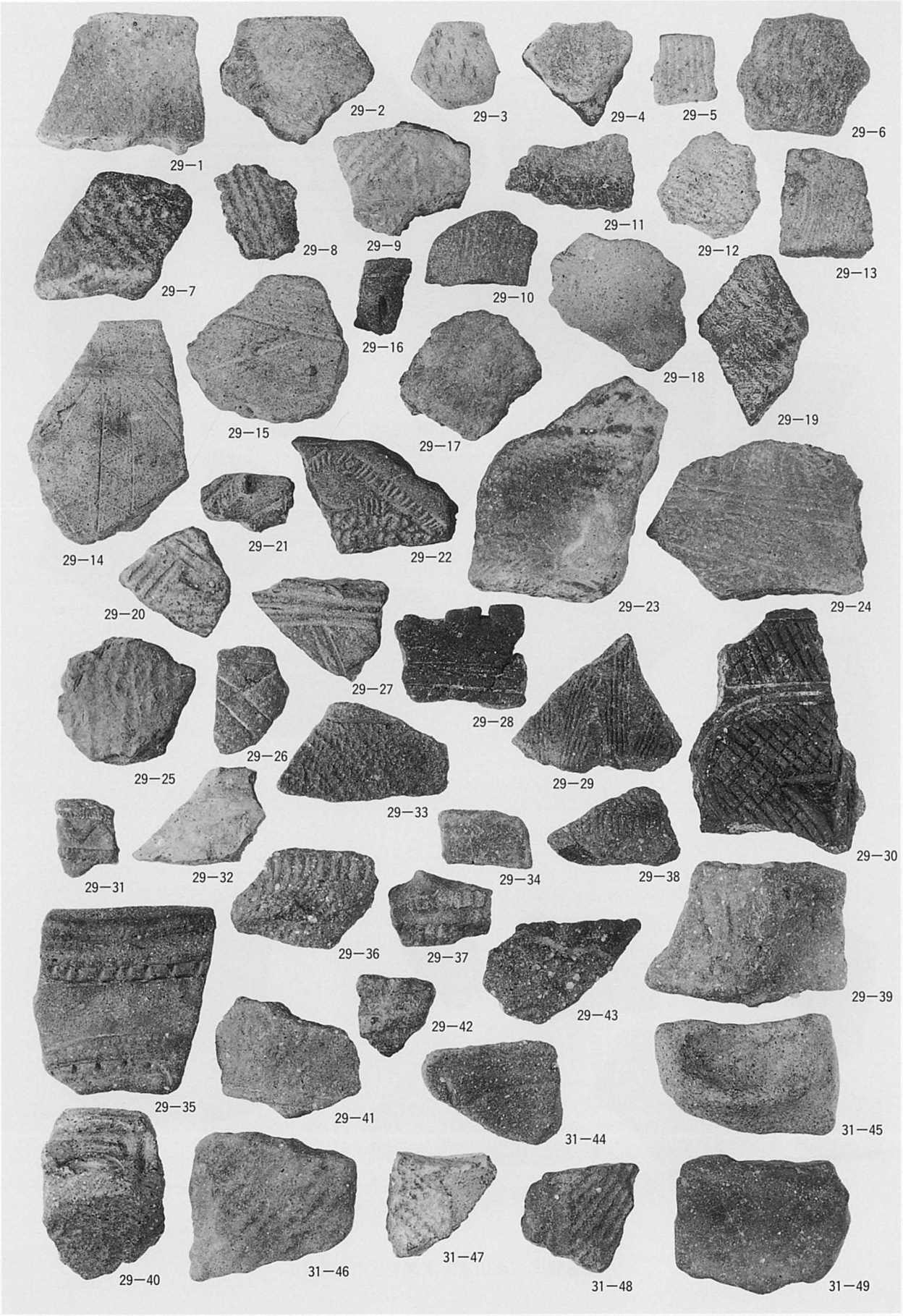
出土遺物④（東山遺跡第15トレンチ拡張区②）



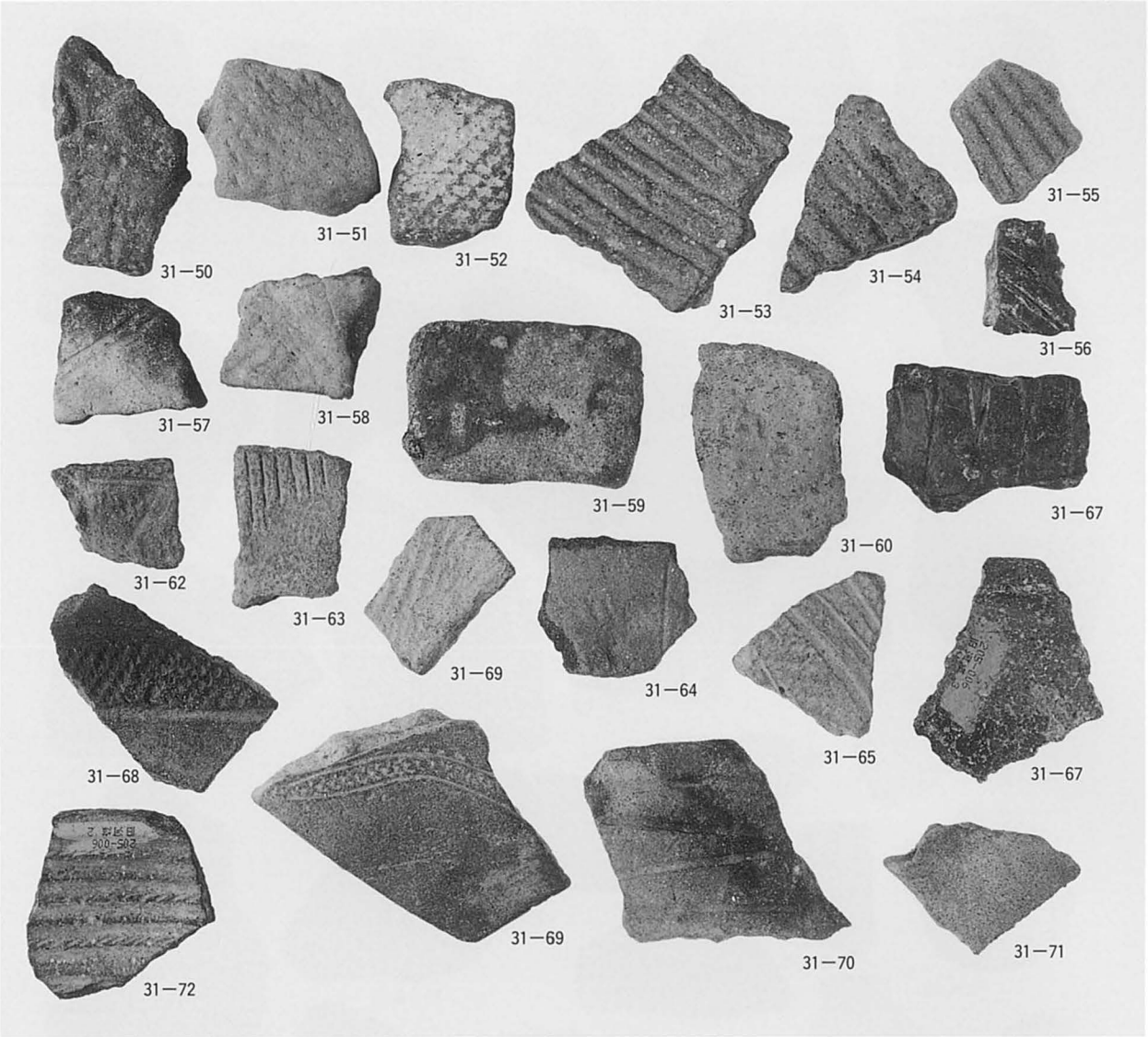
出土遺物⑤（東山遺跡第１・４～６・８・16トレンチ）

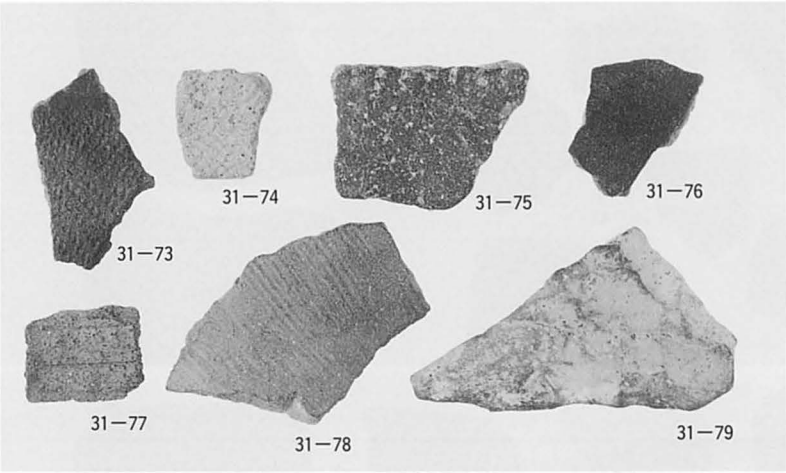


出土遺物⑥（東山遺跡本調査区）

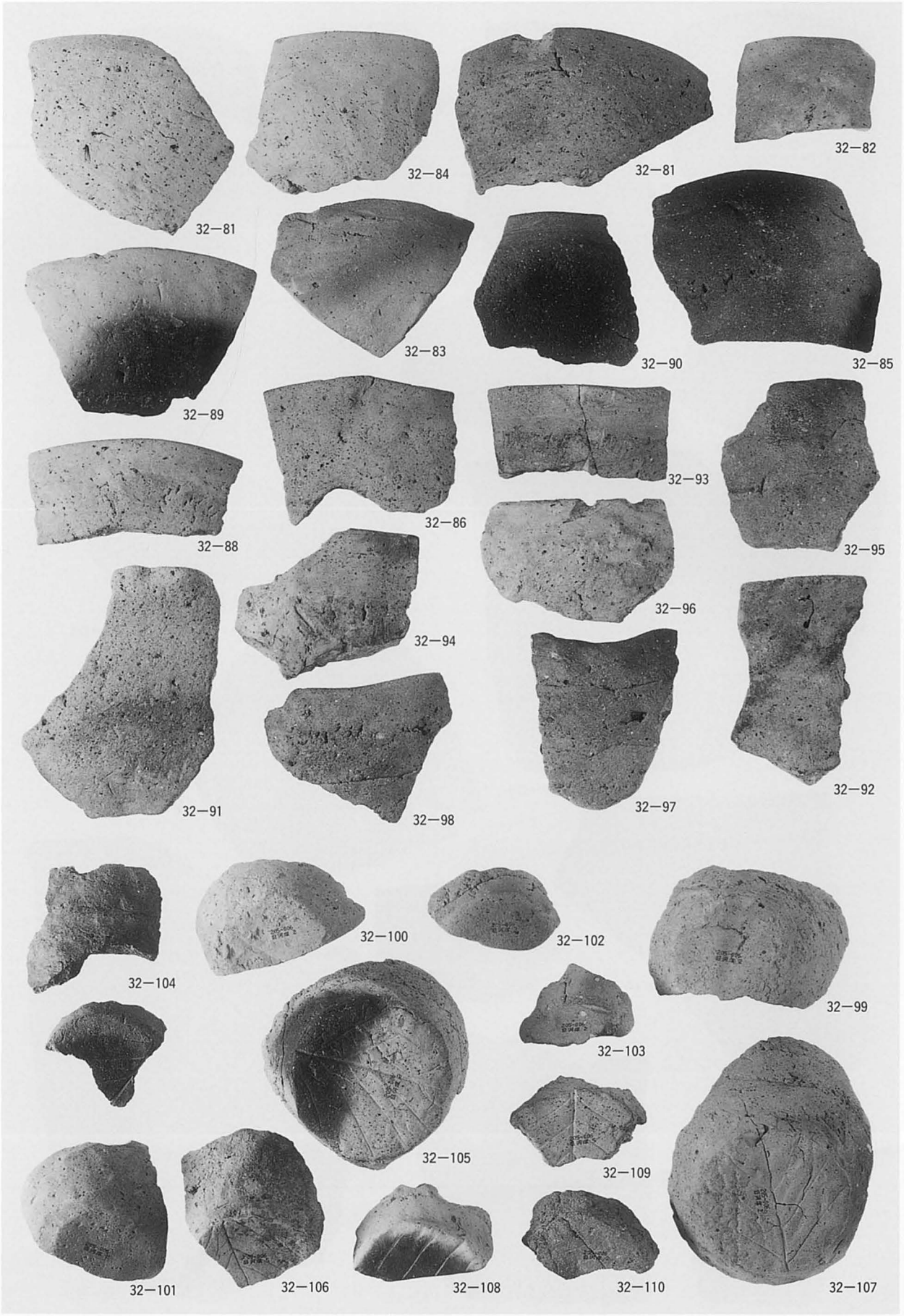


出土遺物⑦（東山遺跡本調査区旧河道①）

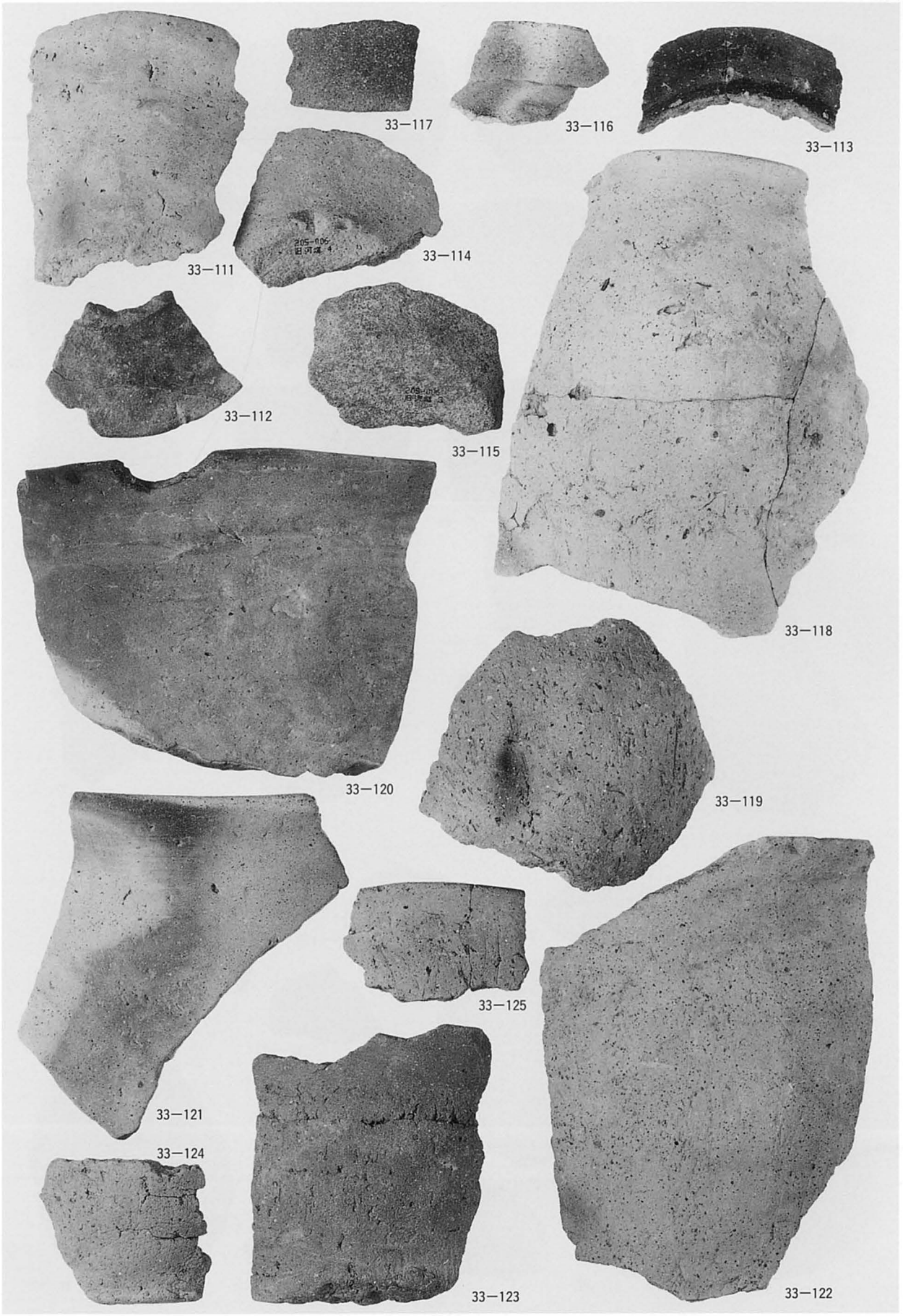




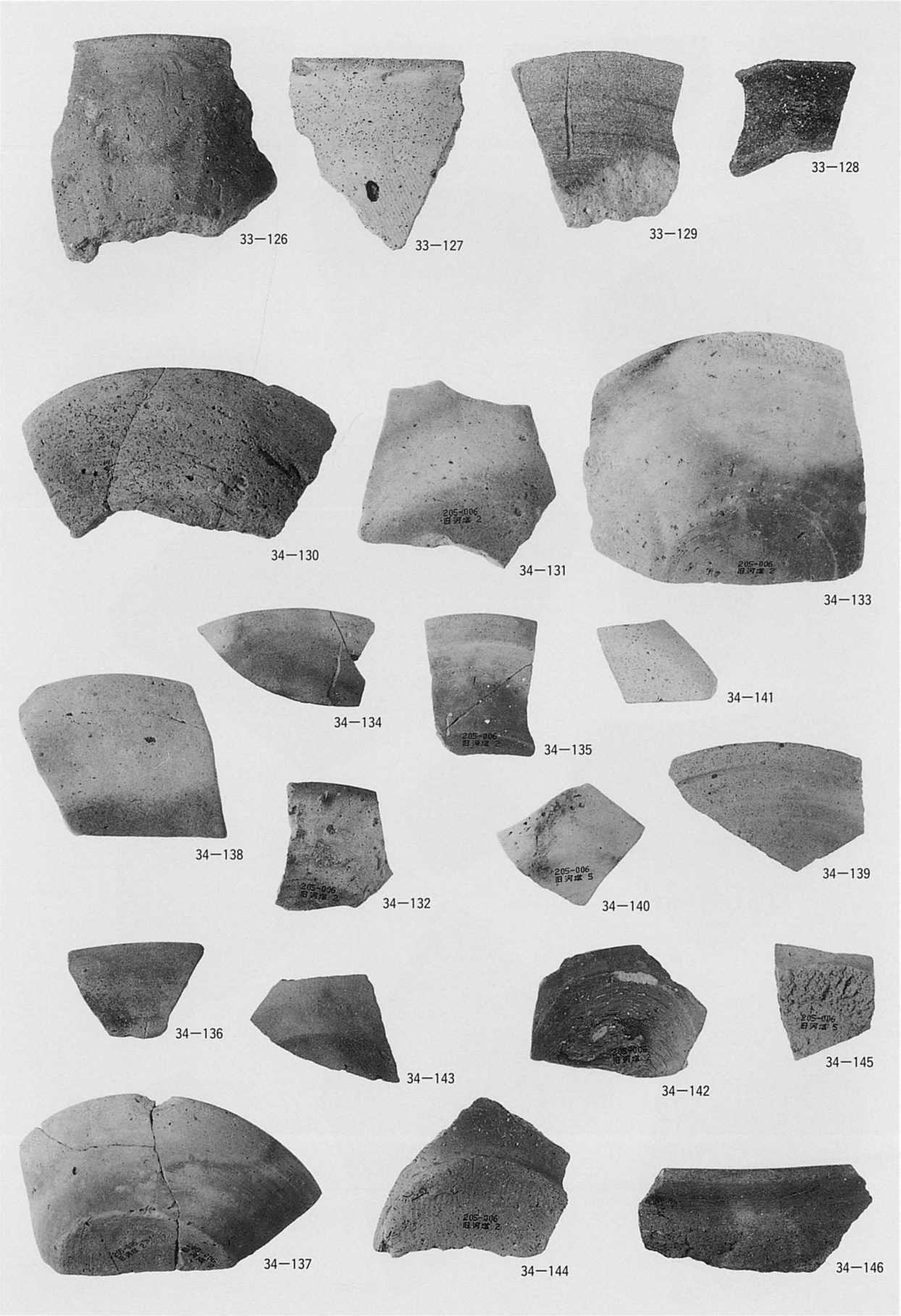
出土遺物⑧（東山遺跡本調査区旧河道②）



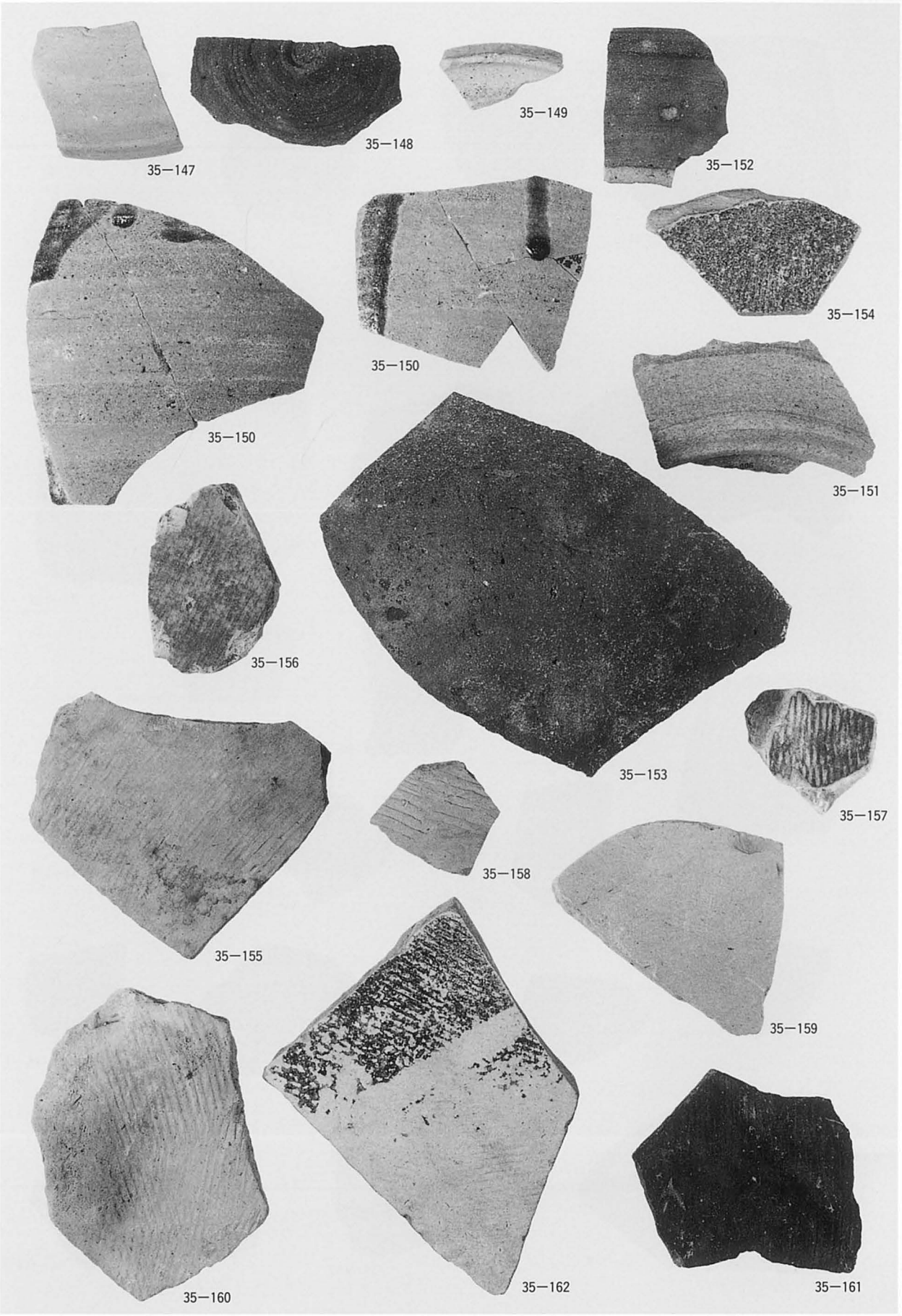
出土遺物⑨（東山遺跡本調査区旧河道③）



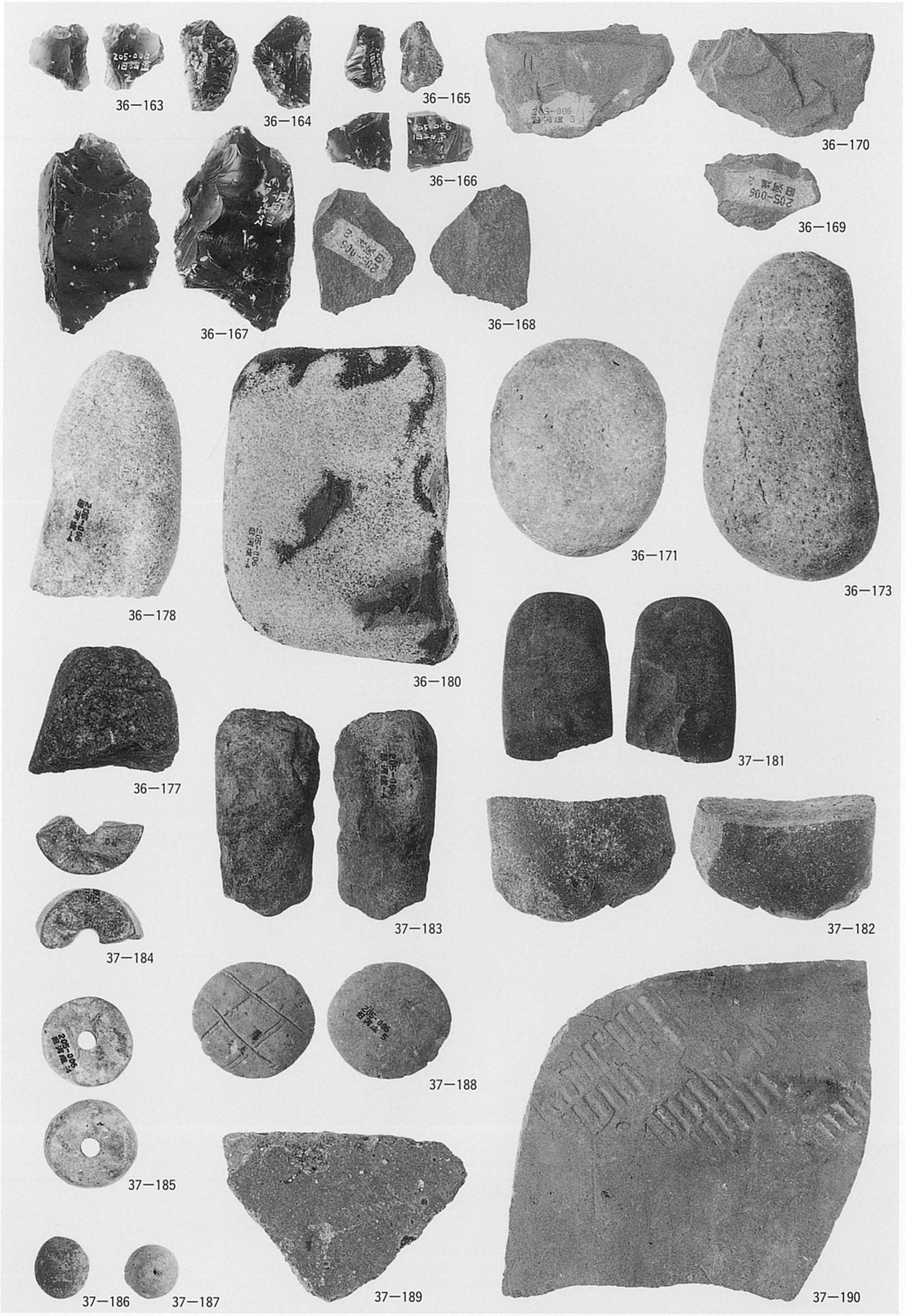
出土遺物⑩（東山遺跡本調査区旧河道④）



出土遺物⑪（東山遺跡本調査区旧河道⑤）



出土遺物⑫（東山遺跡本調査区旧河道⑥）



出土遺物⑬（東山遺跡本調査区旧河道⑦）

報告書抄録

ふりがな	きんきゅうちほうどうろせいびいたく(たてやまおおぬきちくらせん)まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	緊急地方道路整備委託（館山大貫千倉線）埋蔵文化財調査報告書
副書名	館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第502集
編著者名	城田義友
編集機関	財団法人千葉県文化財センター
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809－2　　TEL 043－422－8811
発行年月日	西暦　2005年3月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
長須賀条里制（ながすかじょうりせい）	千葉県館山市（ちばけんたてやまし）下真倉字舞台（しもさなぐらあざぶたい）ほか	12205	002(2)	34度58分38秒	139度52分38秒	19991006～10001112	1,843	緊急地方道路整備委託（館山大貫千倉線）建設に伴う調査
東山（ひがしやま）	千葉県館山市（ちばけんたてやまし）南条（なんじょう）・飯沼（いいぬま）・大戸（おおと）・作名（さくな）ほか	12205	006	34度58分25秒	139度53分15秒	19991006～10001224 20030901～20030930	4,950 231.0	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長須賀条里制	生産遺跡 集落跡	奈良・平安 中世	条里区画水田畦畔 ピット群，溝状遺構	土師器･須恵器 青磁,国産陶磁器,銭貨	条里区画水田畦畔は坪畦畔と考えられる。
東山	包蔵地 生産遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世	なし 小区画水田 旧流路，溝状遺構 溝状遺構，土坑 井戸，ピット群，土坑，旧河道	縄文土器，石器，剥片 弥生土器，石器 土師器・須恵器 土師器・須恵器，灰釉陶器 青磁，国産陶磁器，鉄製品	縄文土器は，主に小区画水田基盤層となる再堆積土層から出土。古墳時代～平安時代の遺物は主に旧河道から出土。

千葉県文化財センター調査報告第502集

緊急地方道路整備委託(館山大貫千倉線)埋蔵文化財調査報告書

— 館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡 —

平成17年3月25日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　千葉県県土整備部
千葉市中央区市場町

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地2

印　　刷　　株式会社　正文社
千葉市中央区都町1-10-6